

男女共同参画に関する 市民意識調査報告書

平成 28 年（2016 年）2 月

磐 田 市

目 次

I 調査の概要	1
II 調査回答者の属性	3
III 調査の要旨	7
IV 調査結果	15
1 社会における制度・慣行について	
(1) 社会全体における男女平等感	15
(2) 各分野における男女平等感	17
(3) 男女の役割を固定的に考えることに関する意識	26
(4) 仕事、家事、育児、介護についての関わり方について	27
2 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて	
(1) ドメスティックバイオレンスの経験	29
(2) ドメスティックバイオレンスをなくすために重要なこと	31
(3) セクシュアル・ハラスメントの経験	34
3 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について	
(1) 家庭での役割分担	36
(2) 男性の育児休業や介護休業の取得について	41
4 意思決定の過程への女性の参画について	
(1) 各分野における女性の意見の反映状況	44
(2) 意思決定の場に女性が参画すること	47
(3) 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由	48
5 男女が共に能力を発揮できる就業環境について	
(1) 仕事の退職・中断・転職経験と理由	50
(2) 職場での男女の不平等について	53
(3) 女性が職業を持つことについての考え方	58
(4) 女性が職業を持つことの現実	60
(5) 女性が働く上で障害となること	62
6 地域社会の一員としての活動について	
(1) 仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度	64
(2) 仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度	67
(3) 積極的に参加していくために必要なこと	70
7 実践的な取組の推進について	
(1) 「磐田市男女共同参画センターともしあ」の利用有無	73
(2) 「磐田市男女共同参画センターともしあ」に期待している役割	74
(3) 男女共同参画社会に関する知識	76
(4) 男女共同参画社会の実現のために重要な取組	80

調査票

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態、要望等を把握し、今後の行政施策推進の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の内容

- (1) 社会における制度・慣行について
- (2) 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- (3) 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について
- (4) 意思決定の過程への女性の参画について
- (5) 男女が共に能力を発揮できる就業環境について
- (6) 地域社会の一員としての活動について
- (7) 実践的な取組の推進について

3 調査実施概要

- (1) 調査地域 磐田市全域
- (2) 調査対象 市内に在住する満20歳以上の男女3,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から等間隔抽出法
- (4) 調査方法 郵送回収
- (5) 調査期間 平成27年10月31日～11月23日

4 調査機関

株式会社トムス

5 回収結果

	発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
全体	3,000	1,647	1,646	54.9%

※全体の有効回収数は、無効票（白票）1件を除き、性別不明の5件を含む

※ 本調査は、「男女共同参画」「多文化共生」の2分野を合わせた「磐田市 男女共同参画・多文化共生に関する市民意識調査」として、調査を実施している。

本報告書は、「男女共同参画」に関する調査項目をまとめたものである。

6 報告書内のデータ、記述について

- (1) 比率はすべて百分比であらわし、小数点以下第2位を四捨五入している。このため百分比の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき調査数は、Nまたは調査数と表示しており、回答比率はこれを100%として算出した。
- (3) 質問の選択肢から複数の回答を認めている場合、比率の合計は100%を超える。

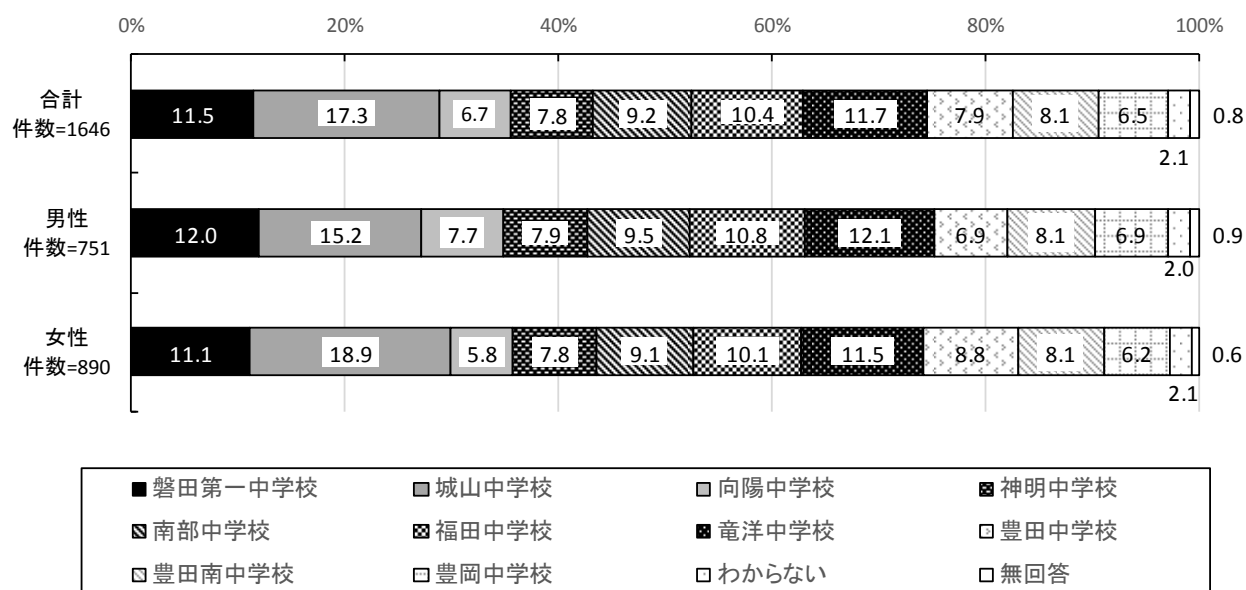
7 回収結果で、過去の調査結果と比較できる質問は、“調査結果の経年比較”として後述している。以下、過去に行われた調査の概要を示す。

	男女共同参画社会をめざす市民意識調査
調査対象	磐田市内に在住する満20歳以上の男女
調査方法	郵送回収
調査期間	平成17年7月25日～8月19日
標本数	3,000人
回収数	1,488人（有効回収率49.6%）

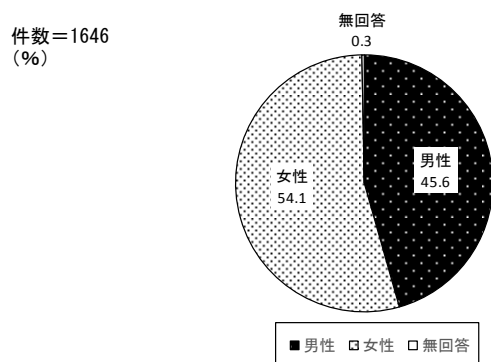
Ⅱ 調査回答者の属性

Ⅱ 調査回答者の属性

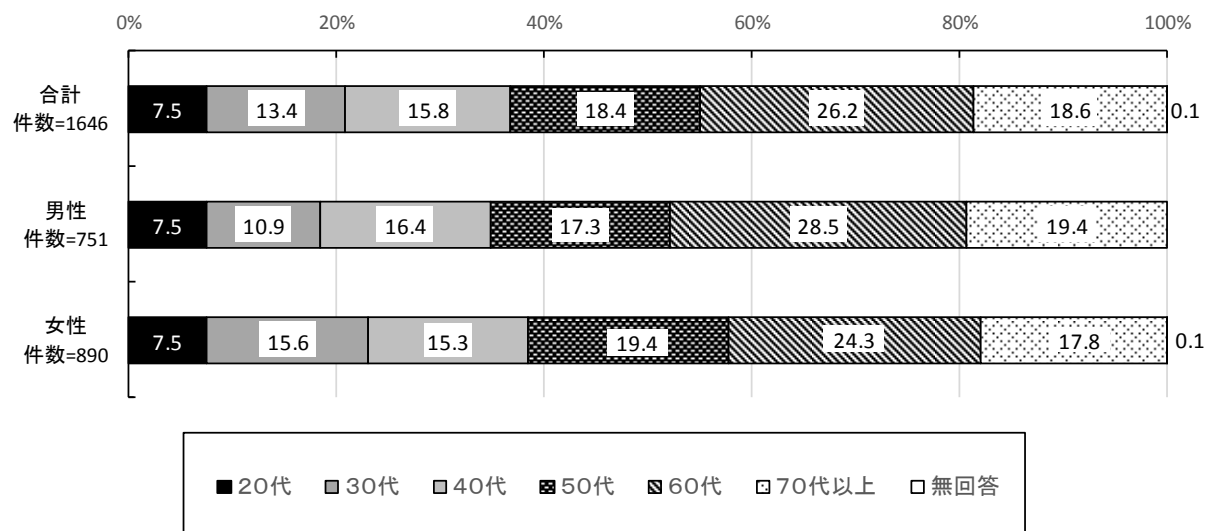
F 1 中学校区



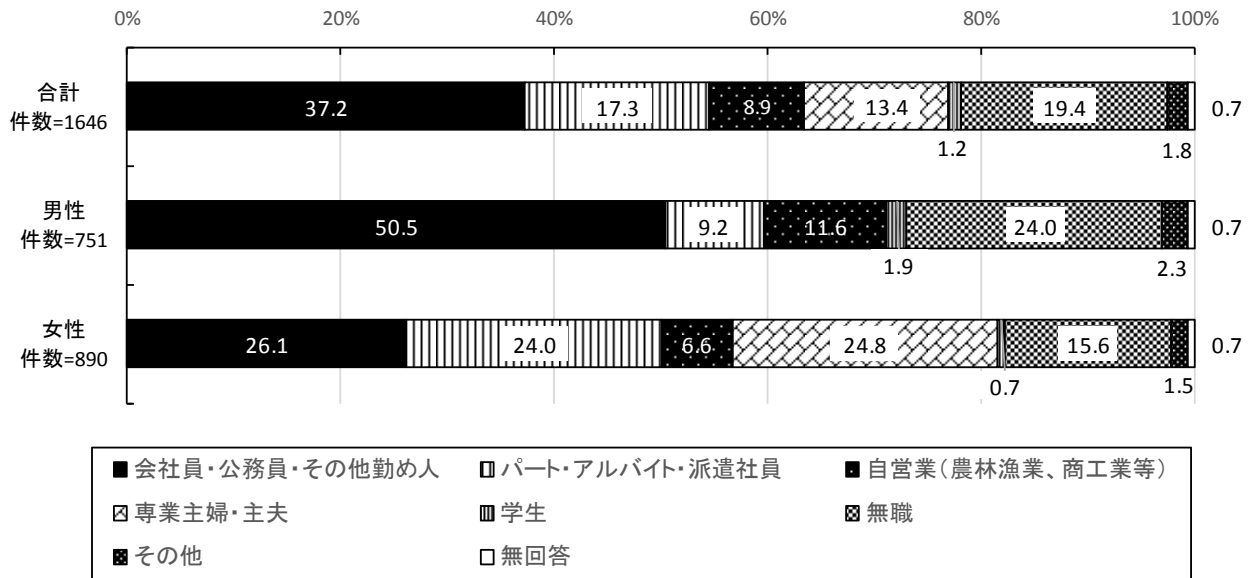
F 2 性別



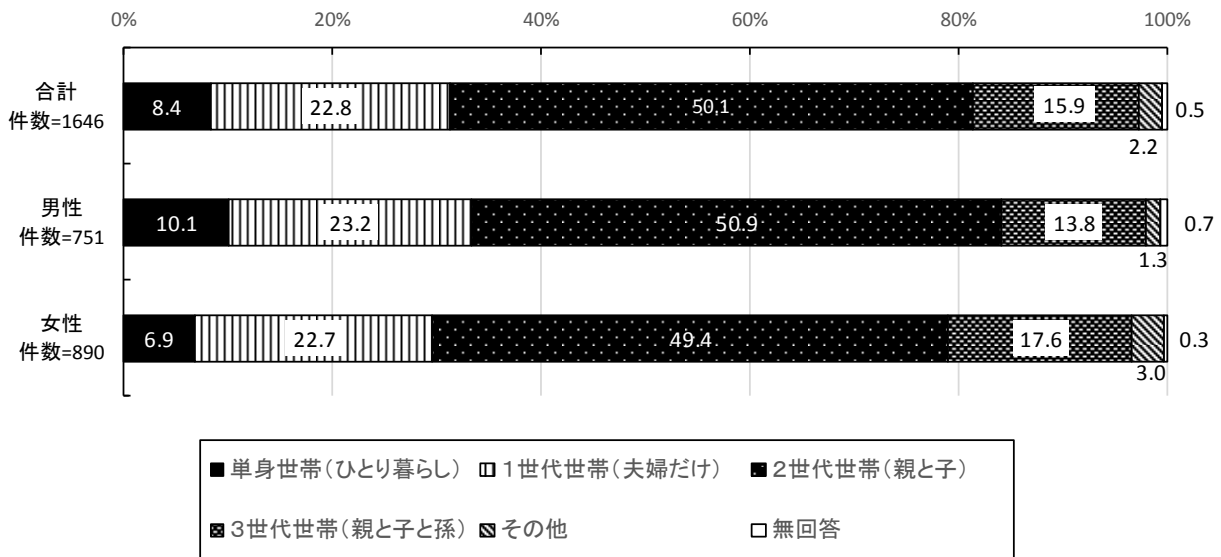
F 3 年齢



F 4 職業



F 5 家族構成



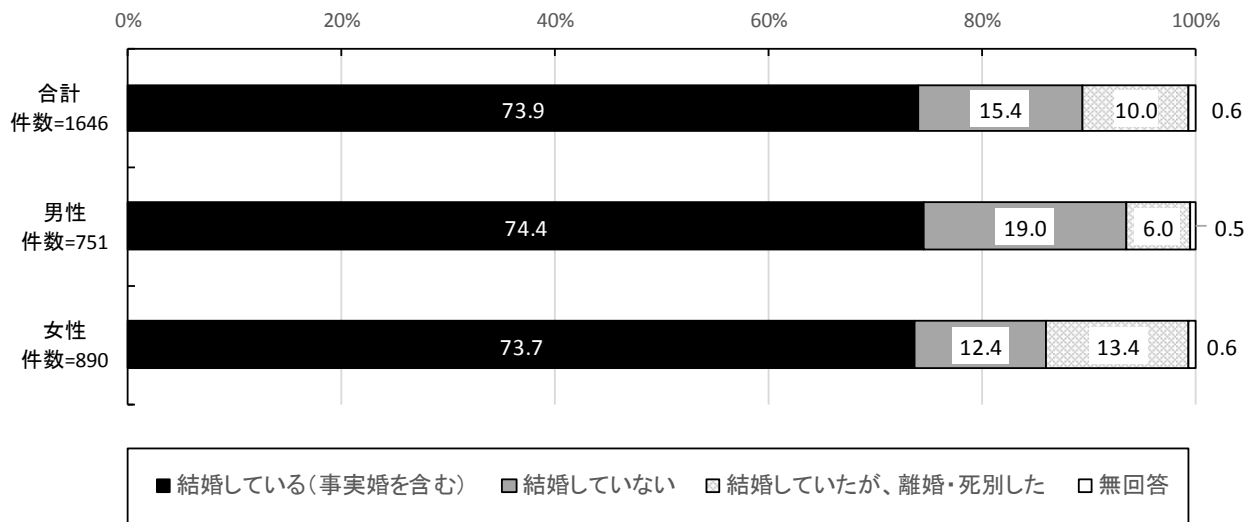
回答者 1,646 人のうち、「男性」は 45.6%、「女性」は 54.1%を占め、女性の割合が高かった。

年齢は、「60代」が 26.2%と最も高く、次いで「70代以上」18.6%となった。全体的に年齢が高いほど回答率が高くなる傾向が見られた。性別にみると、男性では「60代」28.5%と最も高く、「70代以上」19.4%、「50代」17.3%と続いた。女性では「60代」24.3%が最も高く、「50代」19.4%、「70代以上」17.8%となった。

職業は、「会社員・公務員・その他勤め人」37.2%と最も高く、次いで「無職」19.4%となった。性別にみると、男性では「会社員・公務員・その他勤め人」50.5%と半数を占めた。女性は「会社員・公務員・その他勤め人」26.1%、「専業主婦・主夫」24.8%、「パート・アルバイト・派遣社員」24.0%となった。

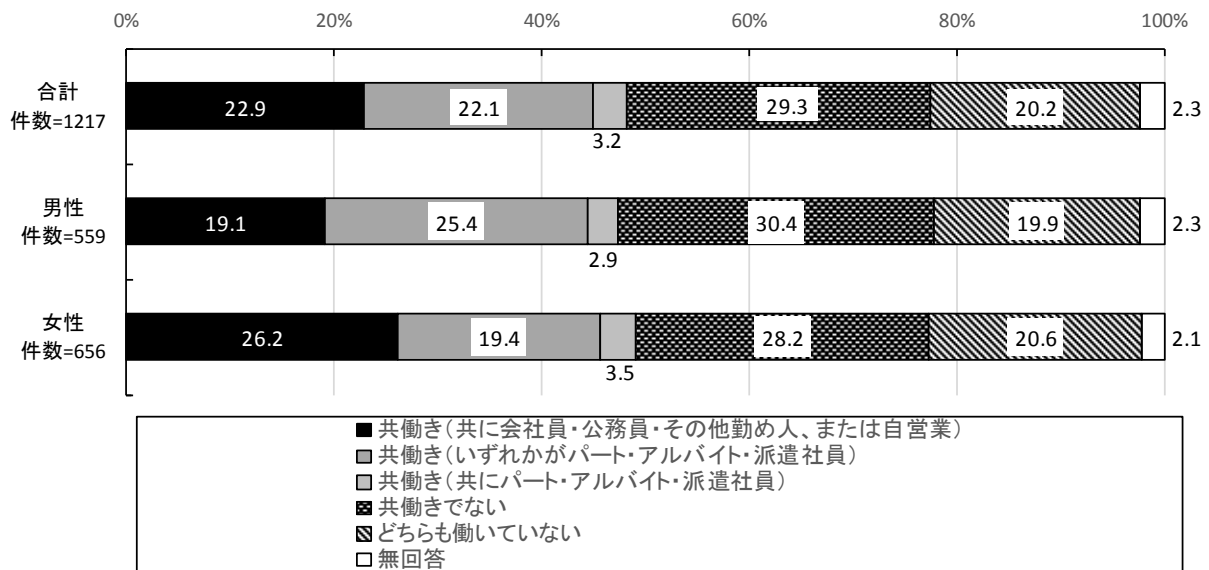
家族構成は、「2世代世帯(親と子)」50.1%と最も高く、「1世代世帯(夫婦だけ)」22.8%、「3世代世帯(親と子と孫)」15.9%となった。

F 6 結婚の有無



F 7 共働きの有無

※ F 6 で「1. 結婚している (事実婚を含む)」とお答えの方のみ



結婚の有無は、「結婚している (事実婚を含む)」73.9%となり、男女ともに7割以上を占めた。

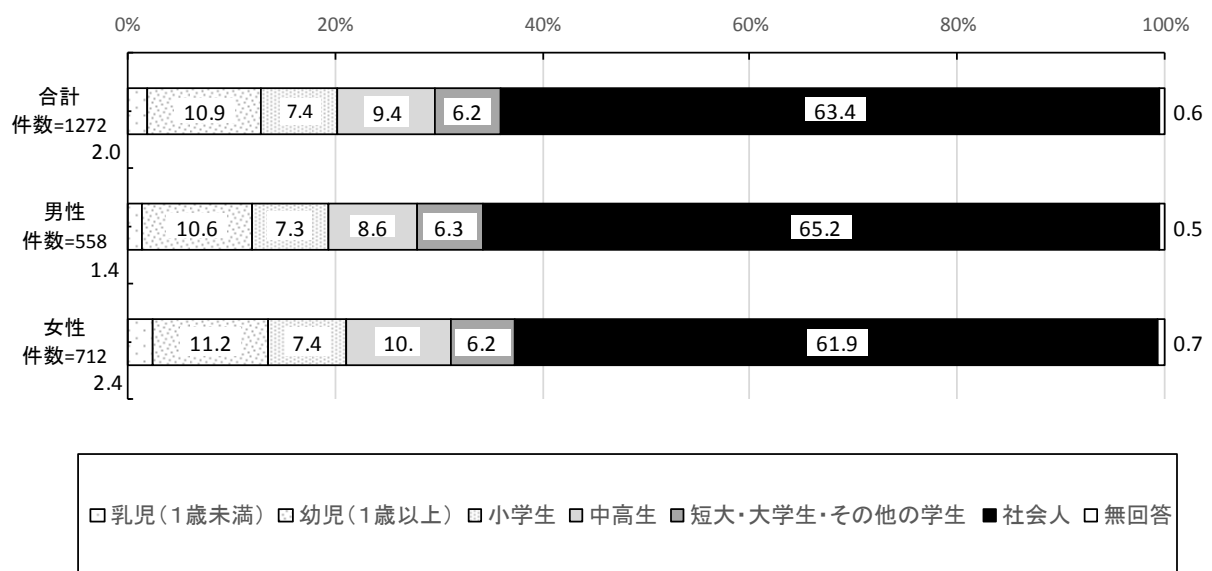
「1. 結婚している (事実婚を含む)」と回答した1,217人の共働きの有無は、「共働きでない」29.3%と最も高く、次いで「共働き (共に会社員・公務員・その他勤め人、または自営業)」22.1%、「共働き (いずれかがパート・アルバイト・派遣社員)」22.1%となった。性別にみると、男性は「共働きでない」30.4%と最も高く、「共働き (いずれかがパート・アルバイト・派遣社員)」25.4%となった。女性は「共働きでない」28.2%と最も高く、「共働き (共に会社員・公務員・その他勤め人、または自営業)」26.2%となった。

F 8 子どもの有無



F 9 末子の年代

※F 9で「1. いる」とお答えの方のみ



子どもの有無は、「いる」77.3%が最も高かった。性別にみると、「いる」は男性74.3%、女性80.0%となった。

子どもが「いる」と回答した1,272人の末子の年代は、「社会人」が63.4%と最も高く、次いで「幼児(1歳以上)」10.9%、「中高生」9.4%、「小学生」7.4%となった。

Ⅲ 調査の要旨

Ⅲ 調査の要旨

1 社会における制度・慣行について

(1) 社会全体における男女平等感

“男性優遇”が6割以上を占めている。

社会全体で男女は平等になっているかを尋ねたところ、「男性が非常に優遇されている」6.4%と「どちらかといえば男性が優遇されている」57.8%を合わせた“男性優遇”は64.2%と、6割以上を占めている。

性別にみると、“男性優遇”は男性57.5%、女性70.0%となり、女性は男性以上に“男性優遇”と感じている。

年齢別にみると、“男性優遇”は共に60代が最も高い。“男性優遇”の意識は、20代～60代は女性が男性を上回っているが、若年層になるにつれ、“男性優遇”の意識が低くなる傾向にある。

(2) 各分野における男女平等感

「学校教育の場で」を除く6つの分野で、“男性優遇”。

7つの分野で男女は平等になっているかを尋ねたところ、「学校教育の場で」を除く6つの分野で、「男性が非常に優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた“男性優遇”の回答が、「女性が非常に優遇」と「どちらかといえば女性が優遇」を合わせた“女性優遇”の回答を大きく上回る結果となった。

特に、「政治の場で」72.3%、「社会通念・慣習・しきたりなどで」70.6%と“男性優遇”が高かった。一方、「学校教育の場で」は、半数以上の53.7%が「平等」と回答しており、最も平等と感じられる分野である。

平等の意識を性別にみると、「平等」はいずれの分野でも男性の方が上回っている。特に「家庭生活で」男性37.2%、女性25.7%、「地域で(自治会・自主防災会・NPOなど)」男性36.4%、女性26.0%、「法律や制度の上で」男性39.3%、女性23.0%と男性が大きく上回り、平等の意識が男女でかなり差があることが窺えた。

(3) 男女の役割を固定的に考えることに関する意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に“反対派”59.1%。

男女の役割を固定的に考えることについて尋ねたところ、「反対」22.5%と「どちらかといえば反対」36.6%を合わせた“反対派”は59.1%、「賛成」4.3%と「どちらかといえば賛成」22.8%を合わせた“賛成派”は27.1%と、“反対派”が“賛成派”を上回った。

性別にみると、“反対派”は男性51.5%に対し、女性65.6%となり、女性が高く男女間での差がみられる。

年齢別にみると、男女共に70代以上の“賛成派”が高く、60代以下との差が大きい。特に、男性30代の子育て世代で「賛成」6.1%と「どちらかといえば賛成」36.6%を合わせた“賛成派”は42.7%を占め、“反対派”の割合を上回る。男性や高齢の方への啓発が必要である。

(4) 仕事、家事、育児、介護についての関わり方について

「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」77.0%。

仕事、家事、育児、介護について男女がどのように関わるべきか尋ねたところ、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」77.0%が最も高かった。

経年比較でみると、「男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う」性別役割分業意識は、前回調査 24.2%から今回調査 9.7%に減少、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う」新性別役割分業意識は、今回調査 4.6%に留まっている。

2 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験

過去1年間に「暴力を受けたことがある」は女性 4.0%、男性 1.5%。

過去1年間に、「暴力を受けたことがある」は 2.9%。また「身近に暴力を受けた人がいる」4.7%、「暴力を受けた人から相談されたことがある」3.3%となっている。

性別にみると、女性の 4.0%が「暴力を受けたことがある」、6.0%が「身近に暴力を受けた人がいる」と回答している。

(2) ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと

「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が 49.7%とトップ。

ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要であると考えてるものを尋ねたところ、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」49.7%、「捜査や裁判での担当者を増やすなど、被害を受けた方が被害を訴えやすい環境をつくる」33.5%、「感情コントロールについての教育を充実させる」30.9%となった。

性別にみると、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」は男性 45.8%、女性 52.9%と最も高く、“被害者の保護”を望む声が多い。

(3) セクシュアル・ハラスメントの経験

過去1年間に「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」女性 4.7%、男性 0.5%。

過去1年間に、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は 2.8%。また「身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる」3.9%、「セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある」2.3%となっている。

性別にみると、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は、男性 0.5%、女性 4.7%。

年齢別にみると、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は、女性 20代 10.4%が最も高かった。

3 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

(1) 家庭での役割分担

男性が家計を支え、女性が家事や家計の管理を行う傾向が顕著となっている。

家庭での8つの役割分担について尋ねたところ、「掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする」「日々の家計の管理をする」では「主に妻」が5割を超えた。一方、「主に夫」が高い項目は、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」41.2%、「自治会・町内会などの地域活動を行う」30.7%。「夫と妻が同程度」が高いのは、「子どもの教育方針や進学目標を決める」36.6%、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」43.8%となった。

「親の世話（介護）をする」は年齢別にみると、「夫と妻が同程度」と回答した人は、60代までは男性が女性を上回った。

(2) 男性の育児休業や介護休業の取得について

育児休業・介護休業ともに“取ったほうがよい”は7割以上。

男性が育児休業や介護休業を取ることにについて尋ねたところ、「積極的に取ったほうがよい」は「育児休業」37.5%、「介護休業」41.6%となり、「積極的に取ったほうがよい」と「どちらかといえば取ったほうがよい」を合わせた“取ったほうがよい”はそれぞれ7割以上となった。

性別にみると、「積極的に取ったほうがよい」は、共に女性が男性を上回っている。

年齢別にみると、「育児休業」の「積極的に取ったほうがよい」は、男性20代55.4%、女性20代59.7%、「介護休業」の「積極的に取ったほうがよい」は男性20代50.0%、女性20代70.1%となり、男女20代が最も高かった。

経年比較でみると、「積極的に取ったほうがよい」は、「育児休業」は前回調査21.4%、今回調査37.5%と16.1ポイント高くなり、「介護休業」は前回調査28.2%、今回調査41.6%と9.3ポイント高くなった。

4 意思決定の過程への女性の参画について

(1) 各分野における女性の意見の反映状況

「PTAや自治会などの地域」では女性の意見が“反映されている”。

各分野について、女性の意見が反映されているかどうかを尋ねたところ、「PTAや自治会などの地域」について、「十分反映されている」5.9%と「ある程度反映されている」48.3%を合わせた“反映されている”と回答した人の割合は半数を超えている。「市議会などの政治」は“反映されている”28.1%に対し、「反映されていない」と「あまり反映されていない」を合わせた“反映されていない”39.0%と、“反映されていない”が上回った。「市などの行政」は、“反映されている”32.7%、“反映されていない”35.2%。「企業などの職場」は“反映されている”37.1%、“反映されていない”38.0%となり、“反映されている”と“反映されていない”がほぼ同割合となった。

(2) 意思決定の場に女性が参画すること

「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」57.0%。

女性が管理的部門や指導的地位へ就くことを尋ねたところ、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」が最も高く、57.0%を占めた。

性別にみると、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」は、男性55.1%、女性58.8%となり、女性が男性を上回った。

年齢別にみると、「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」は、男性20代25.0%、女性20代29.9%、女性30代26.6%と若年層がより“女性が增えること”を望んでいる。

(3) 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由

「女性は継続して勤務することが困難であるから」54.4%。

意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない理由について尋ねたところ、「女性は継続して勤務することが困難であるから」54.4%が最も高く、次いで「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」45.6%となった。

性別にみると、「女性は継続して勤務することが困難であるから」は、男性47.3%、女性60.6%となり、女性が男性を上回った。「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」は、男性29.2%、女性20.6%と男性が上回っている。男女間で認識の違いがある。

年齢別にみると、「女性は継続して勤務することが困難であるから」は、女性20代70.1%、女性30代71.2%となり、女性の若年層が特に高くなっている。

5 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

(1) 仕事の退職・中断・転職経験と理由

女性の理由は「出産・育児のため」44.0%が最も高く、次いで「結婚のため」38.7%。

仕事の退職・中断・転職経験について尋ねたところ、「ある」が71.7%を占めた。

性別にみると、「ある」は男性60.1%、女性81.9%となり、女性が男性を上回った。

年齢別にみると、女性30代から60代までの8割以上が「ある」と回答している。

仕事の退職・中断・転職の理由を尋ねたところ、「労働条件がよくなかったため」28.4%、「出産・育児のため」27.6%、「結婚のため」25.4%、「仕事にやりがいを感じなかったため」25.0%となった。

性別にみると、女性は「出産・育児のため」44.0%が最も高く、次いで「結婚のため」38.7%となった。

年齢別にみると、女性50代以下は、「出産・育児のため」が「結婚のため」を上回っている。

(2) 職場での男女の不平等について

男女の不平等を感じることは「賃金・昇給の面で格差がある」50.7%。

職場での男女の不平等について尋ねたところ、「ある」が21.8%となった。

性別にみると、「ある」は男性22.2%、女性21.3%となった。

年齢別にみると、「ある」は男性30代39.0%、女性40代36.0%と最も高かった。

男女の不平等を感じることにについて尋ねたところ、「賃金・昇給の面で格差がある」50.7%が最も高く、次いで「長時間労働や出張は男性に多い」36.2%、「仕事に対する女性の意識が低い」29.8%となった。

性別にみると、「賃金・昇給の面で格差がある」は男性39.5%、女性60.5%、「長時間労働や出張は男性に多い」は男性52.1%、女性22.1%と、特に男女間の意識の差が見られた。

年齢別にみると、「賃金・昇給の面で格差がある」は男性20代20.0%と低かった。

経年比較でみると、「賃金・昇給の面で格差がある」が前回調査・今回調査共に最も高くなっている。今回調査が高くなったものは、「女性には結婚退職や出産退職の慣習がある」が前回調査12.3%、今回調査18.4%、「長時間労働や出張は男性に多い」が前回調査30.9%、今回調査36.2%となった。

(3) 女性が職業を持つことについての考え方

「ずっと職業を続けるほうがよい」36.1%、「M字カーブ支持者」は45.9%。

一般的に女性が職業を持つことについて尋ねたところ、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」37.8%、「ずっと職業を続けるほうがよい」36.1%となった。「結婚するまでは職業を持つほうがよい」と「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」と「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」を合わせた“M字カーブ支持者”は45.9%となった。

性別にみると、“M字カーブ支持者”は男性46.8%、女性45.1%。

年齢別にみると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は70代以上が男女共に最も高く、「ずっと職業を続けるほうがよい」は女性30代が最も高い。

経年比較でみると、「ずっと職業を続けるほうがよい」は前回調査53.5%、今回調査45.9%となり、共に高い割合となった。

(4) 女性が職業を持つことの現実

「ずっと職業を続けるほうがよい」29.5%、「M字カーブ支持者」は48.7%。

女性が職業を持つことの現実について尋ねたところ、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」39.0%、「ずっと職業を続けるほうがよい」29.5%となった。現実としては、「ずっと職業を続けるほうがよい」という意識は低くなる。前問の一般的な考え方の回答と比べると、“M字カーブ支持者”48.7%となり、2.8ポイント差となった。

年齢別にみると、「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」が女性20代で17.9%と高くなっている。

経年比較でみると、“M字カーブ支持者”前回調査53.7%、今回調査48.7%となり、低くなっている。

(5) 女性が働く上で障害となること

障害は「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」「長時間労働や残業」「育児施設・介護施設の不足」。

女性が継続的に働くことへの障害について尋ねたところ、「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」52.1%が最も高く、次いで「長時間労働や残業」50.0%、「育児施設・介護施設の不足」45.4%となった。

性別にみると、「長時間労働や残業」は女性54.9%、男性44.6%と男女差があり、女性が男性を上回った。

年齢別にみると、「長時間労働や残業」は女性40代66.7%が最も高かった。

6 地域社会の一員としての活動について

(1) 仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度

『「家庭生活」のみを優先したい』は男性39.7%、女性57.3%。

仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度について尋ねたところ、『「家庭生活」のみを優先したい』49.1%が最も高い。

性別にみると、『「家庭生活」のみを優先したい』は男性39.7%、女性57.3%と、女性が男性を17.6ポイント上回った。

年齢別にみると、『「家庭生活」のみを優先したい』は、男性50代46.2%、女性50代53.2%と50代は男女差が7.0ポイント差で、他の年代に比べて低かった。

(2) 仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度

『「家庭生活」のみを優先している』は男性25.0%、女性51.3%。

仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度について尋ねたところ、『「家庭生活」のみを優先している』39.1%、次いで『「仕事」のみを優先している』33.1%と高い。前問の希望優先度と比べると、『「仕事」のみを優先している』の割合が高いことから、現実には希望優先度と異なる人がいることが窺える。

性別にみると、女性は『「家庭生活」のみを優先している』51.3%が最も高く、男性は『「仕事」のみを優先している』43.4%が最も高かった。

年齢別にみると、男性は20代から60代は『「仕事」のみを優先している』が最も高かった。特に、男性40代61.0%が最も高く、前問の希望優先度との差は42.3ポイントと、希望と現実との差が大きくなっている。女性は、30代以上で『「家庭生活」のみを優先している』が最も高い。ただし、希望優先度に比べると「家庭生活のみ」が減り、「仕事のみ」が増えている。

(3) 積極的に参加していくために必要なこと

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」62.9%

男女ともに家庭生活や地域生活、仕事の場に積極的に参加していくために必要なことを尋ねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」62.9%、「育児休業・介護休業を男女ともに取得する環境づくりを進めること」54.9%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、理解を高めること」47.7%「男性の家事・育児参加などに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」46.8%と高かった。

性別にみると、「子どものころから男女ともに家事・育児のスキルを身に付けること」は男性26.5%、女性43.7%と17.2ポイント差があり、女性が男性を上回った。

年齢別にみると、「育児休業・介護休業を男女ともに取得する環境づくりを進めること」は男性20代60.7%、女性20代71.6%と男女ともに20代が最も高かった。

経年比較にみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」は前回調査77.5%、今回調査62.9%と共に最も高かった。

7 実践的な取組の推進について

(1) 「磐田市男女共同参画センターともりあ」の利用有無

「利用したことがある」1.0%、「知っているが、利用したことはない」21.8%、認知度22.8%。

「磐田市男女共同参画センターともりあ」の利用経験について尋ねたところ、「利用したことがある」1.0%と「知っているが、利用したことはない」21.8%を合わせた“認知”は22.8%に留まった。

性別にみると、「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」共に女性が男性を上回り、“認知”は男性17.4%、女性27.3%となり、9.9ポイント差があった。

年齢別にみると、男女共に20代の9割が「知らない」と回答している。

(2) 「磐田市男女共同参画センターともりあ」に期待している役割

「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」31.4%。

「磐田市男女共同参画センターともりあ」へ期待している役割について尋ねたところ、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」31.4%が最も高い。

性別にみると、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」男性29.0%、女性33.4%と、女性が男性を上回った。

年齢別にみると、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」は男女共に20代が最も高かった。

(3) 男女共同参画社会に関する知識

“男女共同参画社会”を「知っている」人は24.1%。

男女共同参画社会に関することがらについて尋ねたところ、「知っている」と回答した人が最も高かった項目は、“男女共同参画社会”24.1%。次いで、“ワーク・ライフ・バランス”17.2%、“ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）”15.9%の順となった。

(4) 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

「共に役割を果すための環境づくり」が最も望まれている。

男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組について尋ねたところ、「共に役割を果すための環境づくり」47.4%が最も高い。次いで、「制度・慣行の見直しや意識改革」30.3%となった。

性別にみると、「共に役割を果すための環境づくり」は、女性53.6%、男性40.1%と、女性が男性に比べて13.5ポイント高かった。

年齢別にみると、「共に役割を果すための環境づくり」は、男性20代51.8%が最も高く、女性30代61.2%が最も高くなった。

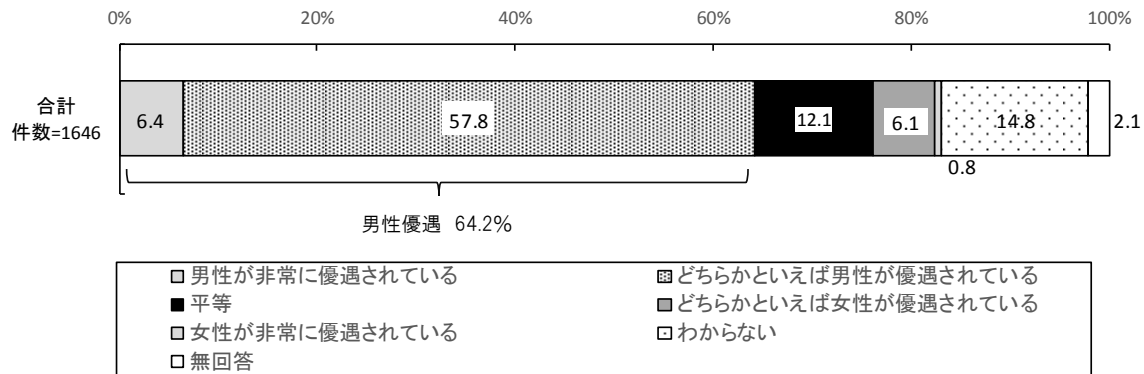
IV 調査結果

IV 調査結果

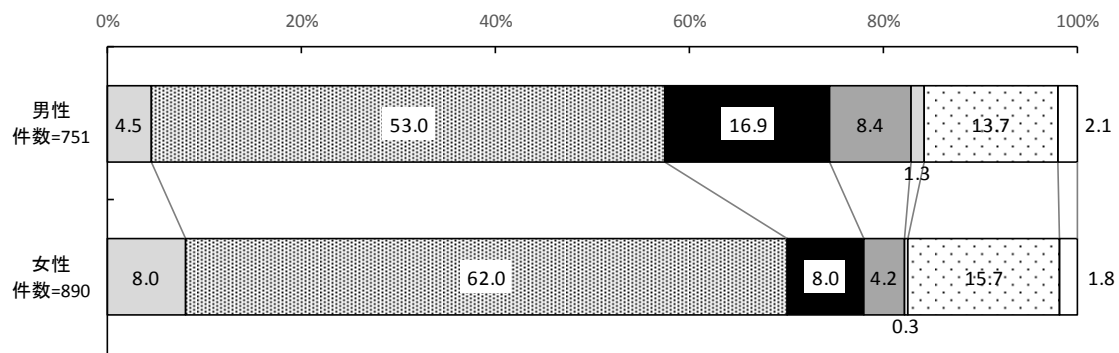
1 社会における制度・慣行について

(1) 社会全体における男女平等感

問1 あなたは、社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思いますか。(1つに○)



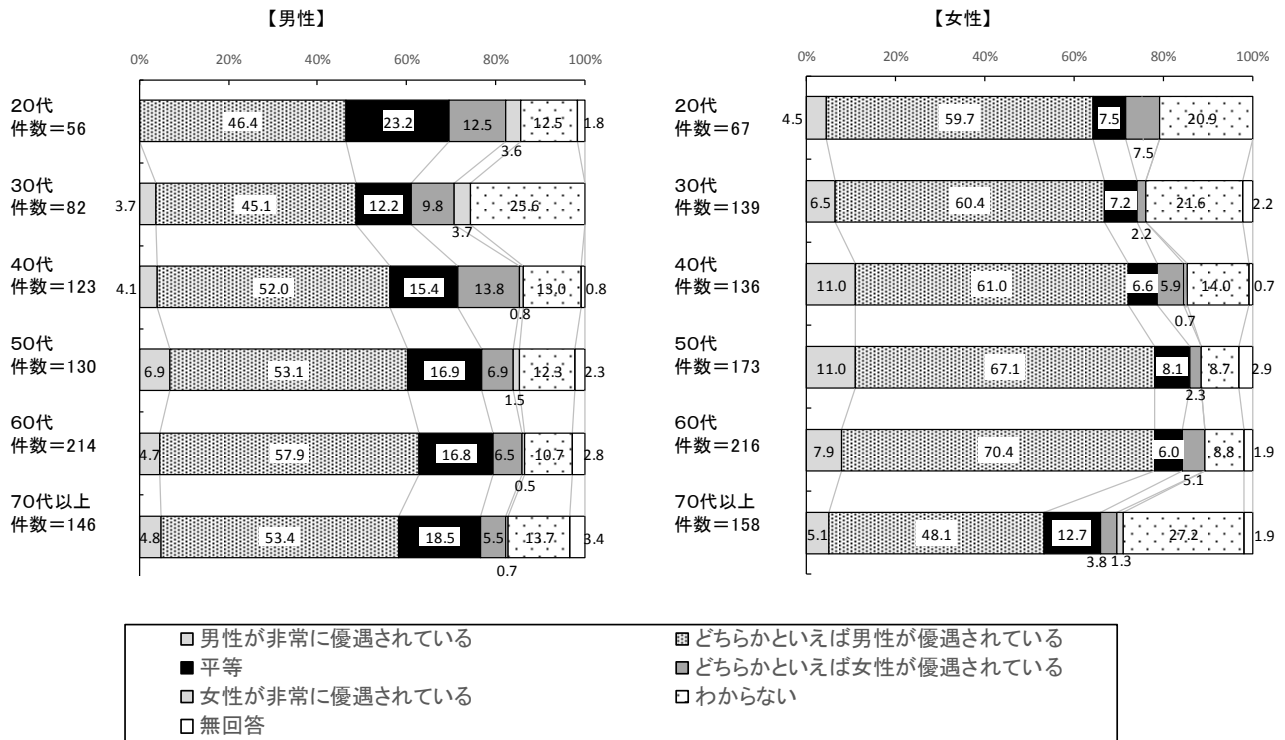
【性別】



社会全体で男女は平等になっているかを尋ねたところ、「男性が非常に優遇されている」6.4%と「どちらかといえば男性が優遇されている」57.8%を合わせた“男性優遇”は64.2%と、6割以上を占めている。

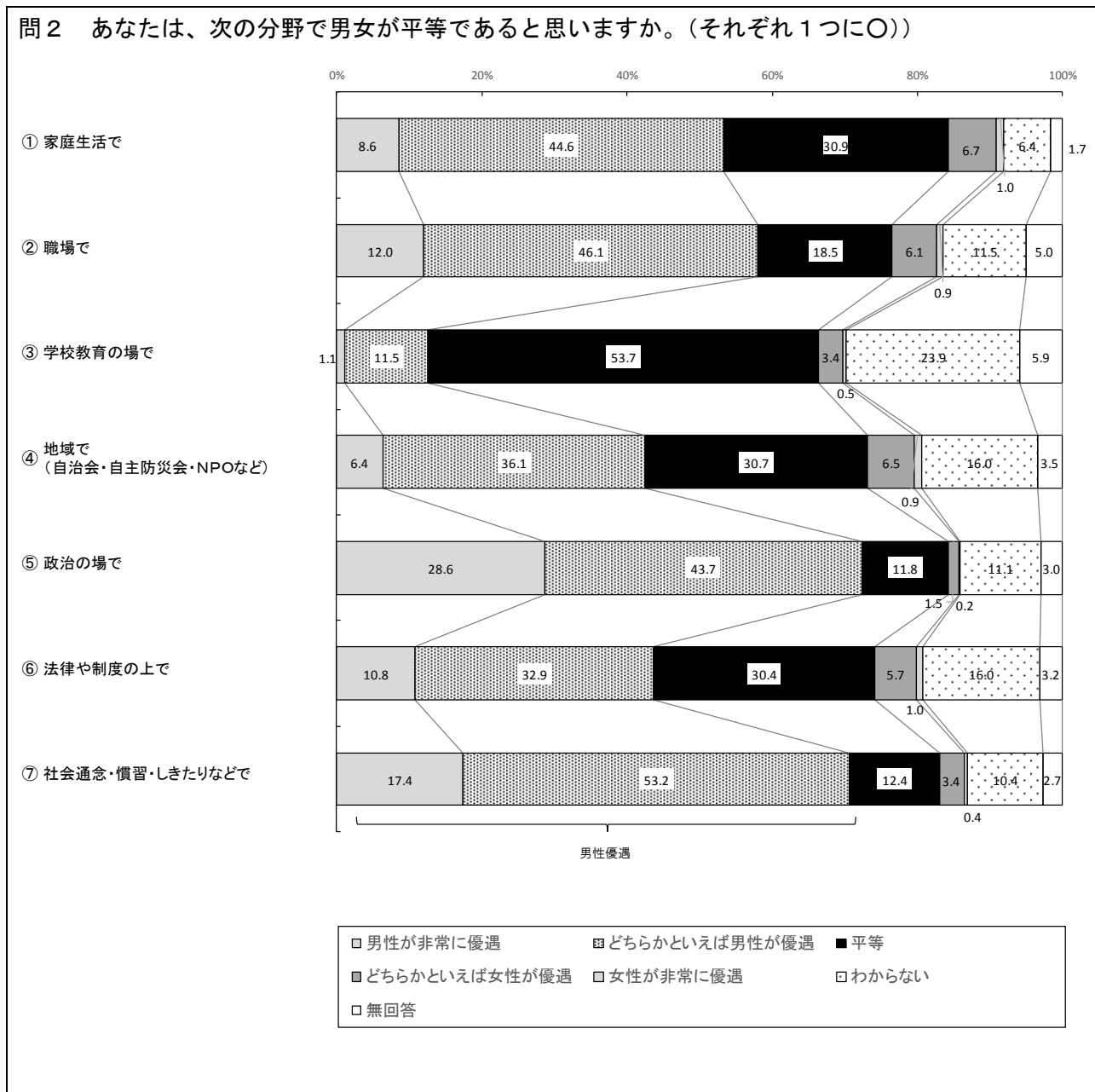
性別にみると、“男性優遇”は男性57.5%、女性70.0%となり、女性は男性以上に“男性優遇”と感じている。

【年齢別】



年齢別にみると、“男性優遇”は共に60代が最も高い。“男性優遇”の意識は、20代～60代は女性が男性を上回っているが、若年層になるにつれ、“男性優遇”の意識が低くなる傾向にある。

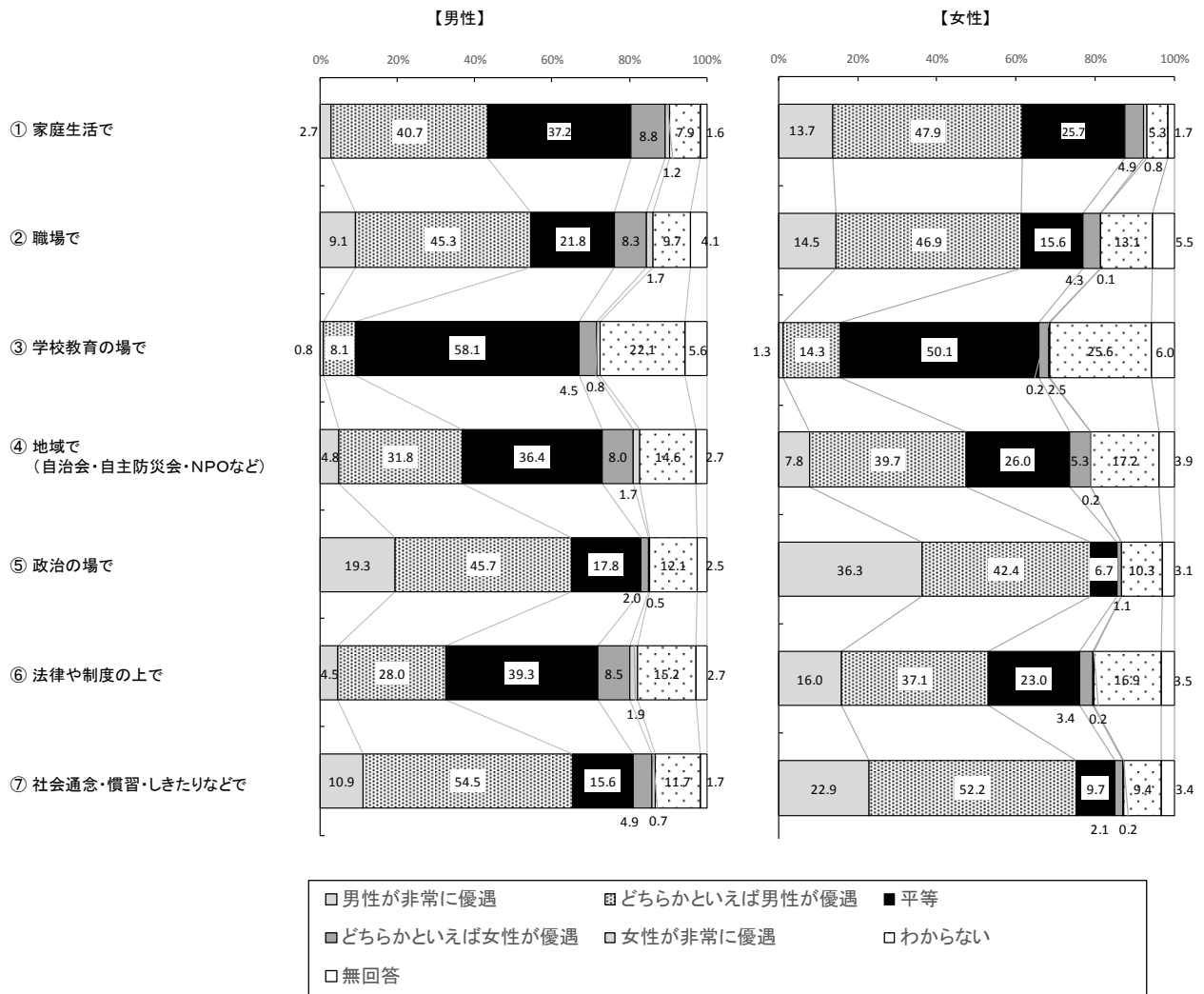
(2) 各分野における男女平等感



7つの分野で男女は平等になっているかを尋ねたところ、「③学校教育の場で」を除く6つの分野で、「男性が非常に優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた“男性優遇”との回答が、「女性が非常に優遇」と「どちらかといえば女性が優遇」を合わせた回答を大きく上回る結果となった。

特に、「⑤政治の場で」72.3%、「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」70.6%と“男性優遇”が高かった。一方、「③学校教育の場で」は、半数以上の53.7%が「平等」と回答しており、最も平等と感じられる分野である。

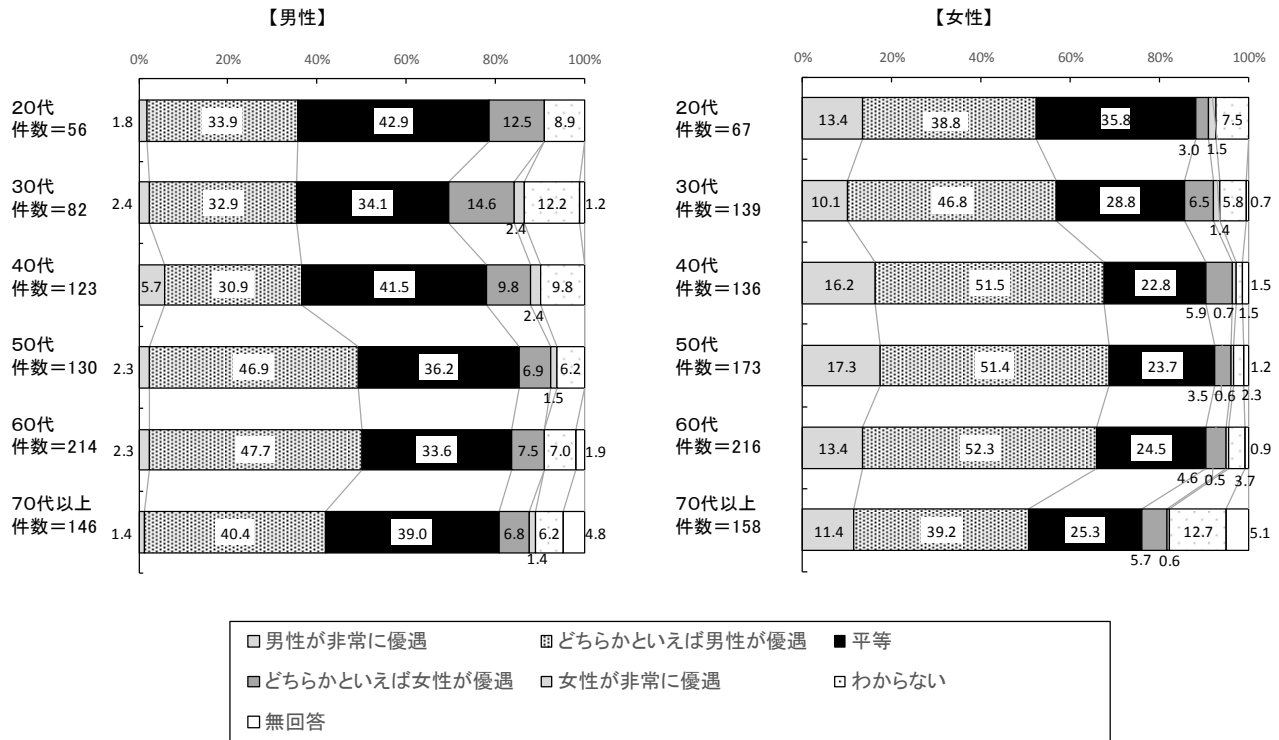
【性別】



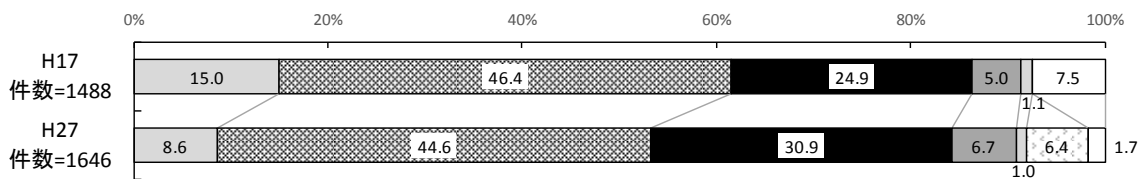
平等の意識を性別にみると、「平等」はいずれの分野でも男性の方が上回っている。特に「①家庭生活上で」男性 37.2%、女性 25.7%、「④地域で（自治会・自主防災会・NPO など）」男性 36.4%、女性 26.0%、「⑥法律や制度の上で」は男性 39.3%、女性 23.0%と男性が大きく上回り、平等の意識が男女でかなり差があることが窺えた。

①家庭生活で

【年齢別】



【経年比較】

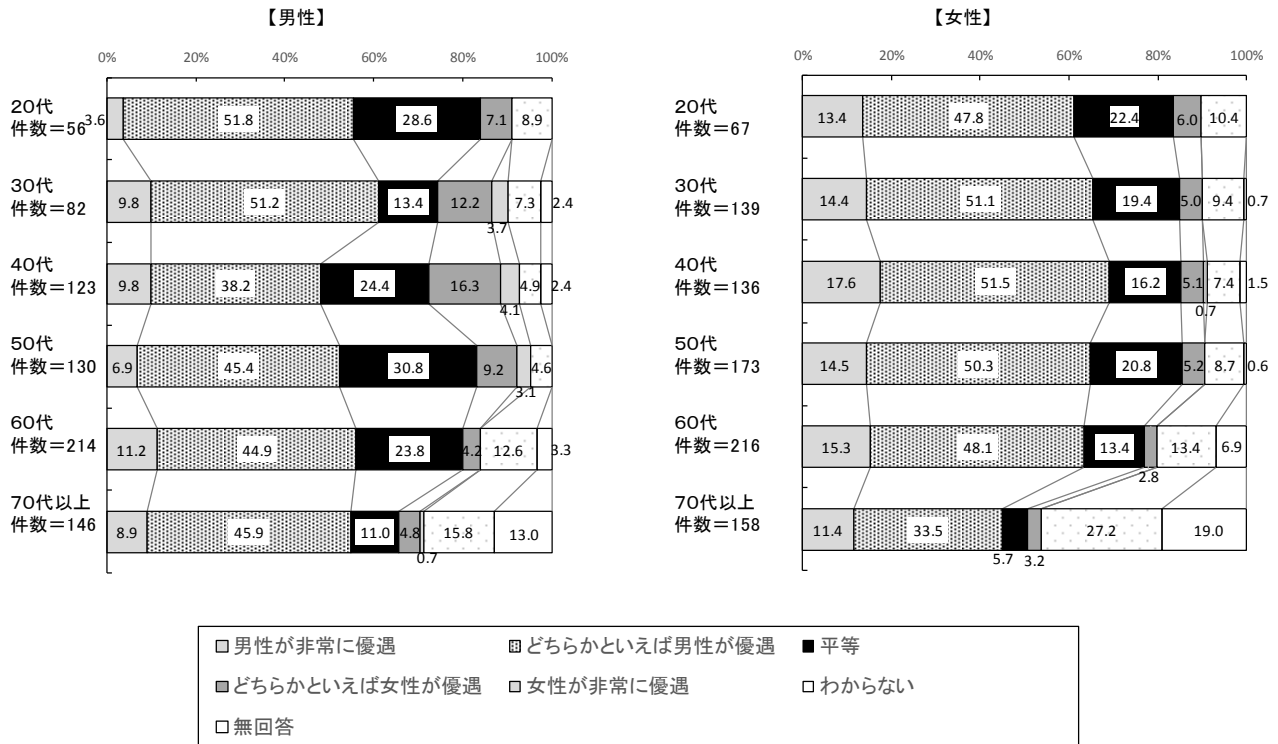


年齢別にみると、「男性が非常に優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた“男性優遇”が特に40代で差が大きい。男性40代36.6%、女性40代67.7%で31.1ポイント女性が男性を上回った。

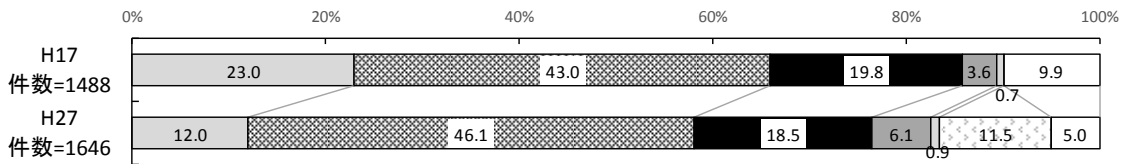
経年比較でみると、“男性優遇”前回調査61.4%、今回調査53.2%となり、前回より8.2ポイント低くなった。

②職場で

【年齢別】



【経年比較】

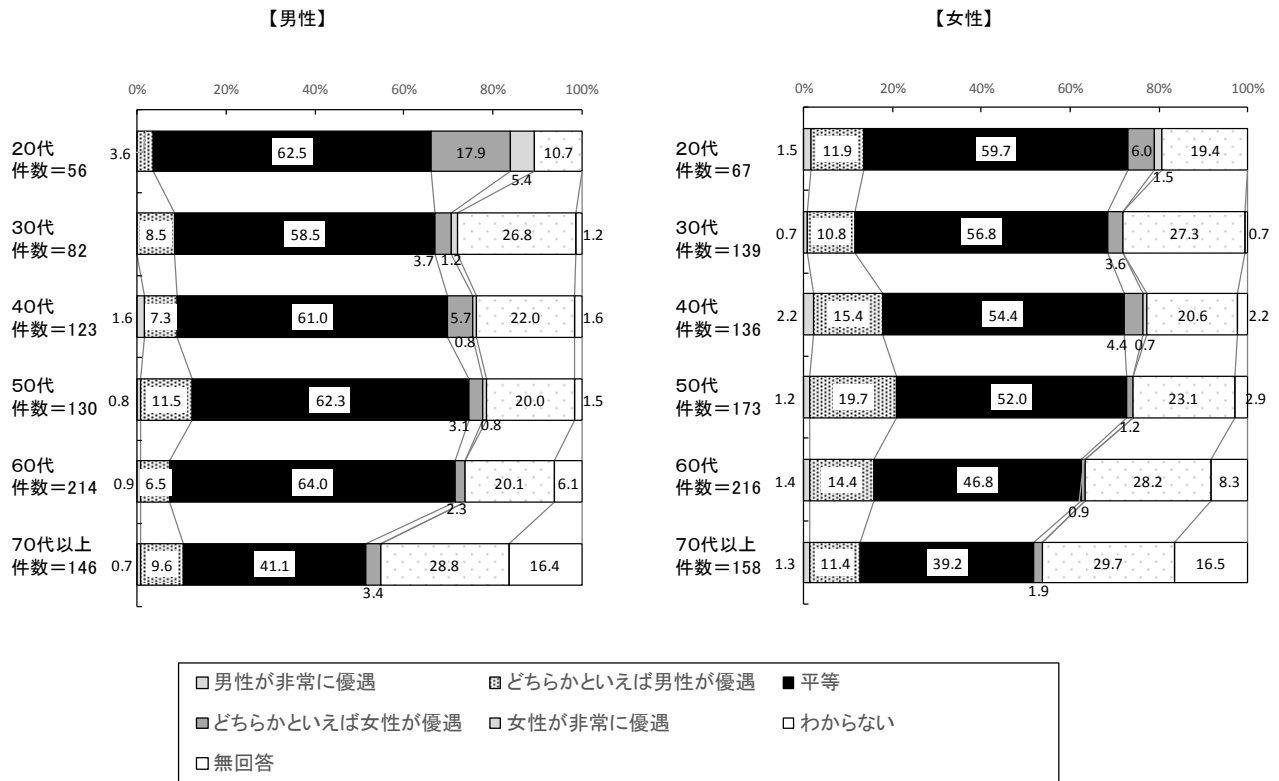


年齢別にみると、「男性が非常に優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた“男性優遇”と回答した人は、女性は20代～60代で6割以上となった。男女差は特に40代が大きく、男性40代48.0%、女性40代69.1%で21.1ポイント女性が男性を上回った。

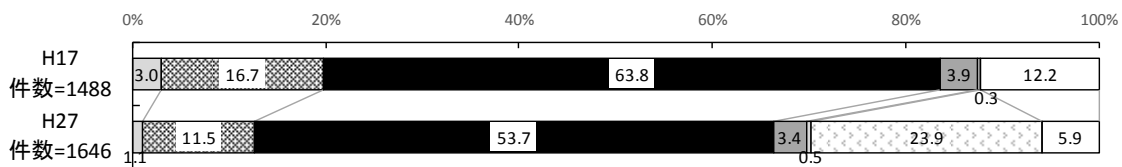
経年比較でみると、「男性が非常に優遇」は前回調査23.0%、今回調査12.0%となり、11.0ポイント低くなった。

③学校教育の場で

【年齢別】



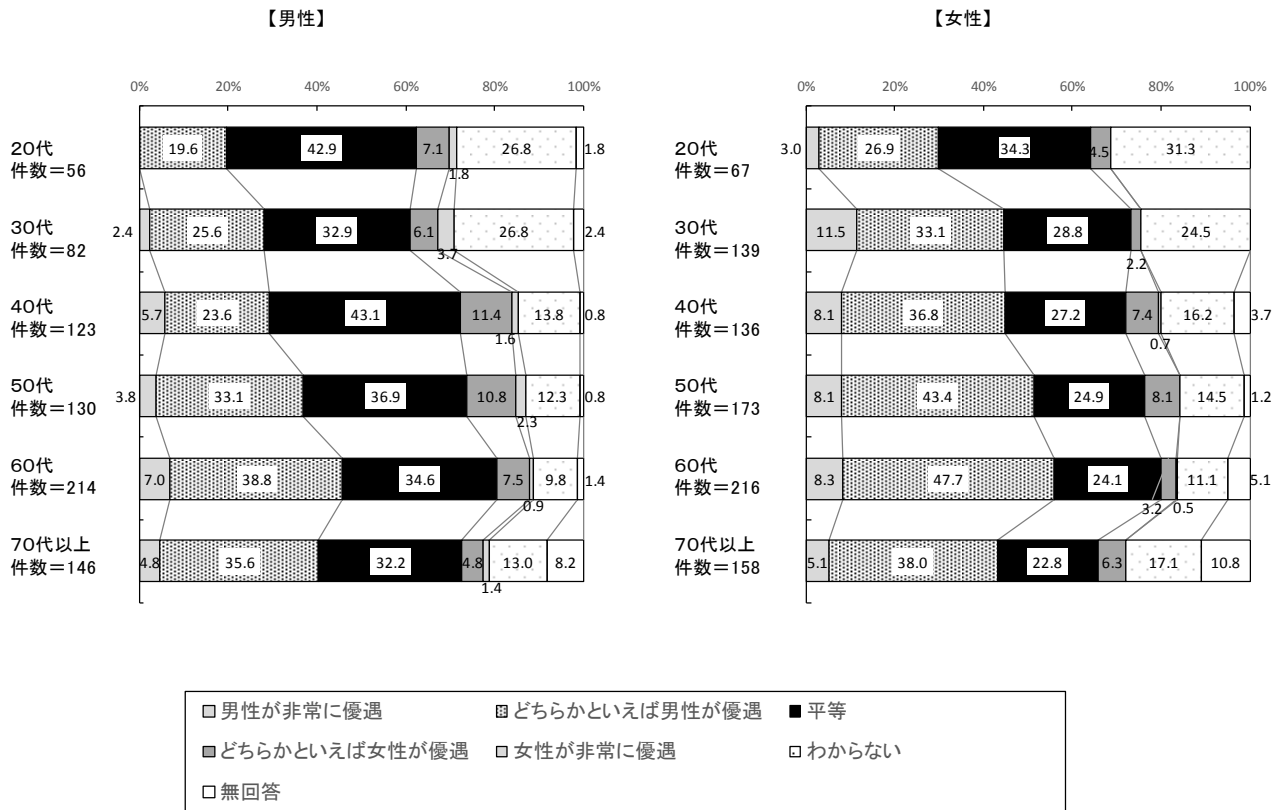
【経年比較】



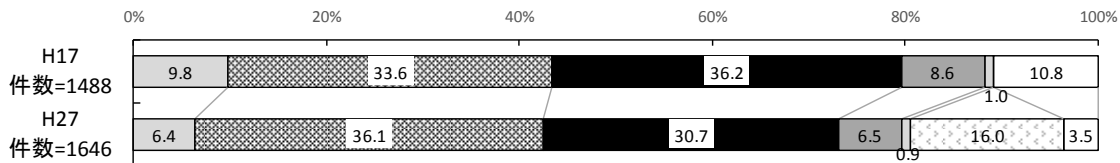
年齢別にみると、「平等」がどの世代でも男性が女性を上回った。男女差は60代が大きく、男性60代64.0%、女性60代46.8%の17.2ポイントで男性が女性を上回った。

④地域で（自治会・自主防災会・NPOなど）

【年齢別】



【経年比較】

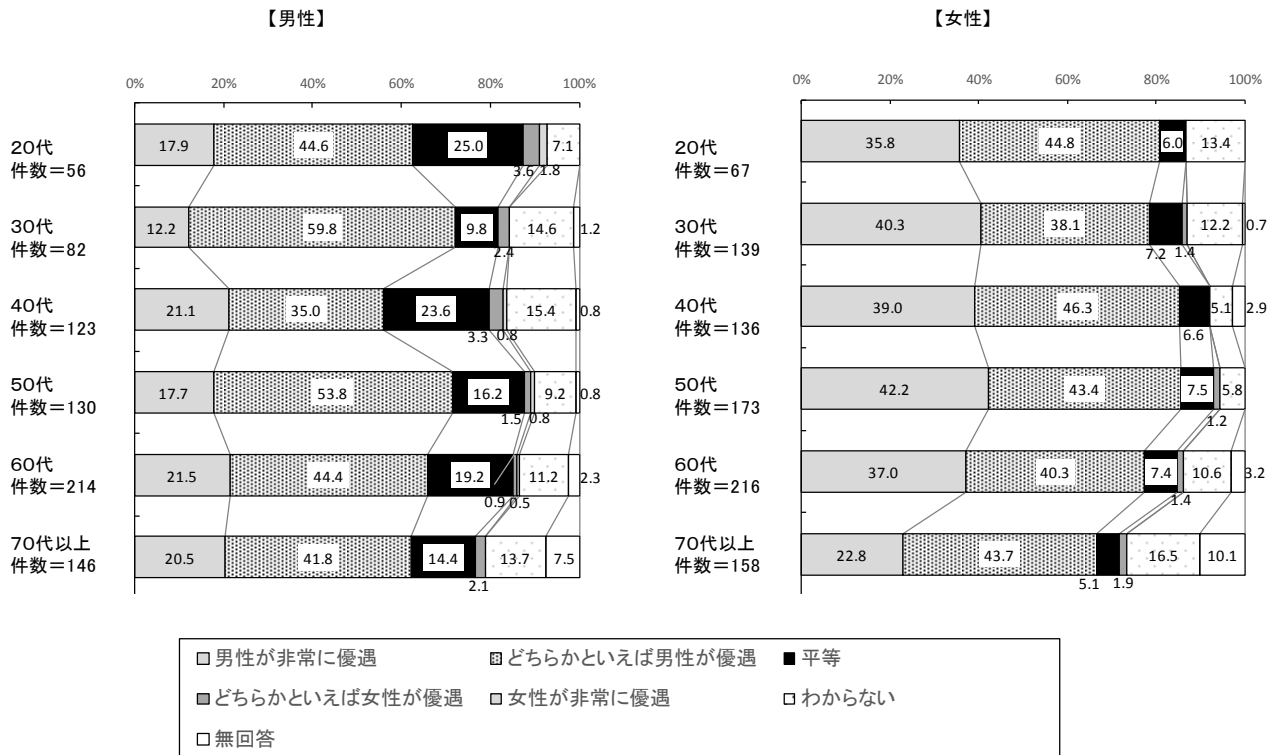


年齢別にみると、男性30代・40代は「平等」が高いが、女性30代・40代は“男性優遇”が高くなった。

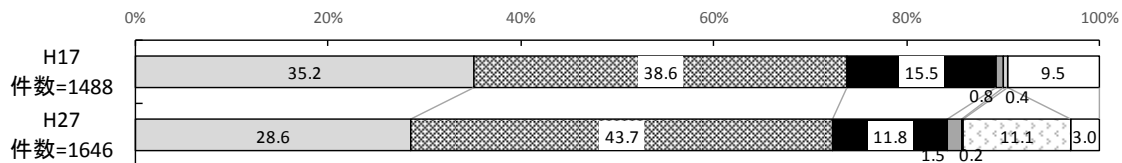
経年比較でみると、「平等」前回調査36.2%、今回調査30.7%と5.5ポイント低くなった。

⑤政治の場で

【年齢別】



【経年比較】

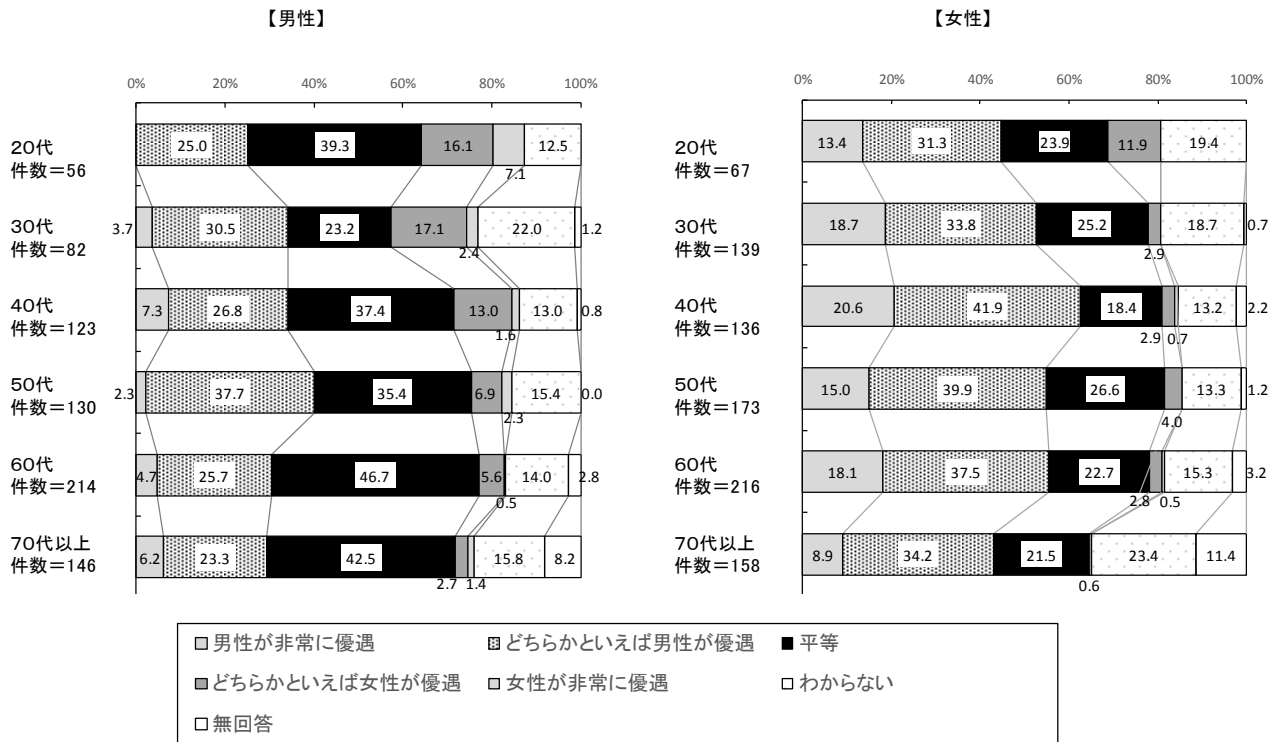


年齢別にみると、「男性が非常に優遇」がどの年代でも女性が男性を上回った。70代以上は2.3ポイントとほとんど差はみられなかったが、30代28.1ポイント、50代24.5ポイントと男女差が大きかった。

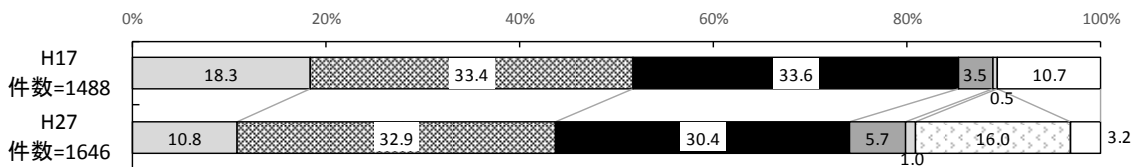
経年比較でみると、「男性が非常に優遇」は前回調査35.2%、今回調査28.6%となり、前回より6.6ポイント低くなった。

⑥法律や制度の上で

【年齢別】



【経年比較】

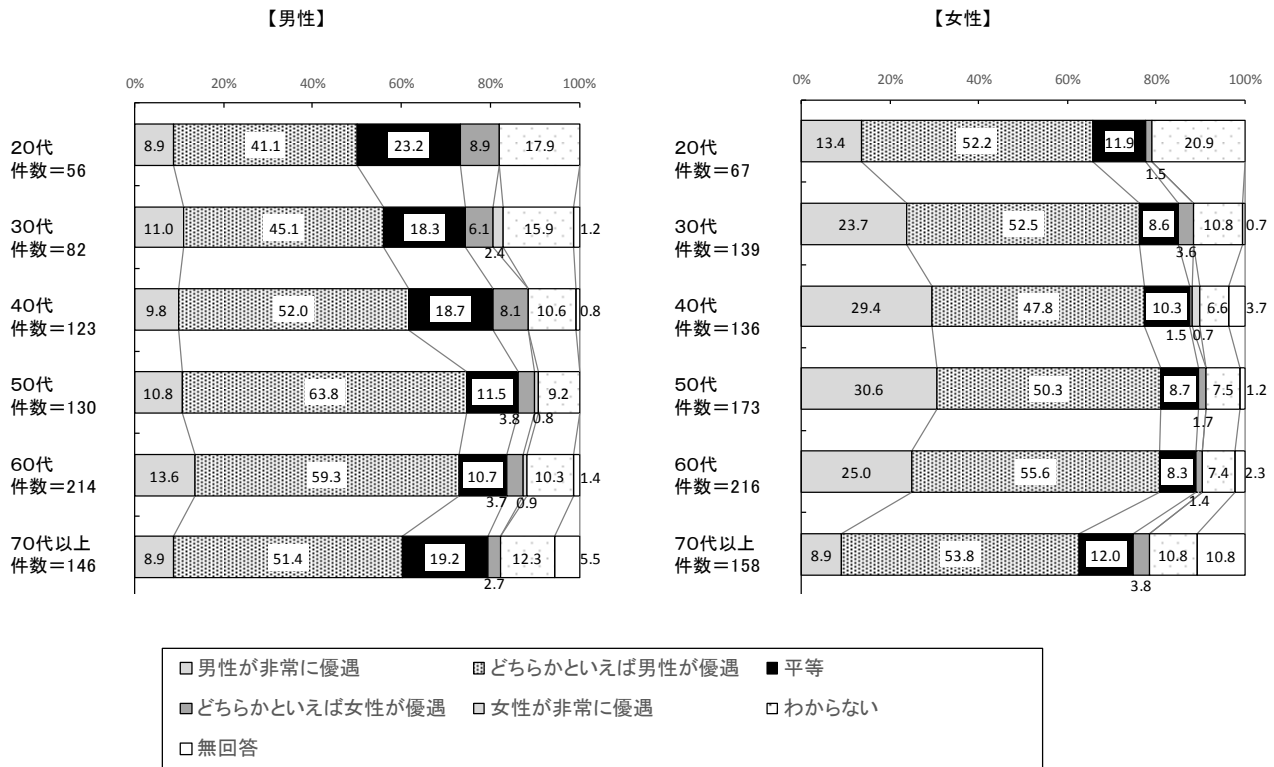


年齢別にみると、「男性が非常に優遇」がどの世代でも女性が男性を上回った。70代以上は2.7ポイントとほとんど差はみられなかったが、20代～60代は10ポイント以上男女差があった。

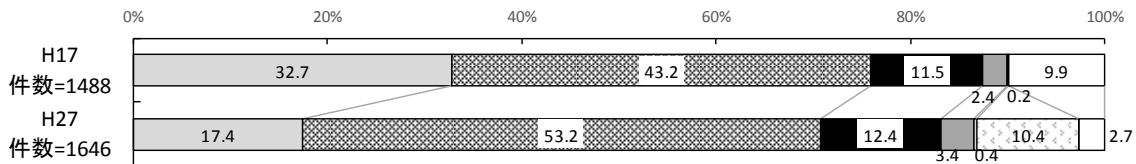
経年比較でみると、「男性が非常に優遇」は前回調査18.3%、今回調査10.8%と7.5ポイント低くなった。

⑦社会通念・慣習・しきたりなどで

【年齢別】



【経年比較】

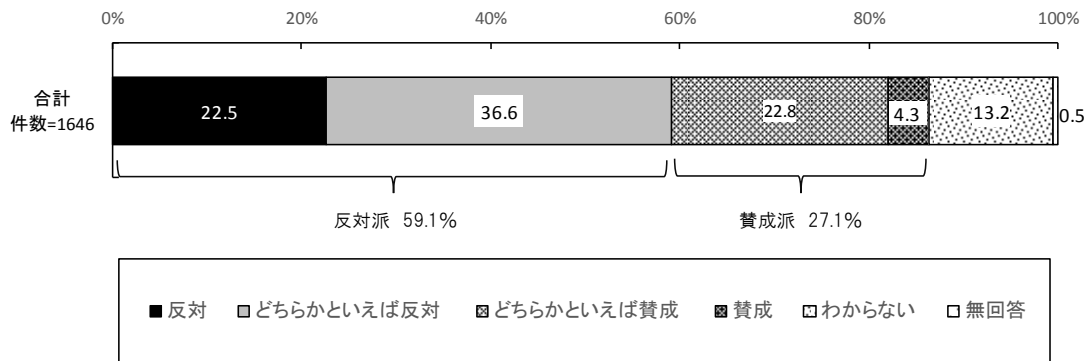


年齢別にみると、「男性が非常に優遇」の男女差が、40代19.6ポイント、50代19.8ポイントと女性が男性を上回った。「男性が非常に優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた“男性優遇”は男性20代50.0%が最も低かった。

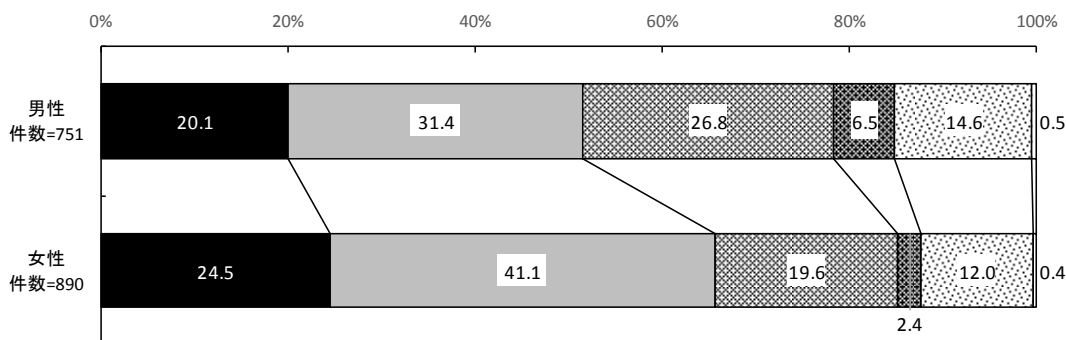
経年比較でみると、「男性が非常に優遇」が前回調査32.7%、今回調査17.4%と15.3ポイント低くなった。

(3) 男女の役割を固定的に考えることに関する意識

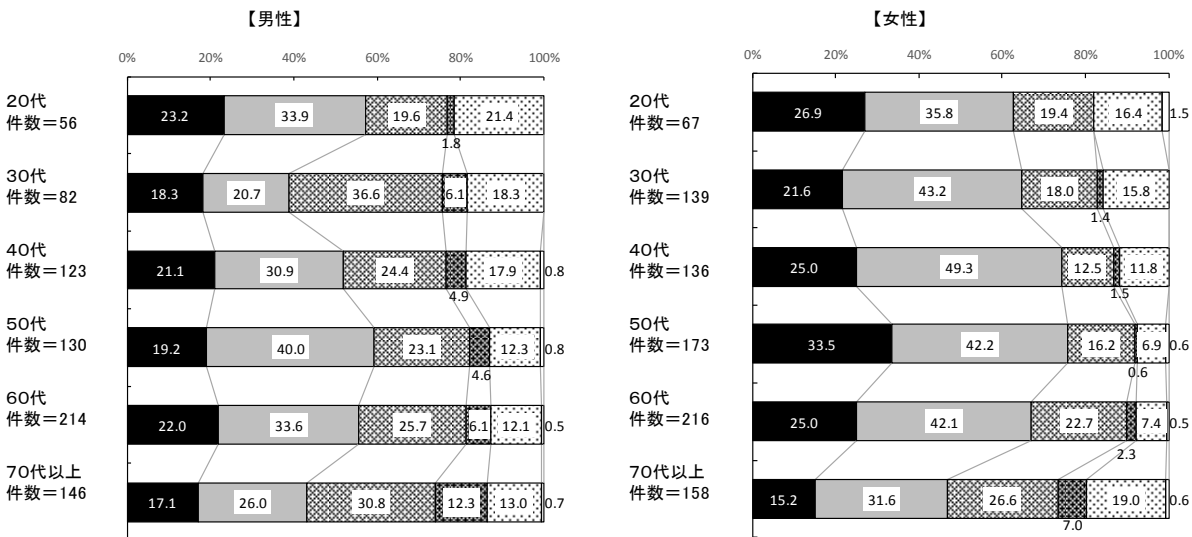
問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(1つに○)



【性別】



【年齢別】



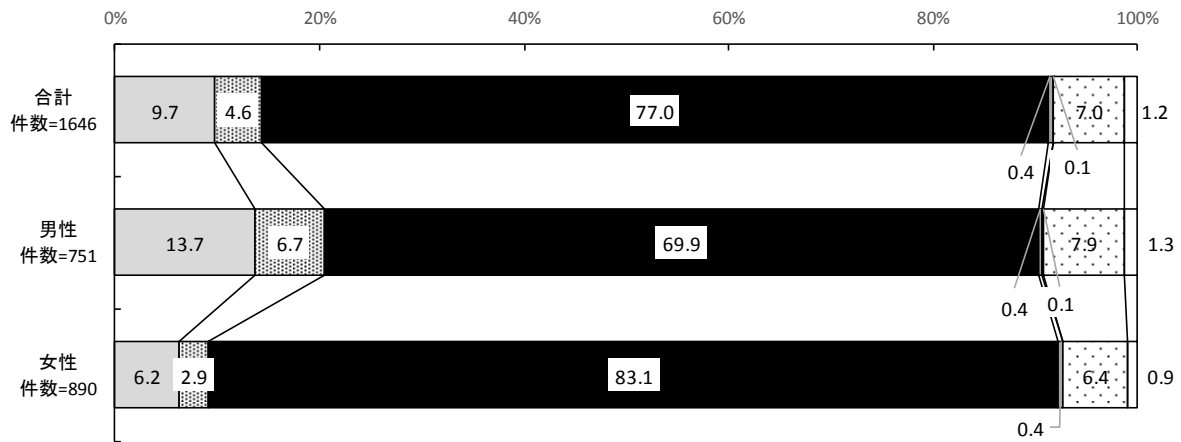
男女の役割を固定的に考えることについて尋ねたところ、「反対」22.5%と「どちらかといえば反対」36.6%を合わせた“反対派”は59.1%、「賛成」4.3%と「どちらかといえば賛成」22.8%を合わせた“賛成派”は27.1%と、“反対派”が“賛成派”を上回った。

性別にみると、“反対派”は男性51.5%に対し、女性65.6%となり、女性が高く男女間での差がみられる。

年齢別にみると、男女共に70代以上の“賛成派”が高く、60代以下との差が大きい。特に、男性30代の子育て世代で「賛成」6.1%と「どちらかといえば賛成」36.6%を合わせた“賛成派”は42.7%を占め、“反対派”の割合を上回る。男性や高齢の方への啓発が必要である。

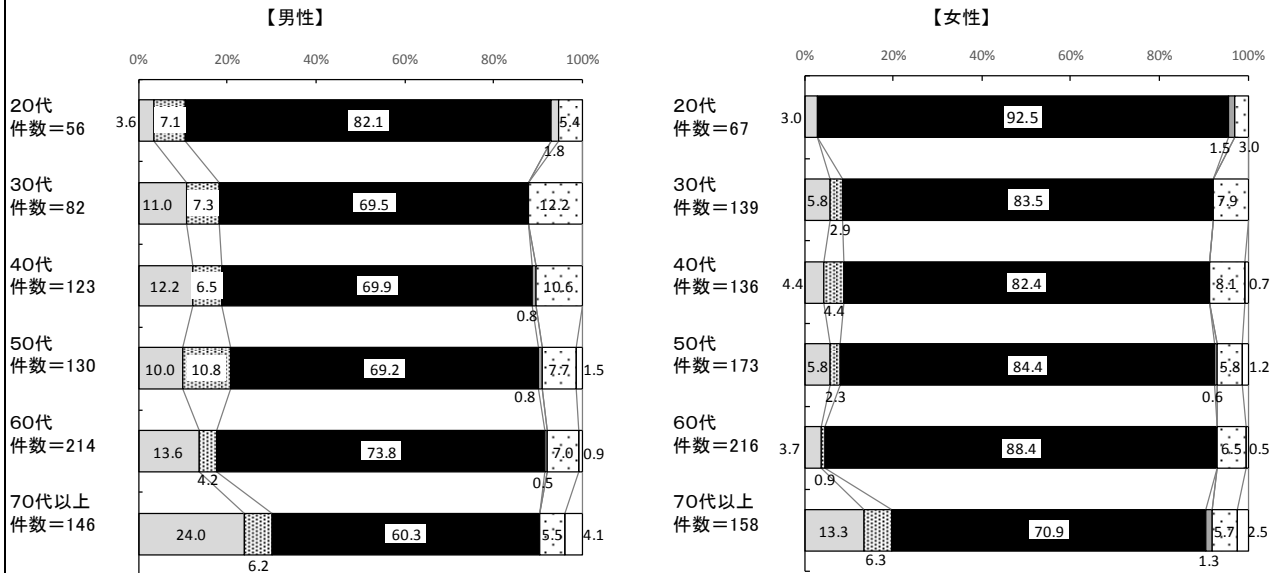
(4) 仕事、家事、育児、介護についての関わり方について

問4 仕事、家事、育児、介護について男女がどのように関わるべきだと思いますか。
(1つに○)



- 男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う
- ▨ 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う
- 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する
- ▩ 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男性が主に行う
- 女性が外で働き、男性が家事・育児・介護を行う
- その他
- 無回答

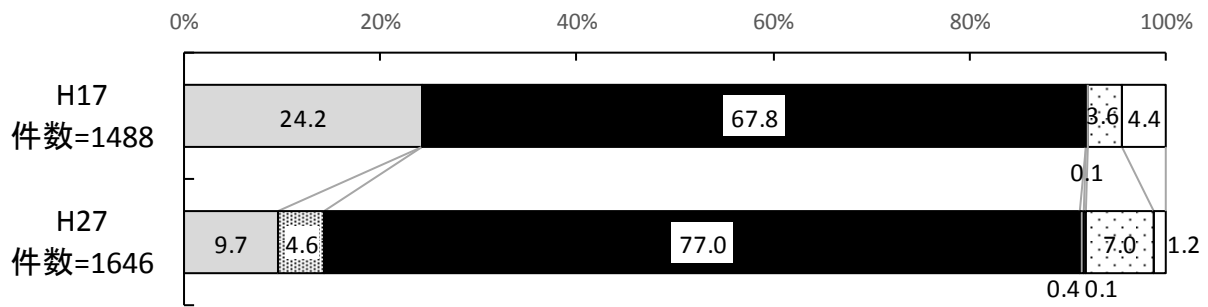
【年齢別】



仕事、家事、育児、介護について男女がどのように関わるべきか尋ねたところ、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」77.0%が最も高かった。

年齢別にみると、70代以上は「男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う」性別役割分業意識が男性24.0%、女性13.3%と男女共に他年代と比べて高い。

【経年比較】



- 男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う
- ▣ 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う
- 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する
- ▣ 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男性が主に行う
- 女性が外で働き、男性が家事・育児・介護を行う
- その他
- 無回答

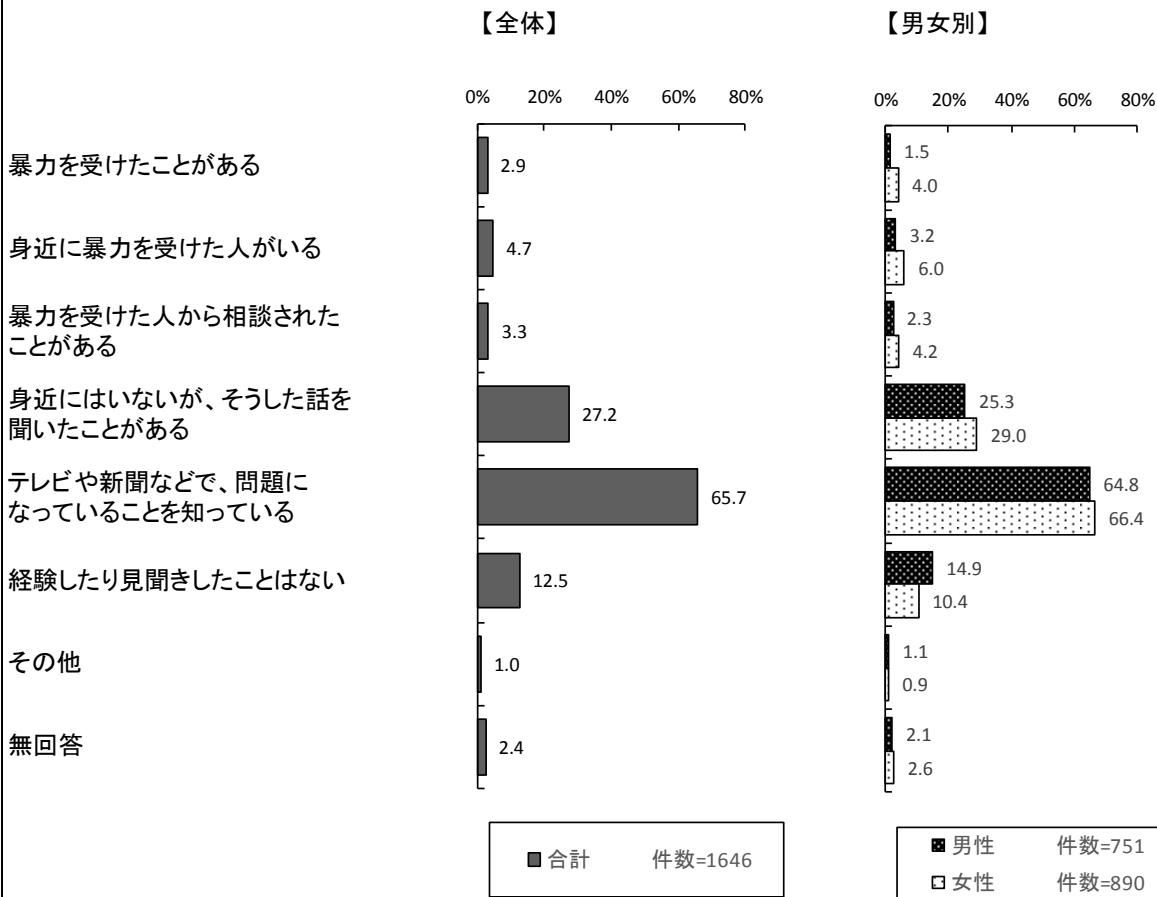
調査年度	合計件数	男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う	男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う	男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する	男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男性が主に行う	女性が外で働き、男性が家事・育児・介護を行う	その他	無回答
前回調査 (H17・2005年)	1488	24.2	-	67.8	-	0.1	3.6	4.4
今回調査 (H27・2015年)	1646	9.7	4.6	77.0	0.4	0.1	7.0	1.2

経年比較でみると、「男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う」性別役割分業意識は、前回調査 24.2%から今回調査 9.7%に減少、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う」新性別役割分業意識は、今回調査 4.6%に留まっている。

2 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験

問5 過去1年間に、「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」
 (ドメスティック・バイオレンス)について、経験したり見聞きしたことがありますか。
 (あてはまるもの全てに○)
 ※暴力には、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力や経済的暴力などがあります。

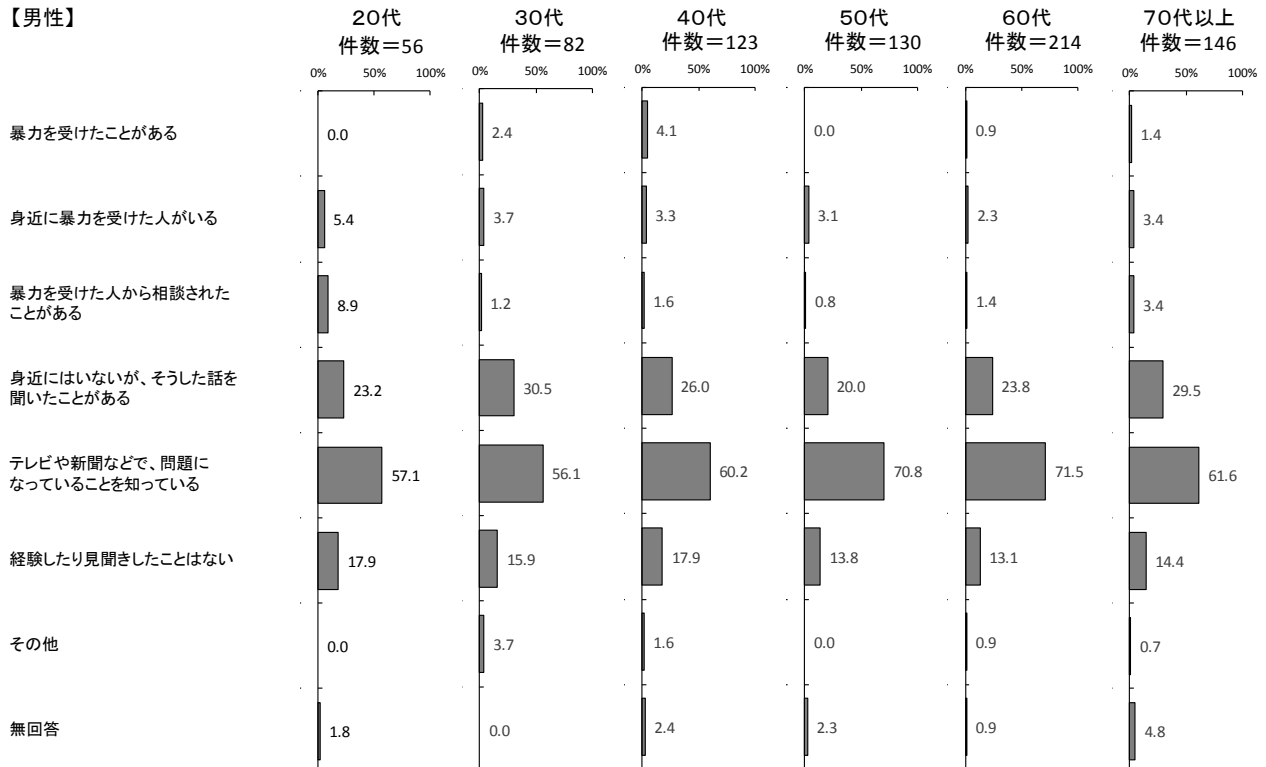


ドメスティック・バイオレンスについて尋ねたところ、過去1年間に、「暴力を受けたことがある」は2.9%。また「身近に暴力を受けた人がいる」4.7%、「暴力を受けた人から相談されたことがある」3.3%となっている。その他、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」は65.7%を占め、「経験したり見聞きしたことはない」は12.5%になっている。

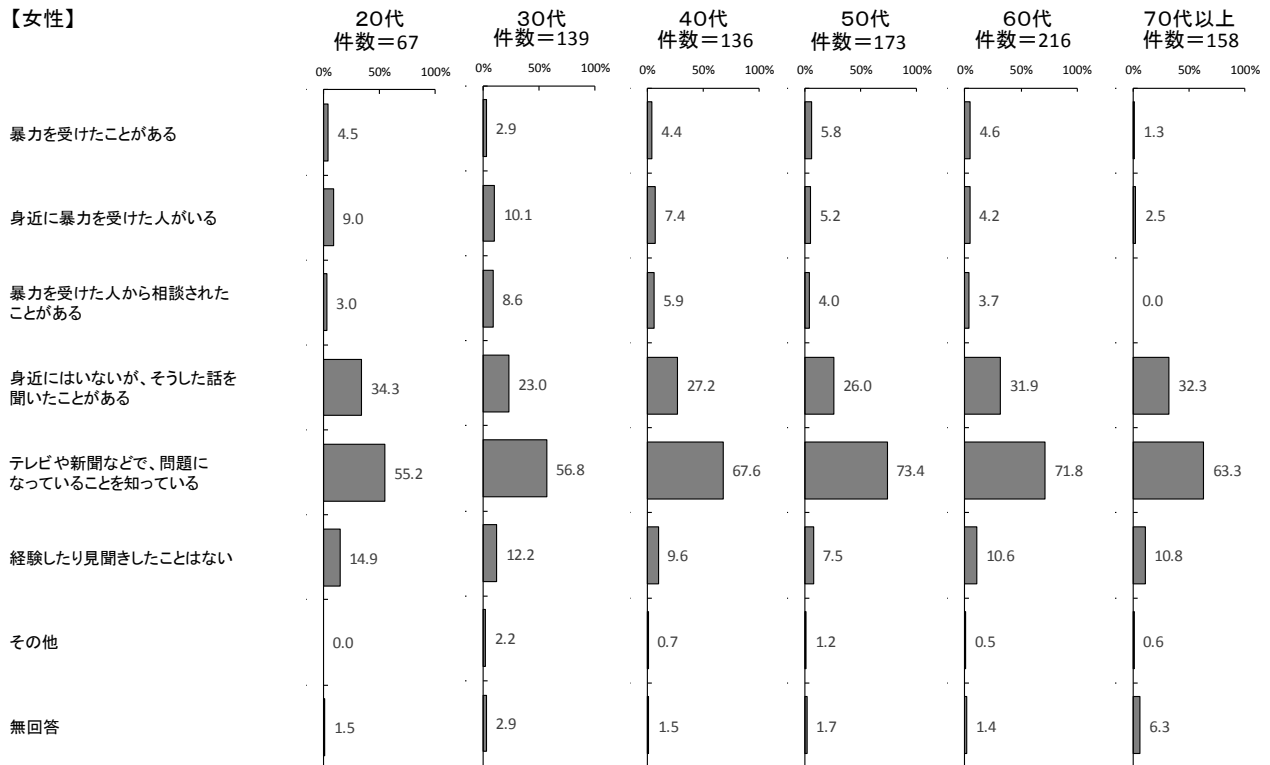
性別にみると、女性の4.0%が「暴力を受けたことがある」、6.0%が「身近に暴力を受けた人がいる」と回答している。

【年齢別】

【男性】

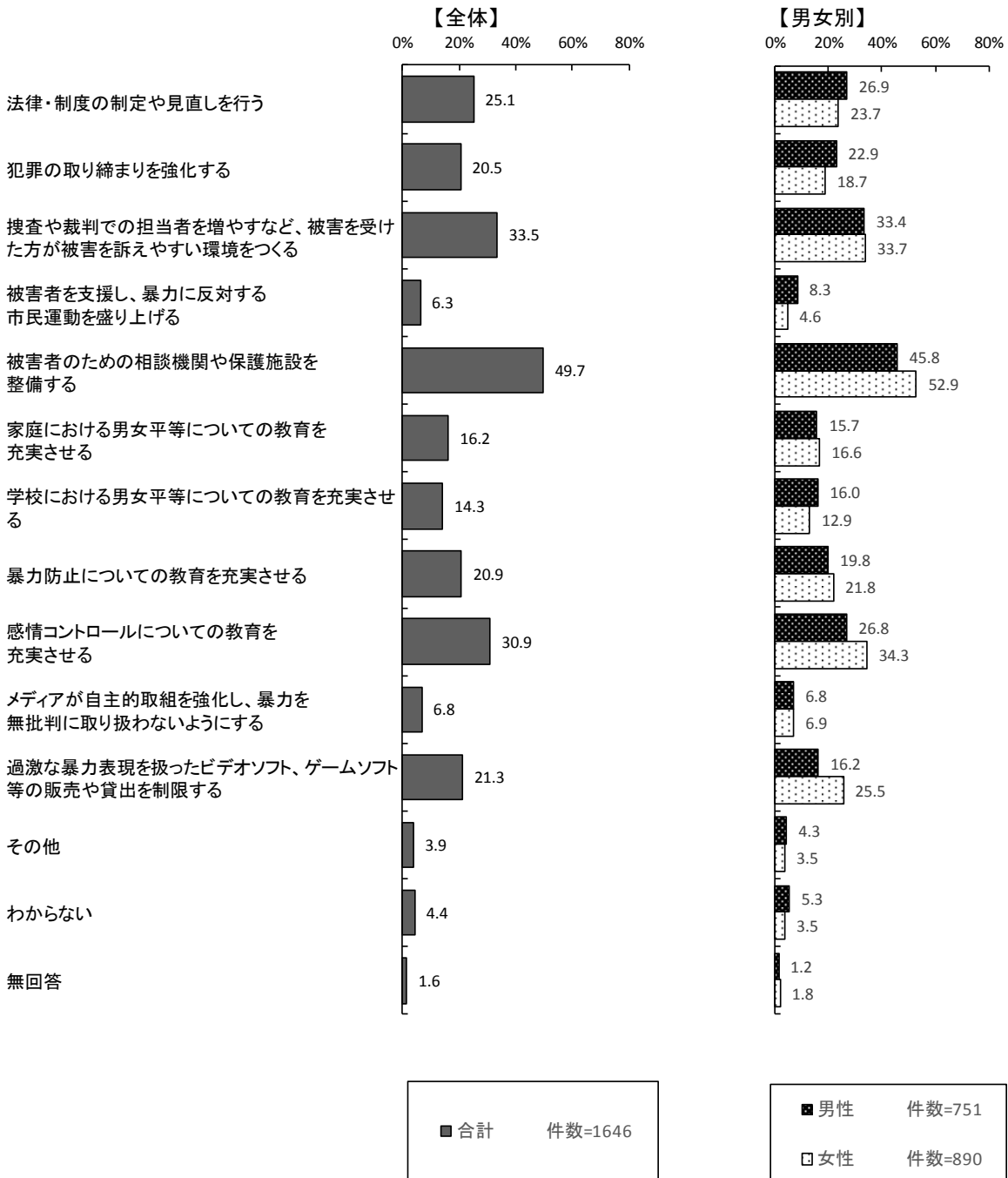


【女性】



(2) ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと

問6 「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」(ドメスティック・バイオレンス)をなくすためには、どうしたらよいとお考えになりますか。あなたが、重要であるとお考えのものをお選びください。(3つまでに○)

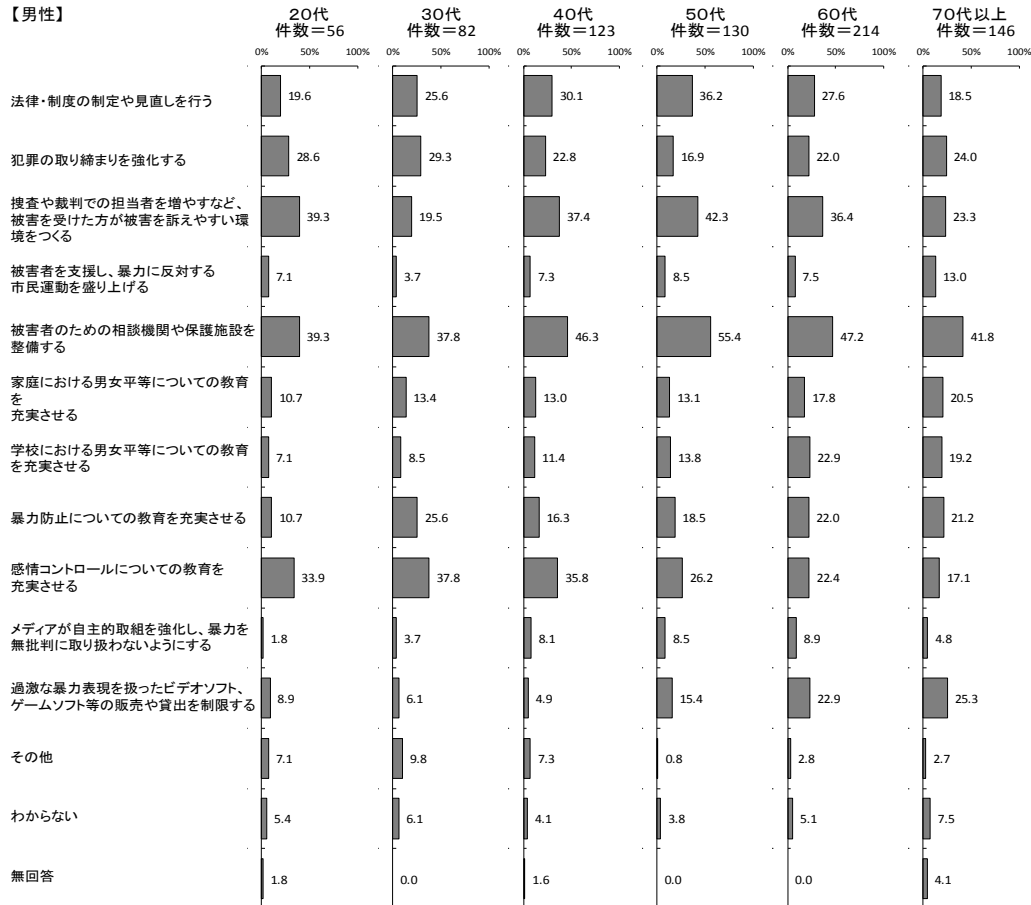


ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要であるとおけるものを尋ねたところ、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」49.7%、「捜査や裁判での担当者を増やすなど、被害を受けた方が被害を訴えやすい環境をつくる」33.5%、「感情コントロールについての教育を充実させる」30.9%となった。

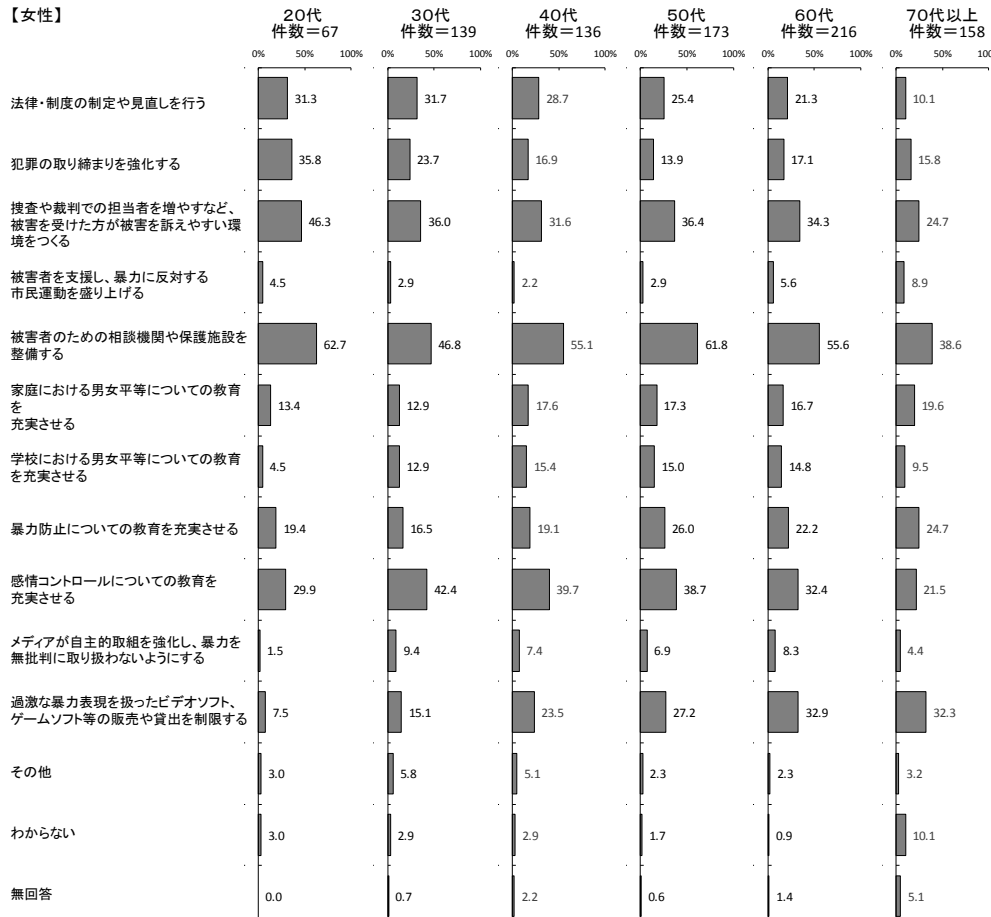
性別にみると、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」は男性45.8%、女性52.9%と最も高く、“被害者の保護”を望む声が多い。

【年齢別】

【男性】



【女性】



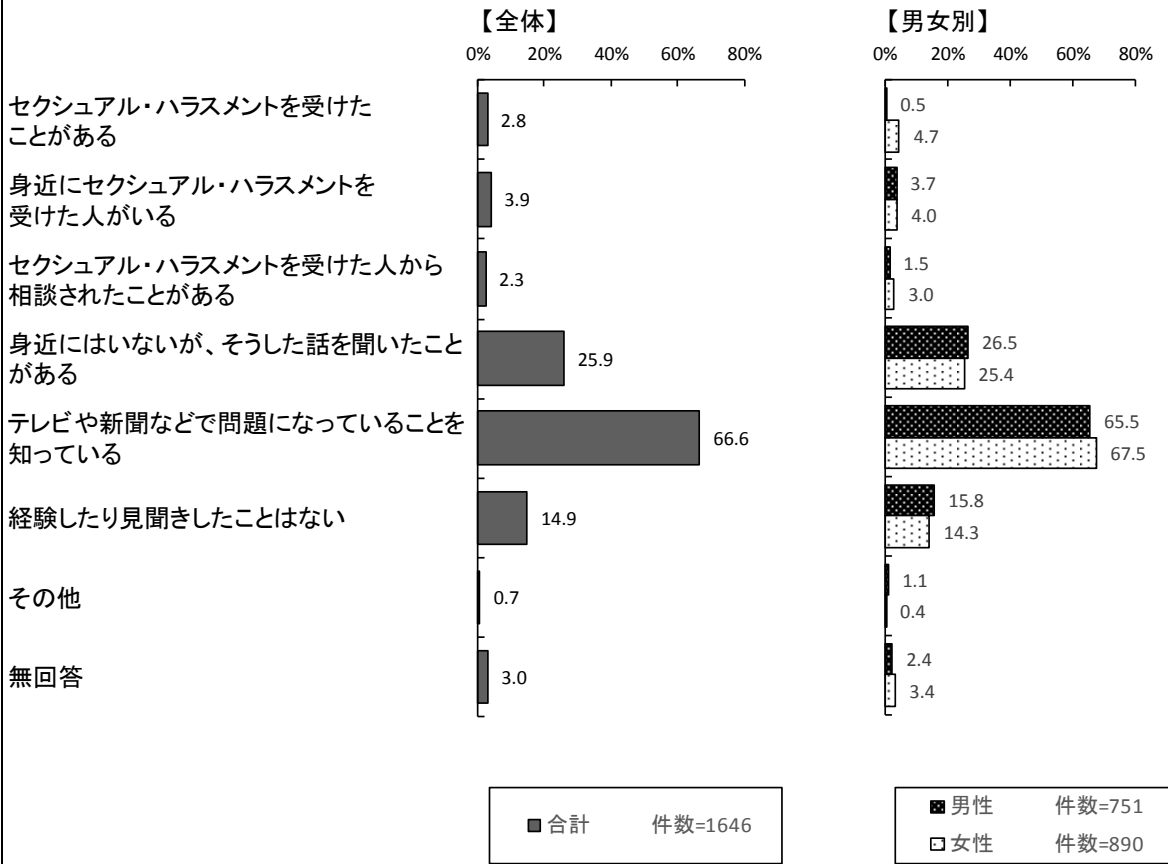
【経年比較】

		法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	捜査や裁判での担当者を増やすなど、被害を受けた方が被害を訴えやすい環境をつくる	被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	家庭における男女平等についての教育を充実させる	学校における男女平等についての教育を充実させる	暴力防止についての教育を充実させる	感情コントロールについての教育を充実させる	メディアが自主的取組を強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする	過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する	その他	わからない	無回答
前回調査 (H17・2005年)	合計 件数 =1488	31.3	-	25.5	28.7	54.2	23.3	23.3	41.3	-	-	-	3.0	7.1	12.5
今回調査 (H27・2015年)	合計 件数 =1646	25.1	20.5	33.5	6.3	49.7	16.2	14.3	20.9	30.9	6.8	21.3	3.9	4.4	1.6

経年比較でみると、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」は前回調査 54.2%、今回調査 49.7%共にトップであったが、前回調査で上位となった「暴力防止についての教育を充実させる」「法律・制度の制定や見直しを行う」は今回調査では数値を落とし、「捜査や裁判での担当者を増やすなど、被害を受けた方が被害を訴えやすい環境をつくる」「感情コントロールについての教育を充実させる」が上位に挙がっている。

(3) セクシュアル・ハラスメントの経験

問7 過去1年間に、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

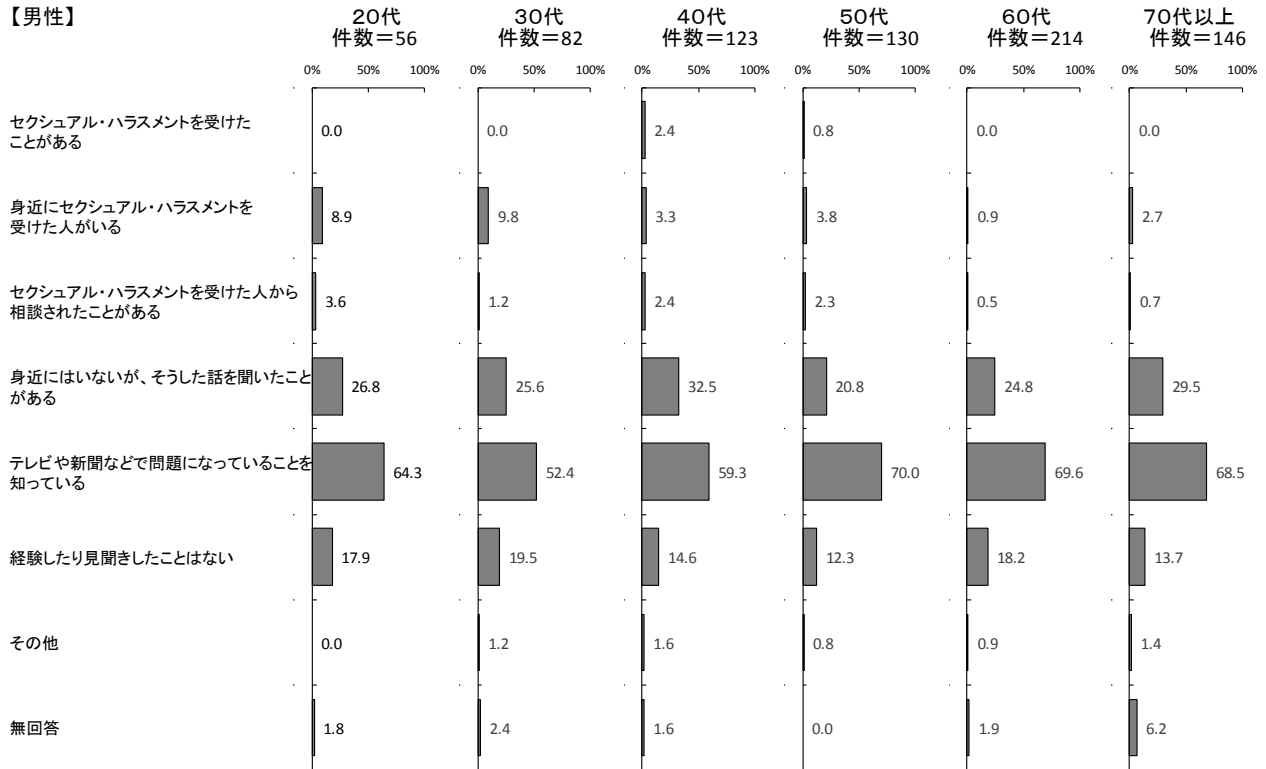


セクシュアル・ハラスメントについて尋ねたところ、過去1年間に、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は2.8%。また「身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる」3.9%、「セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある」2.3%となっている。その他、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」は66.6%を占め、「経験したり見聞きしたことはない」は14.9%となっている。

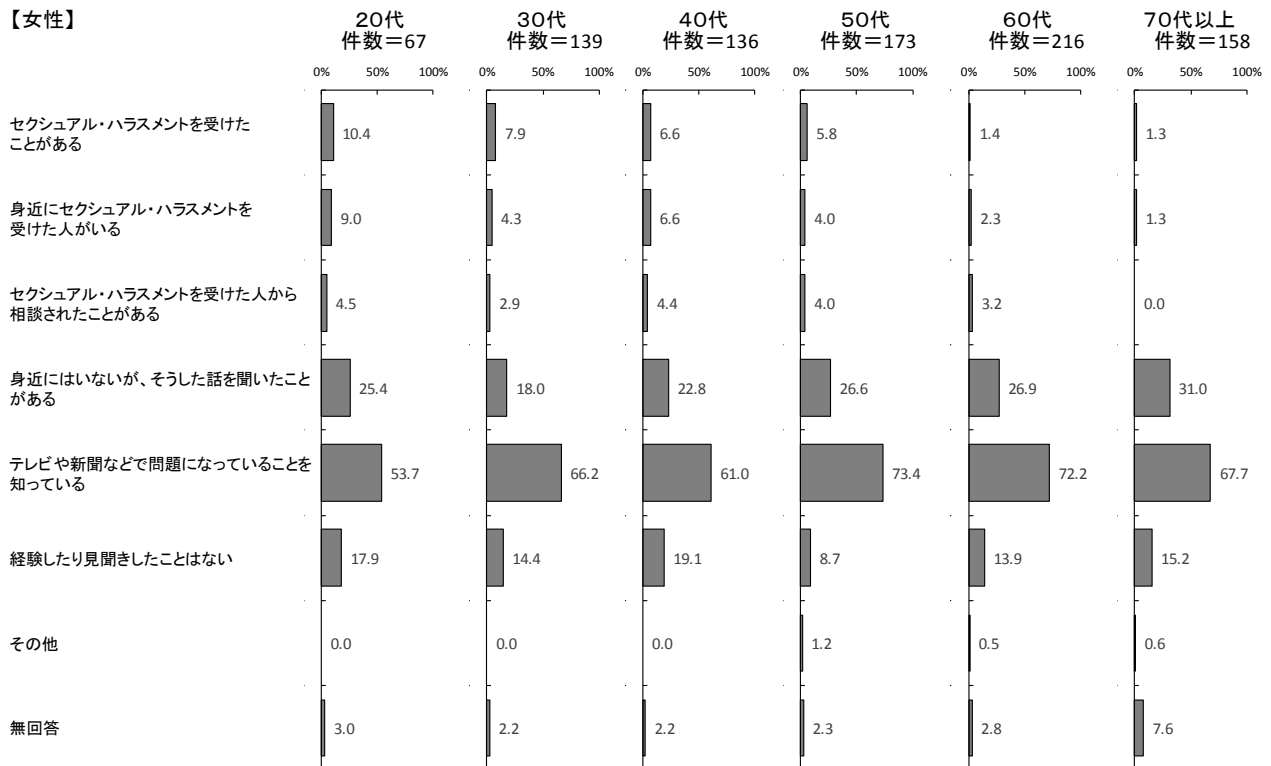
性別にみると、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は、男性0.5%、女性4.7%。

【年齢別】

【男性】



【女性】



年齢別にみると、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は、女性20代10.4%が最も高かった。

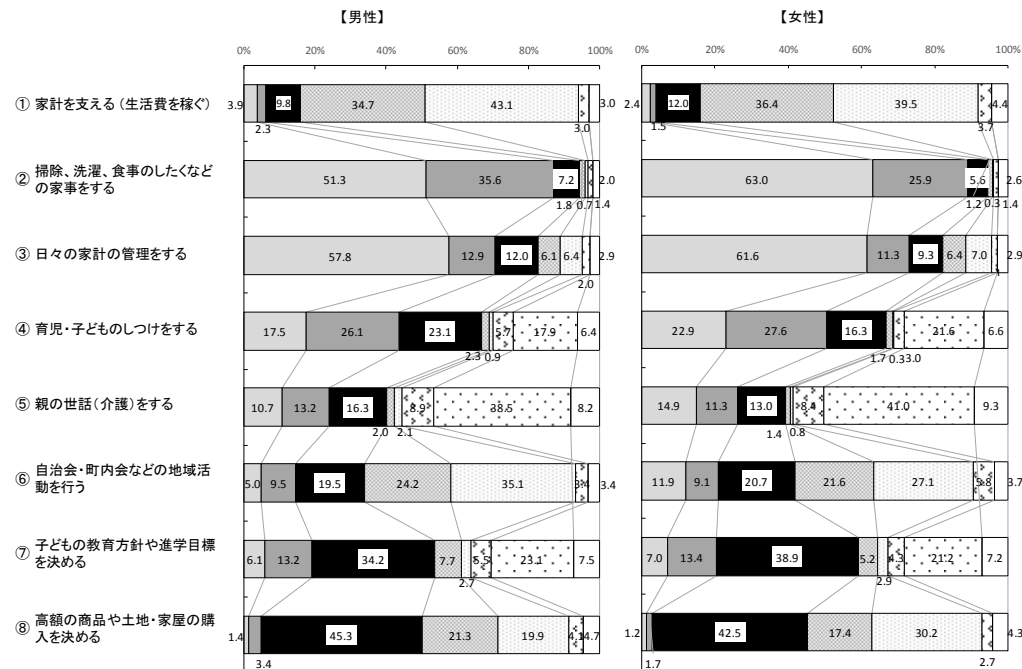
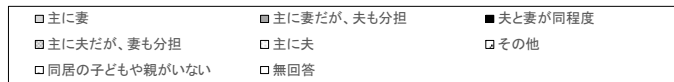
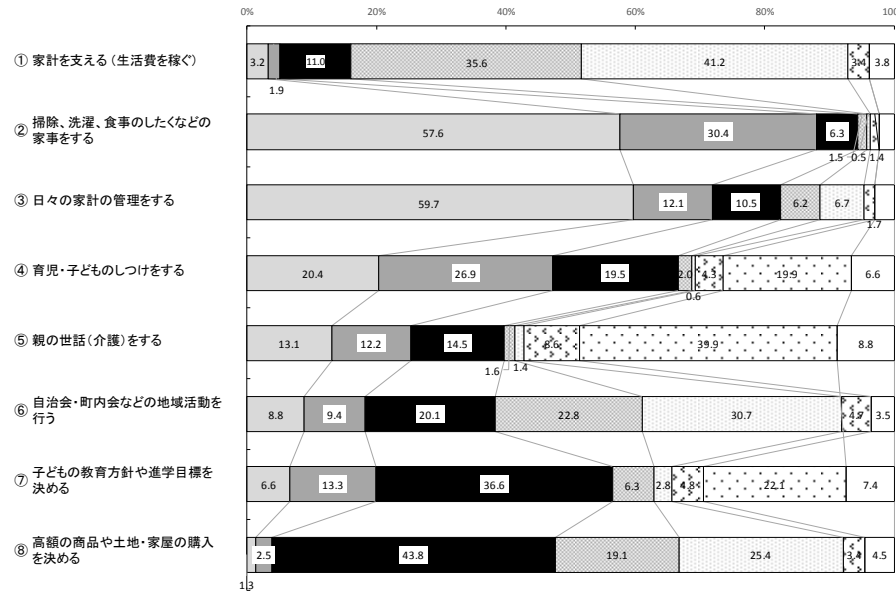
3 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

(1) 家庭での役割分担

問8 現在、配偶者（事実婚を含む）のいる方に伺います。

あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割を、主にどなたが担っていますか。

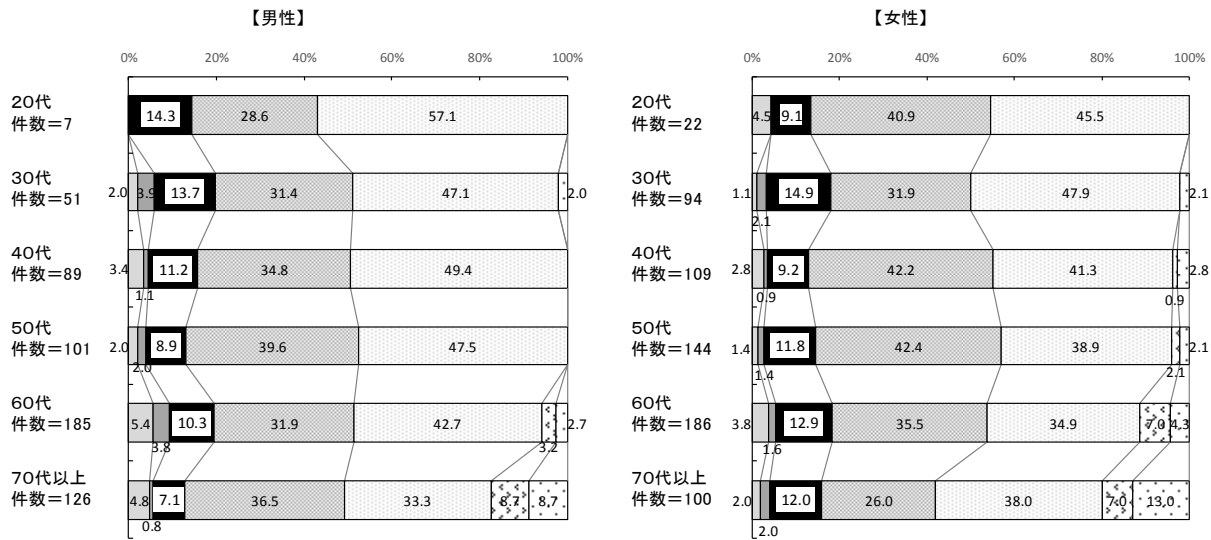
（それぞれ1つに○）



家庭での8つの役割分担について尋ねたところ、「②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする」「③日々の家計の管理をする」では「主に妻」が5割を超えた。一方、「主に夫」が高い項目は、「①家計を支える(生活費を稼ぐ)」41.2%、「⑥自治会・町内会などの地域活動を行う」30.7%。「夫と妻が同程度」が高いのは、「⑦子どもの教育方針や進学目標を決める」36.6%、「⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める」43.8%となった。

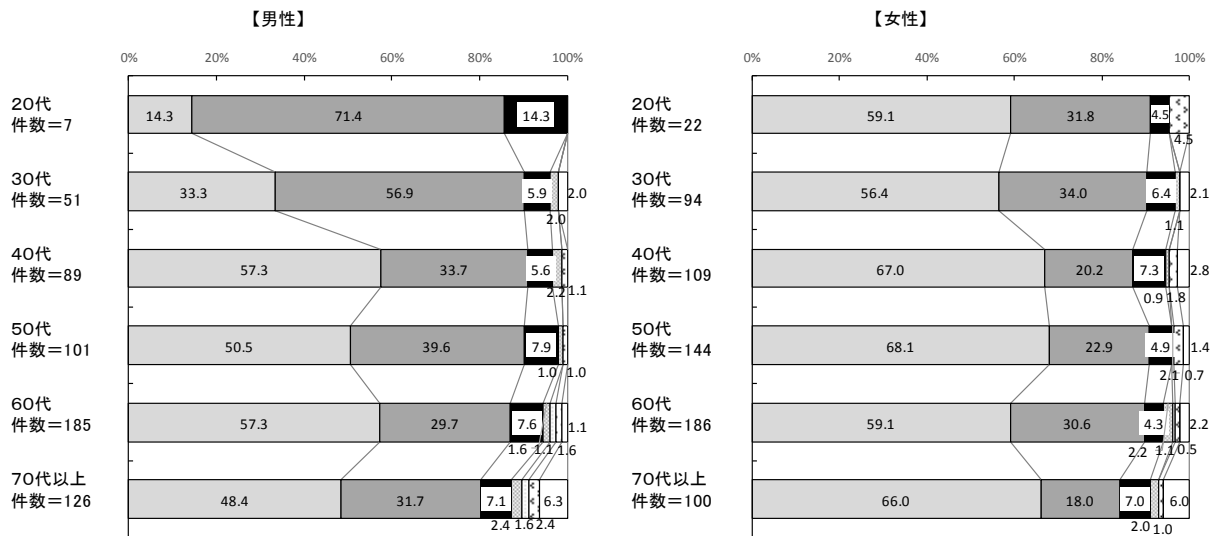
【年齢別】

①家計を支える（生活費を稼ぐ）

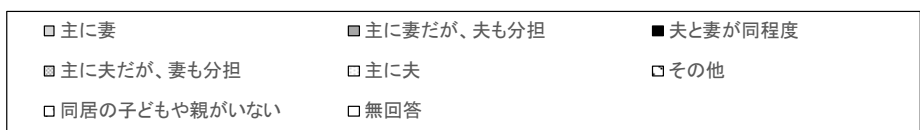


年齢別にみると、「主に夫」と回答した人は、男性20代57.1%が最も高かった。

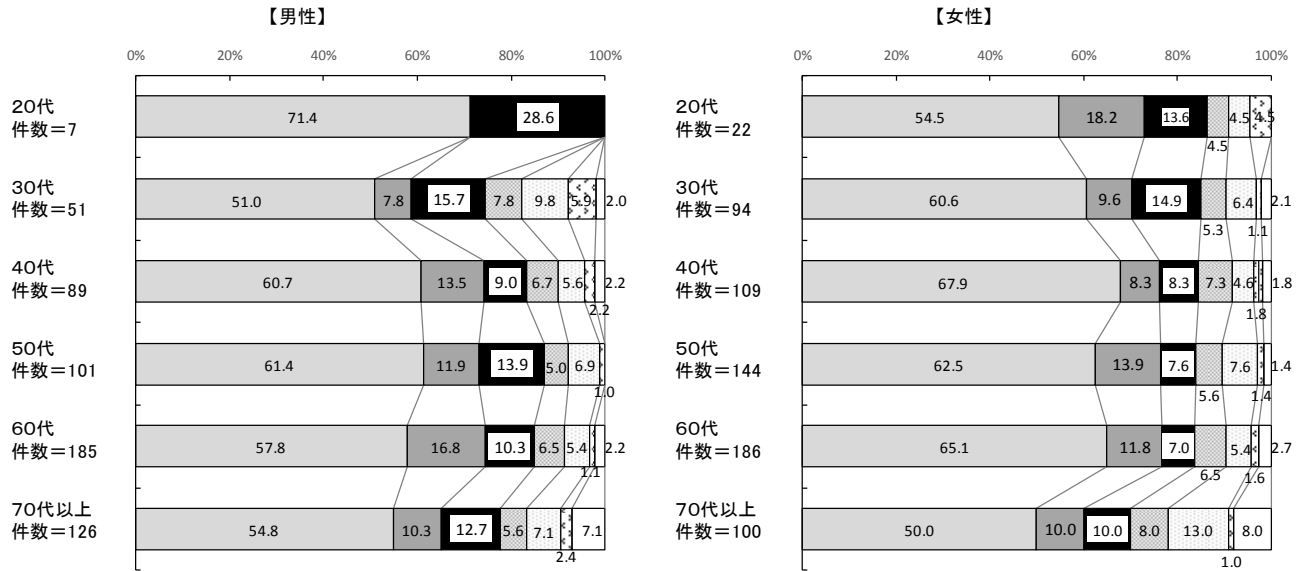
②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする



年齢別にみると、どの年代も「主に妻」と「主に妻だが、夫も分担」を合わせた“妻主体”の傾向が高いが、「主に妻」と回答した人は、男性20代14.3%、男性30代33.3%と低くなっている。

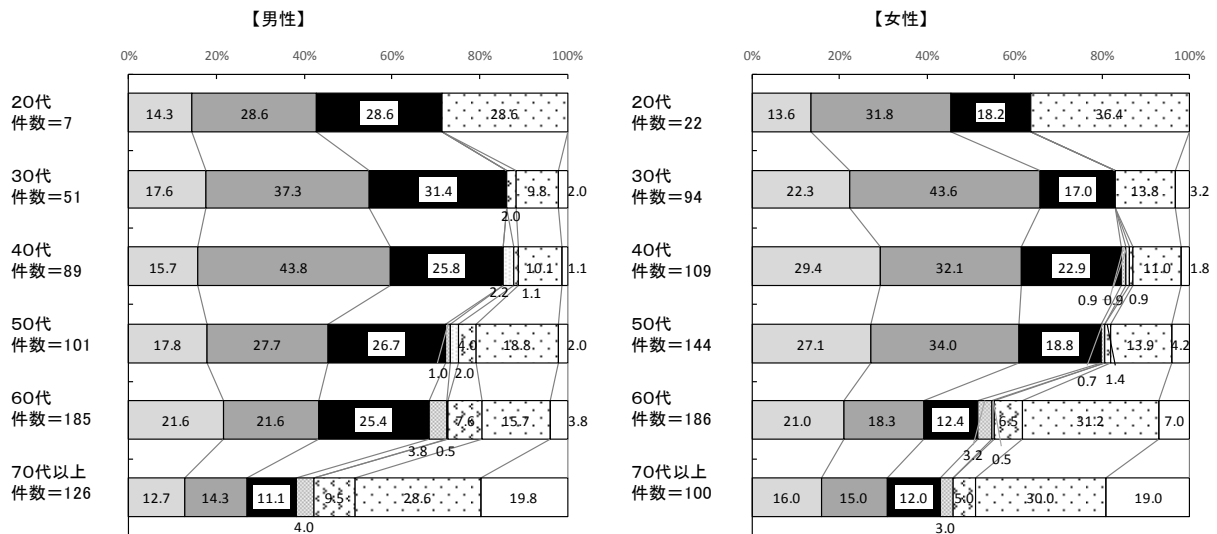


③日々の家計の管理をする

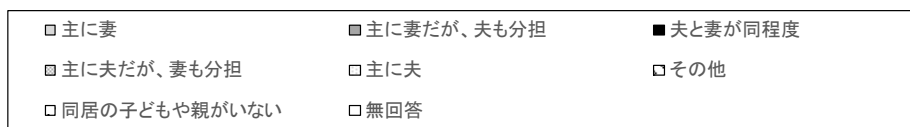


年齢別にみると、「主に妻」と回答した人が特に高いのは男性20代71.4%となった。

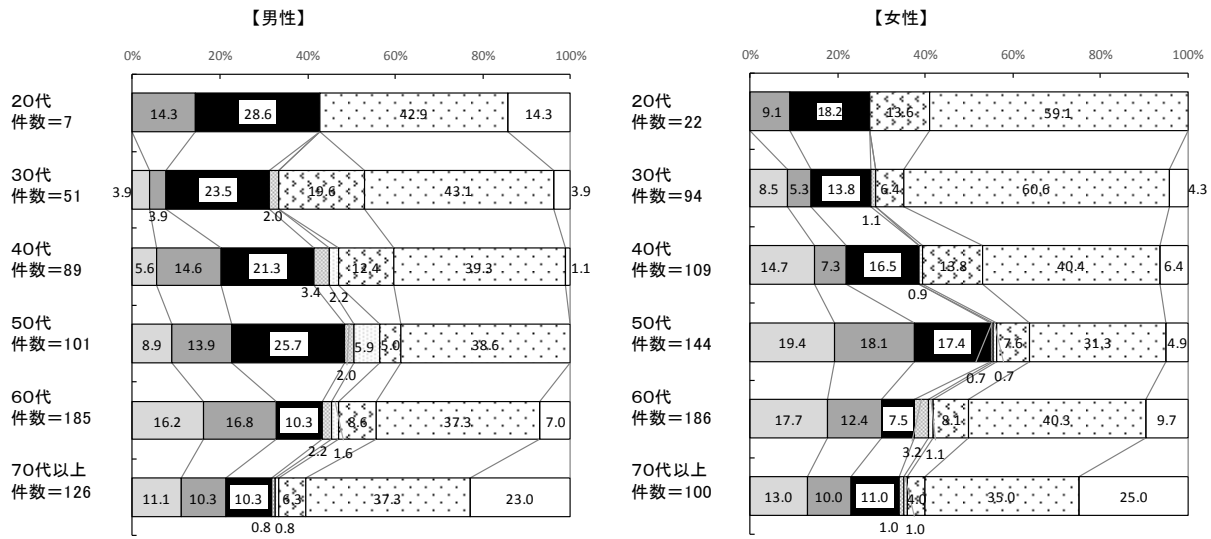
④育児・子どものしつけをする



年齢別にみると、40代は「主に妻」と「主に妻だが、夫も分担」を合わせた“妻主体”の割合は変わらないが、「主に妻」と回答した人は、男性40代15.7%、女性40代29.4%となり、13.7ポイントと男女差があった。

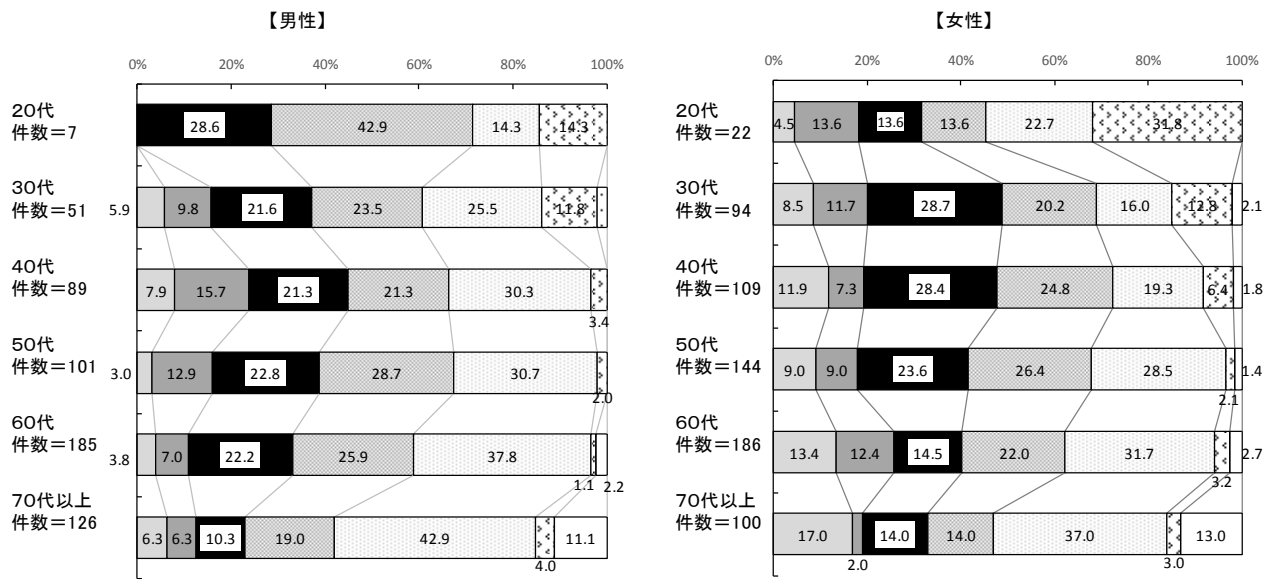


⑤親の世話（介護）をする

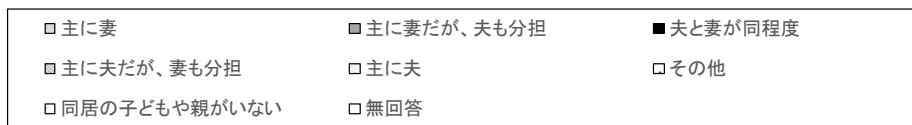


年齢別にみると、「夫と妻が同程度」と回答した人は、60代までは男性が女性を上回った。男性60代以上、女性40代以上は、「主に妻」と「主に妻だが、夫も分担」を合わせた“妻主体”の割合が高くなっている。

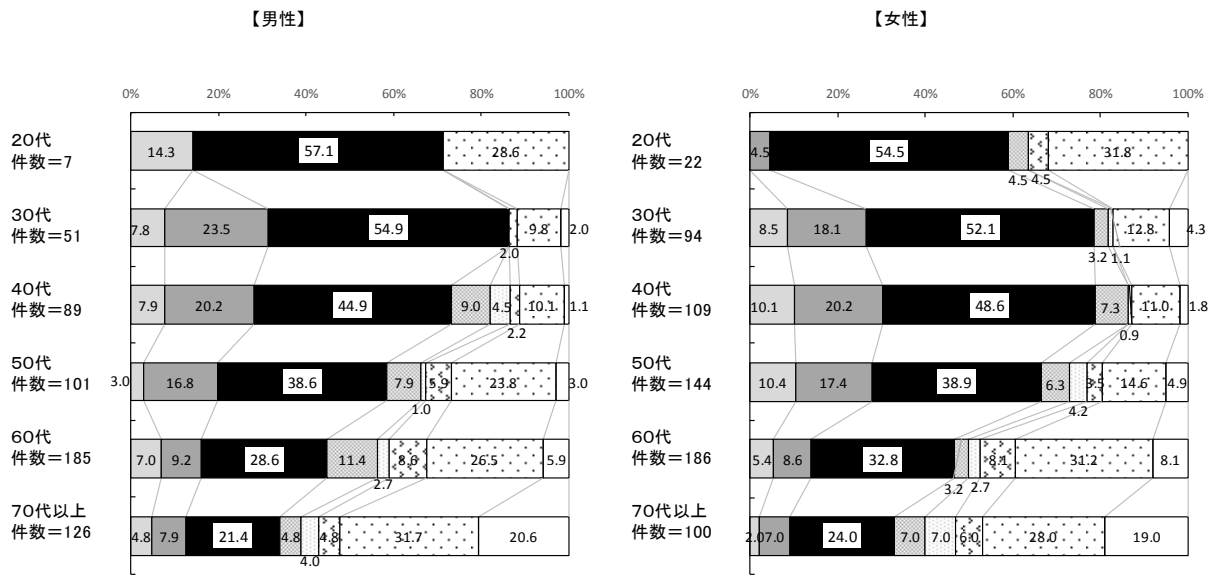
⑥自治会・町内会などの地域活動を行う



年齢別にみると、「夫と妻が同程度」と回答した人は、60代までは男性が女性を上回った。

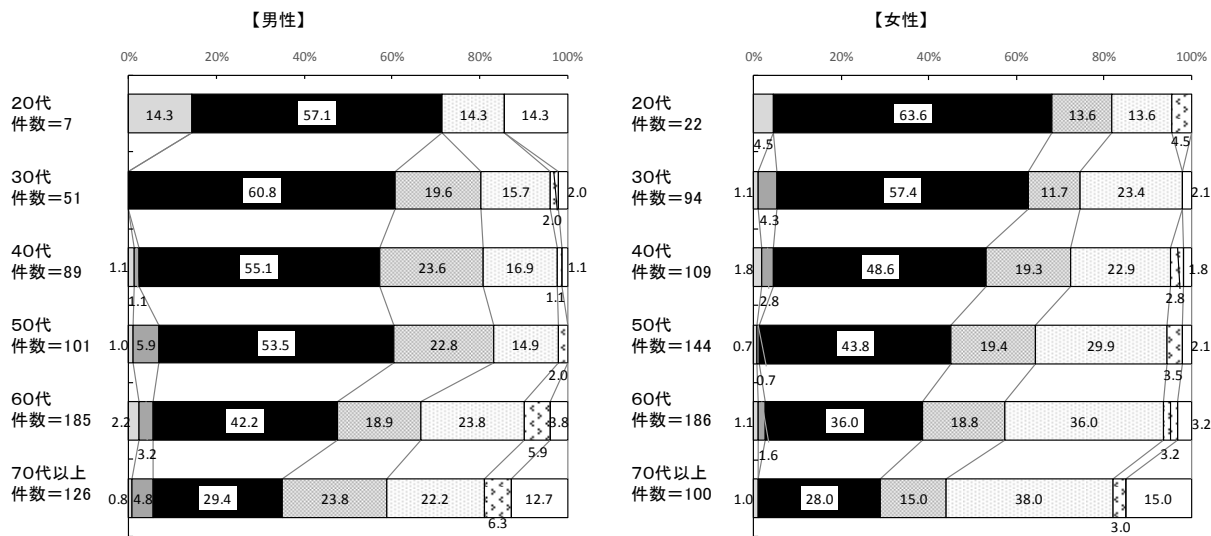


⑦子どもの教育方針や進学目標を決める

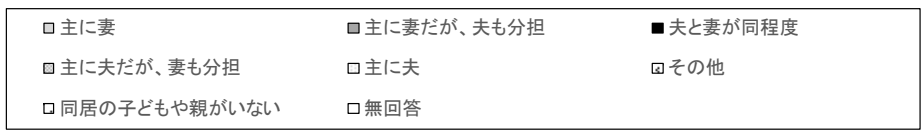


年齢別にみると、「夫と妻が同程度」と回答した人は、男女共に30代以下で過半数を占めた。

⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める

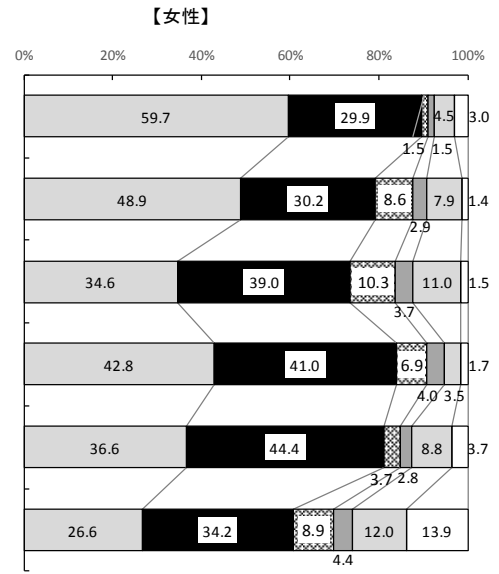
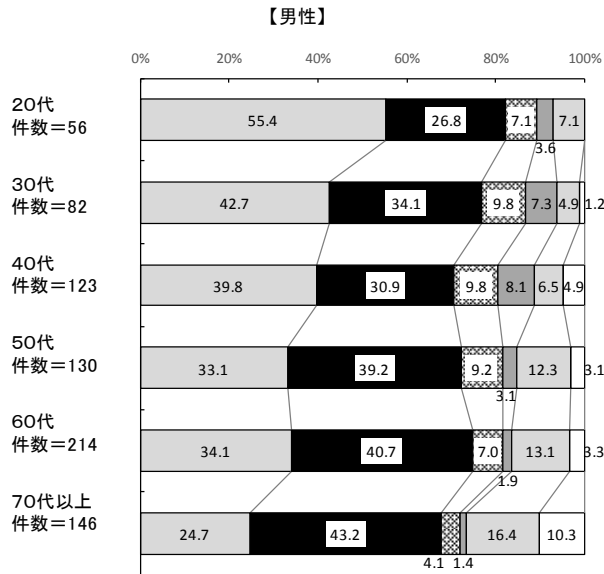


年齢別にみると、「夫と妻が同程度」が4割以上なのは、男性が60代以下、女性は50代以下となり、年齢が高くなるほど“夫主体”が高くなる傾向にあった。

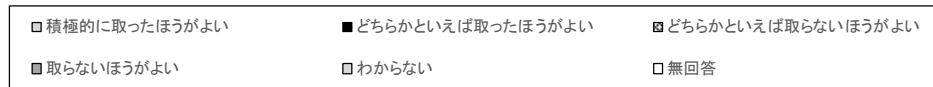
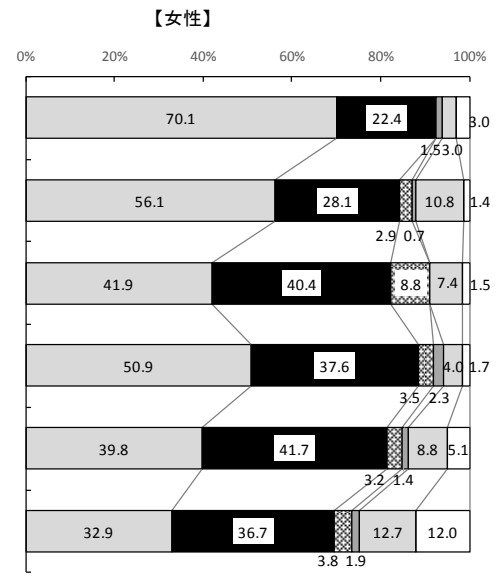
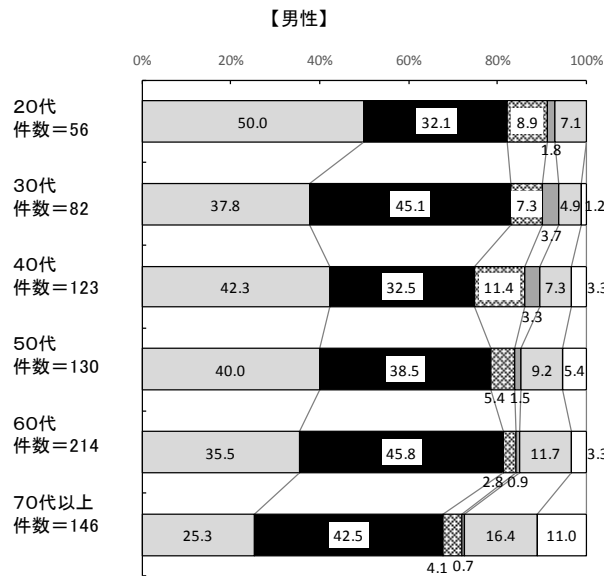


【年齢別】

①育児休業



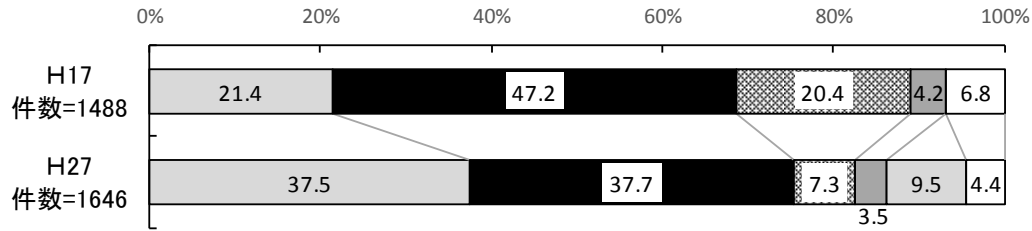
②介護休業



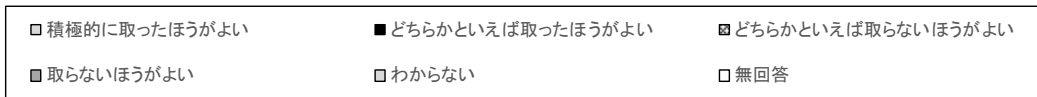
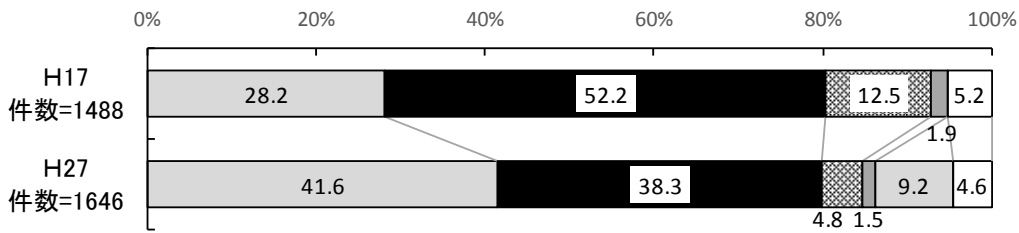
年齢別にみると、「①育児休業」の「積極的に取ったほうがよい」は男性20代55.4%、女性20代59.7%、「②介護休業」の「積極的に取ったほうがよい」は男性20代50.0%、女性20代70.1%となり、男女20代が最も高かった。

【経年比較】

①育児休業



②介護休業



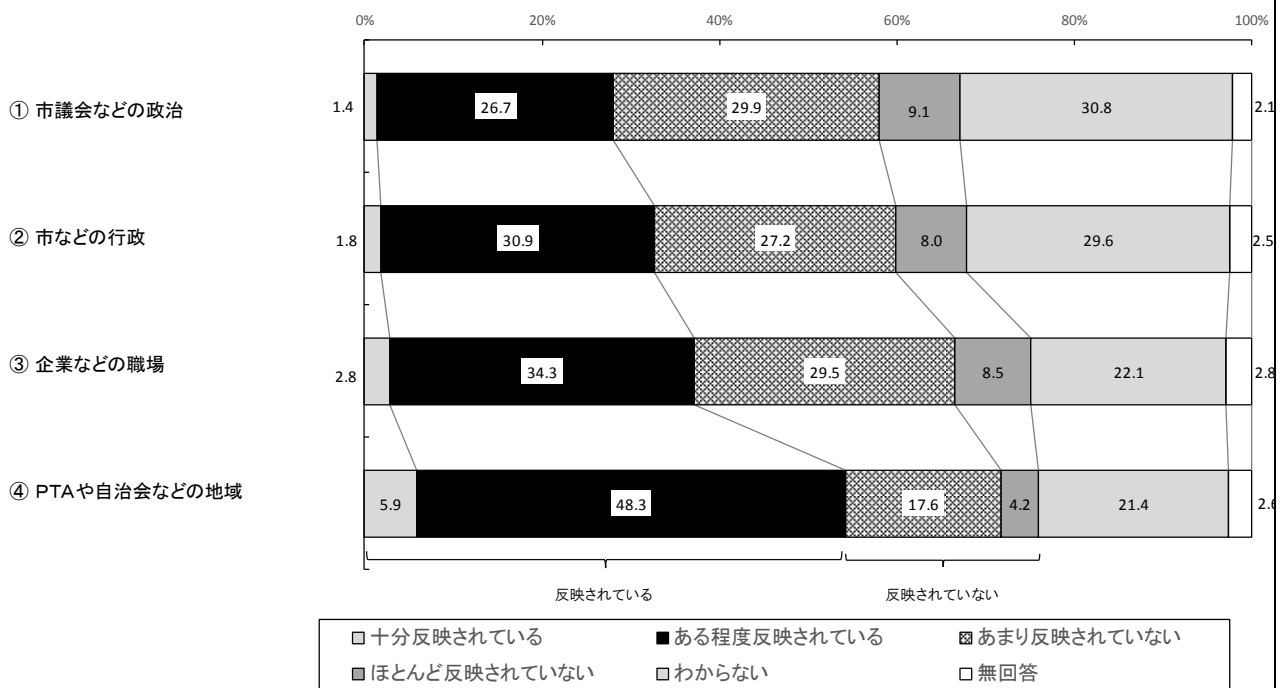
			よ積 い極 的に 取 っ た ほ う が	たど ほ う ら が よ い え ば 取 っ	な ど ち ら か と い え ば 取 ら	取 ら な い ほ う が よ い	わ か ら な い	無 回 答
①育児休業	前回調査 (H17・2005年)	合計 件数=1488	21.4	47.2	20.4	4.2	-	6.8
	今回調査 (H27・2015年)	合計 件数=1646	37.5	37.7	7.3	3.5	9.5	4.4
②介護休業	前回調査 (H17・2005年)	合計 件数=1488	28.2	52.2	12.5	1.9	-	5.2
	今回調査 (H27・2015年)	合計 件数=1646	41.6	38.3	4.8	1.5	9.2	4.6

経年比較でみると、「積極的に取ったほうがよい」は、「①育児休業」前回調査 21.4%、今回調査 37.5%と 16.1 ポイント高くなり、「②介護休業」前回調査 28.2%、今回調査 41.6%と 9.3 ポイント高くなった。

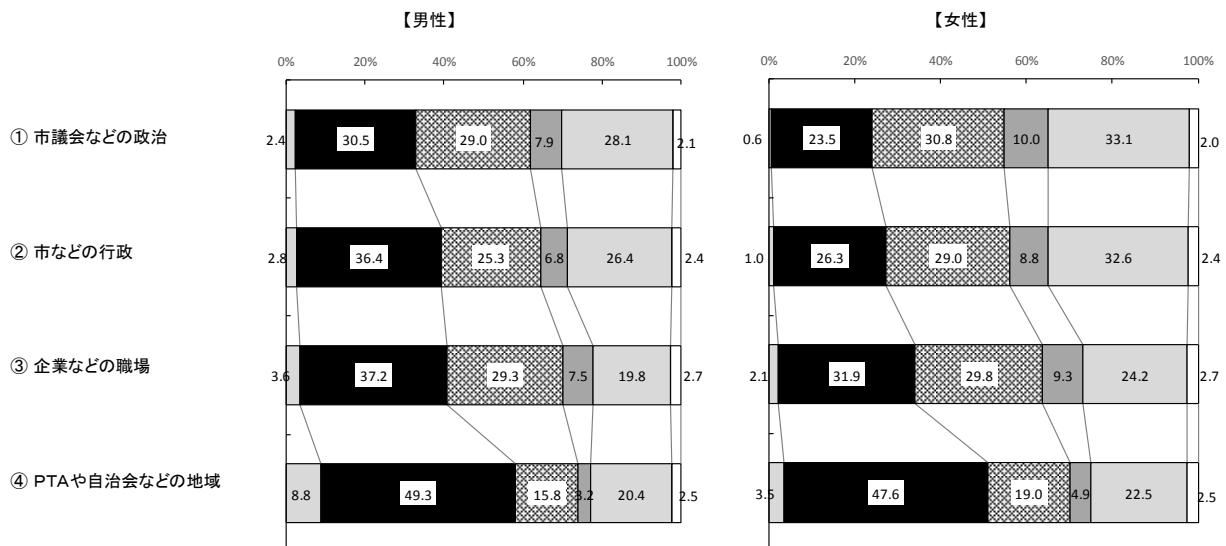
4 意思決定の過程への女性の参画について

(1) 各分野における女性の意見の反映状況

問10 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。
(それぞれ1つに○)



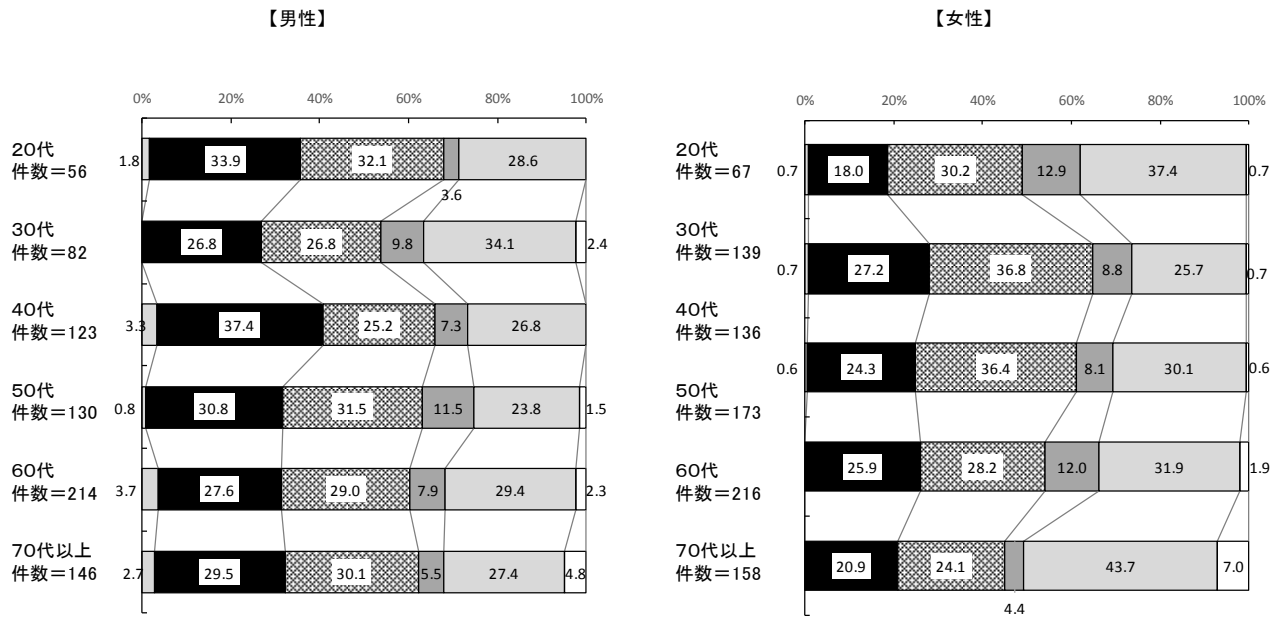
【性別】



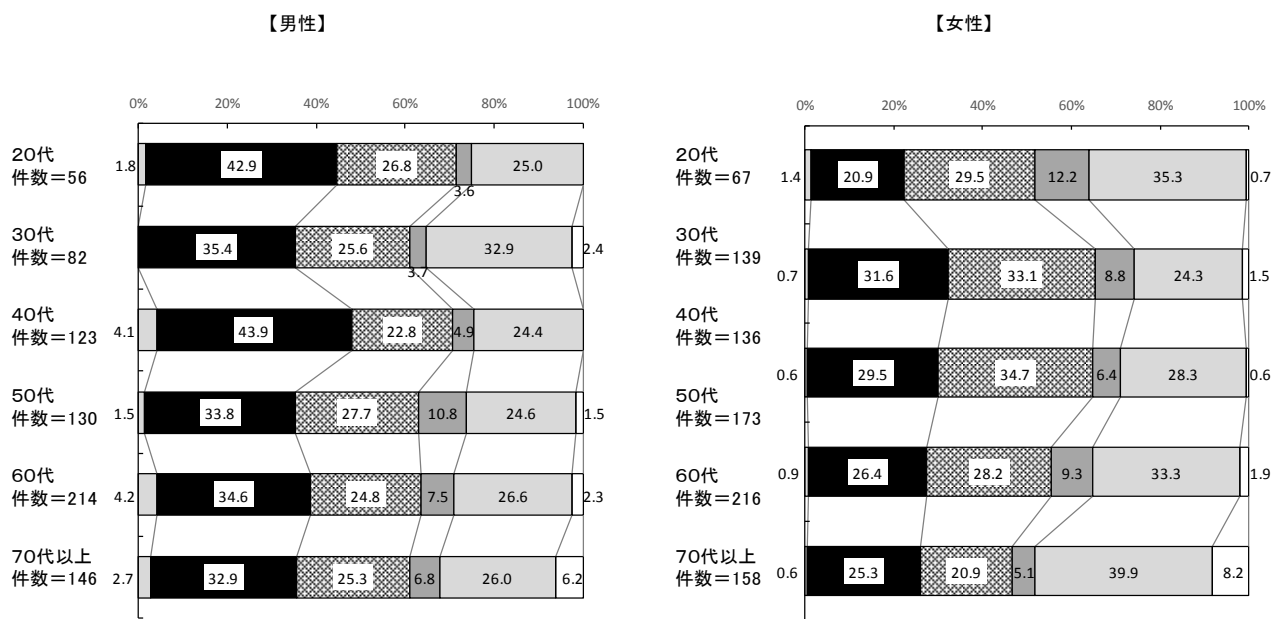
各分野について、女性の意見が反映されているかどうかを尋ねたところ、「④PTAや自治会などの地域」について、「十分反映されている」5.9%と「ある程度反映されている」48.3%を合わせた「反映されている」と回答した人の割合は半数を超えている。「①市議会などの政治」は「反映されている」28.1%に対し、「反映されていない」と「あまり反映されていない」を合わせた「反映されていない」39.0%は、「反映されていない」が上回った。「②市などの行政」は、「反映されている」32.7%、「反映されていない」35.2%。「③企業などの職場」は「反映されている」37.1%、「反映されていない」38.0%となり、「反映されている」と「反映されていない」がほぼ同割合となった。

【年齢別】

①市議会などの政治

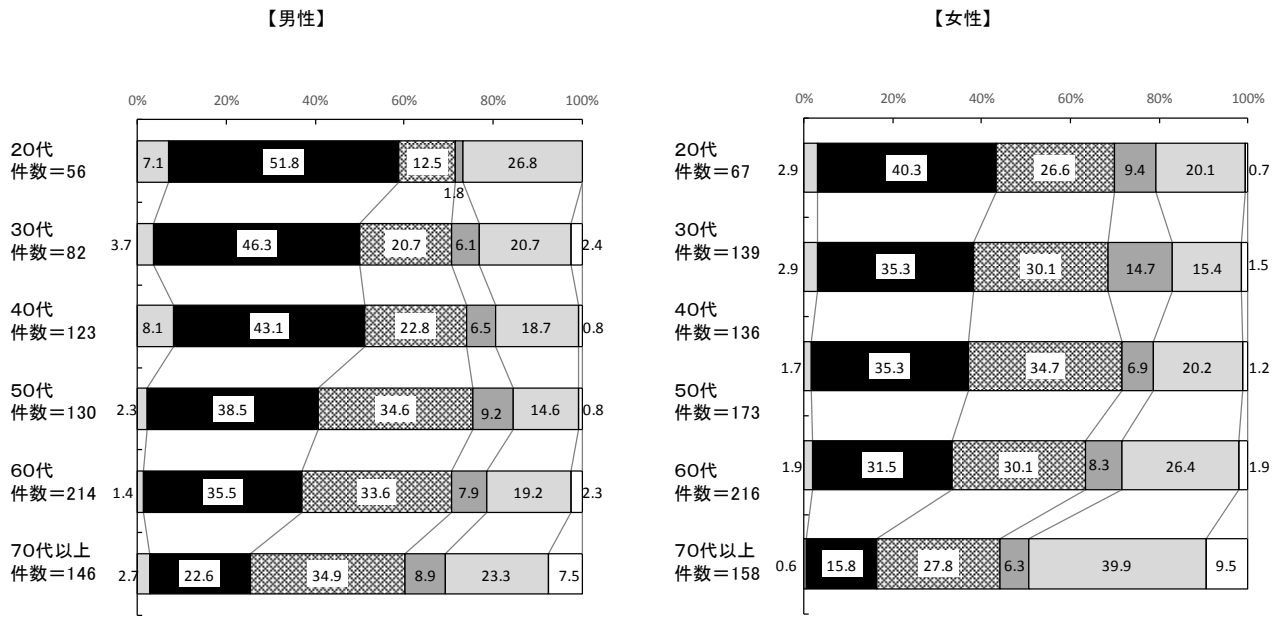


②市などの行政

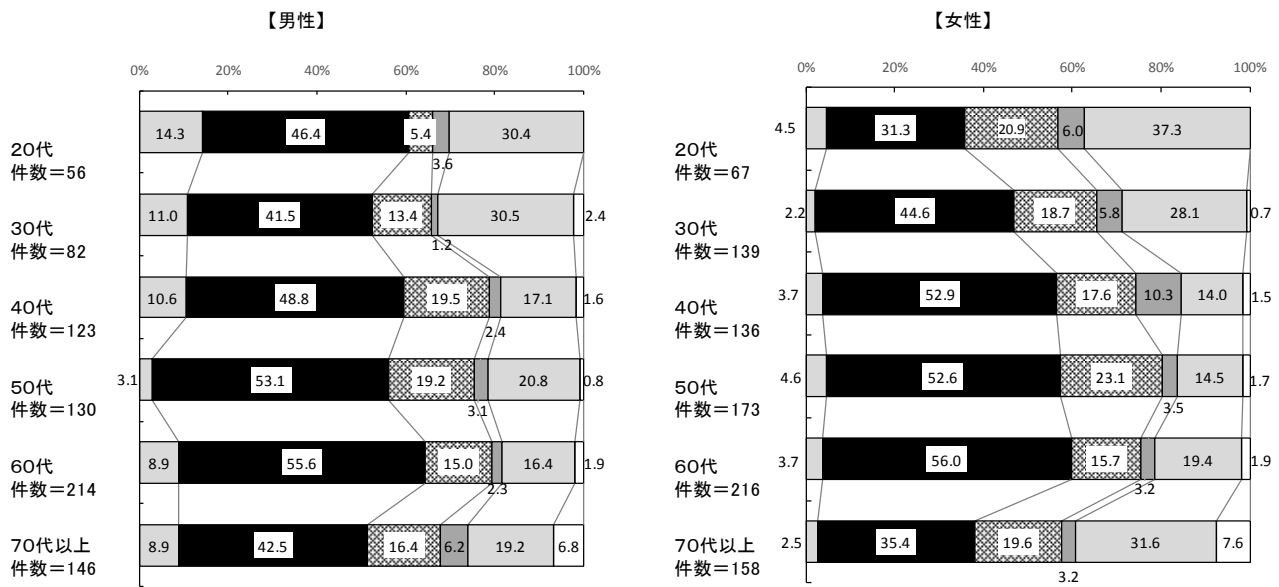


十分反映されている ある程度反映されている あまり反映されていない
 ほとんど反映されていない わからない 無回答

③企業などの職場



④PTAや自治会などの地域

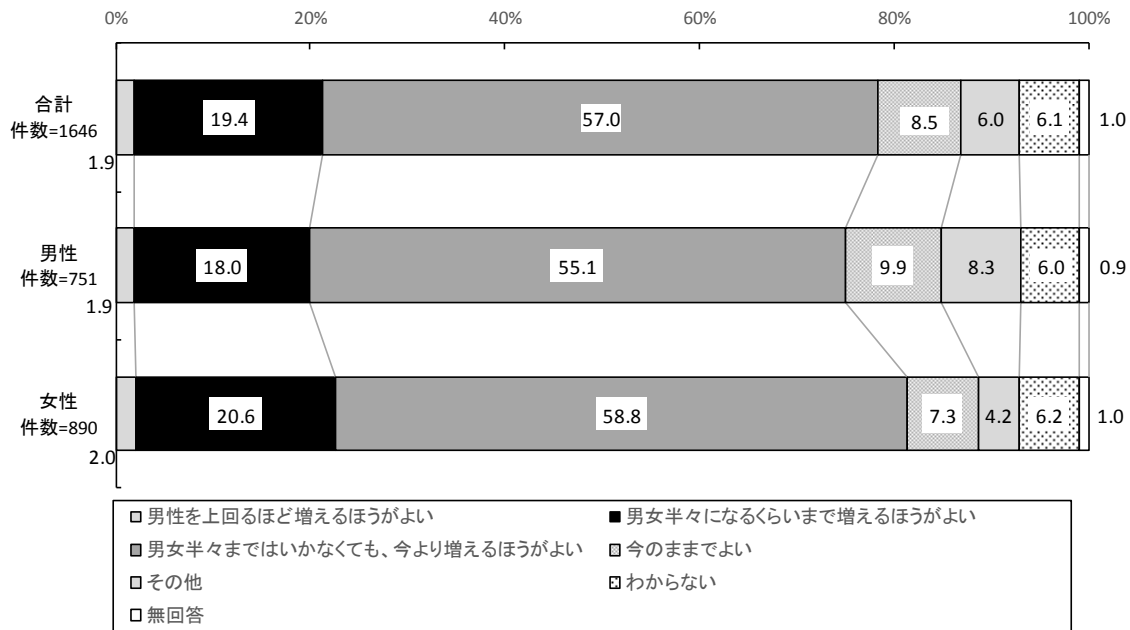


十分反映されている ある程度反映されている あまり反映されていない
 ほとんど反映されていない わからない 無回答

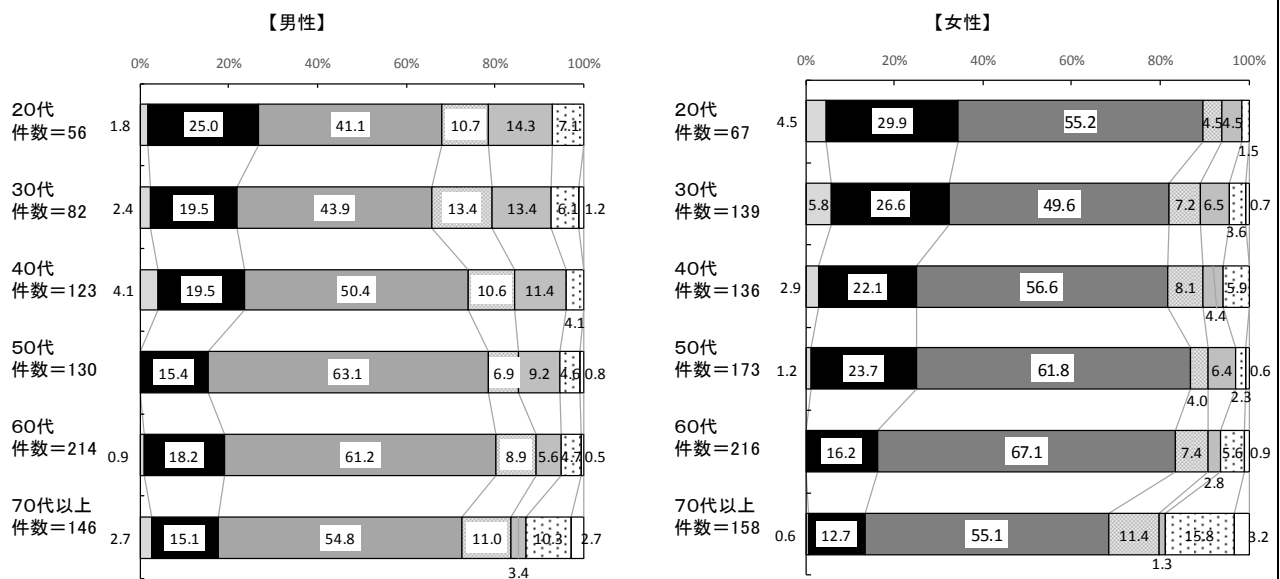
(2) 意思決定の場に女性が参画すること

問 11 あなたは、女性が管理的部門や指導的地位へ就くことについてどのように考えますか。

(1つに○)



【年齢別】



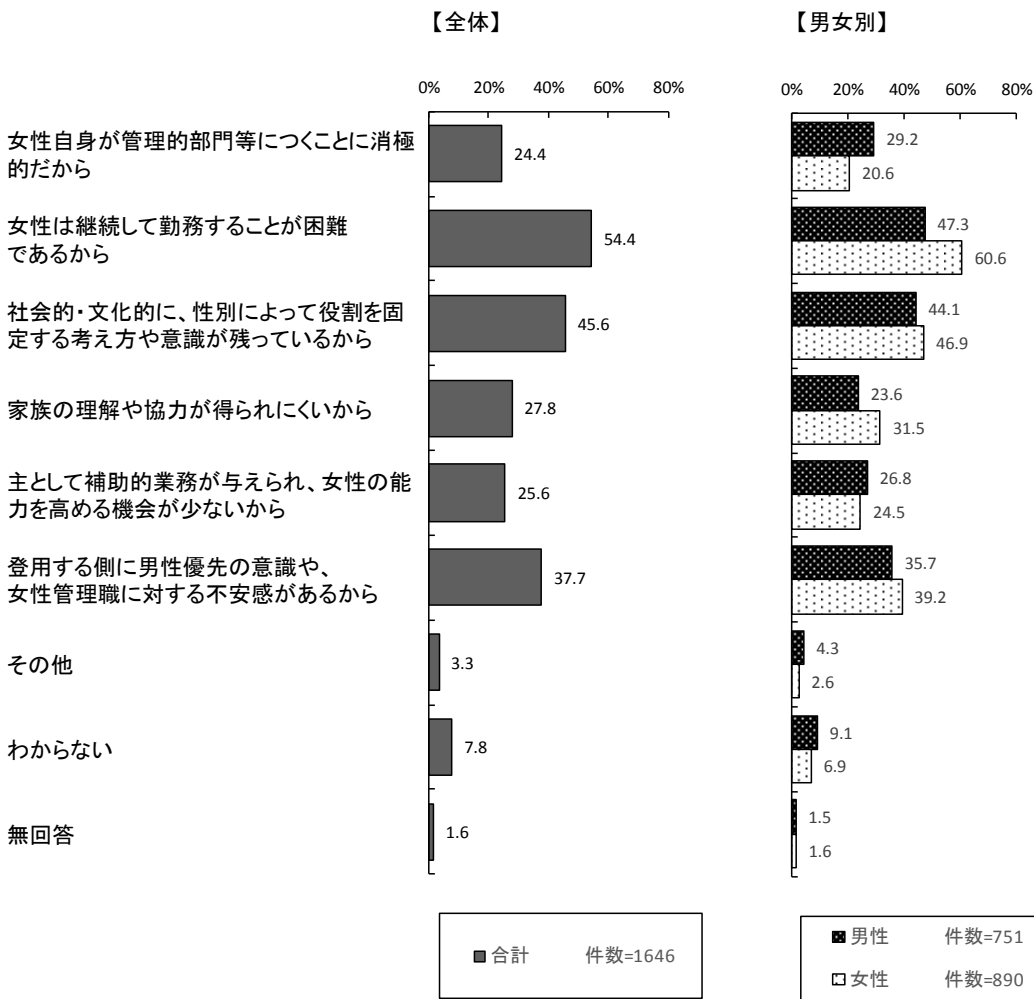
女性が管理的部門や指導的地位へ就くことを尋ねたところ、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」が最も高く、57.0%を占めた。

性別にみると、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」は、男性 55.1%、女性 58.8%となり、女性が男性を上回った。

年齢別にみると、「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」は男性 20代 25.0%、女性 20代 29.9%、女性 30代 26.6%と若年層がより“女性が増えること”を望んでいる。

(3) 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由

問12 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。
(3つまでに○)

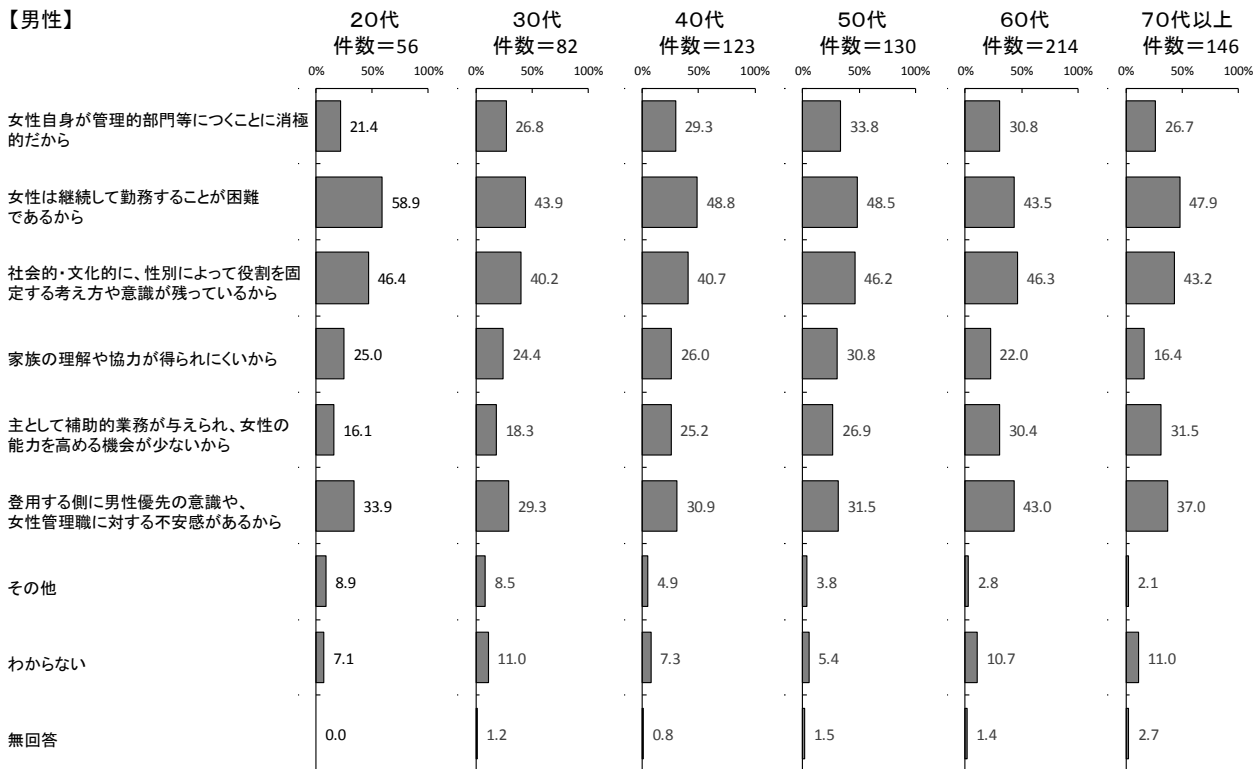


意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由について尋ねたところ、「女性は継続して勤務することが困難であるから」54.4%が最も高く、次いで「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」45.6%となった。

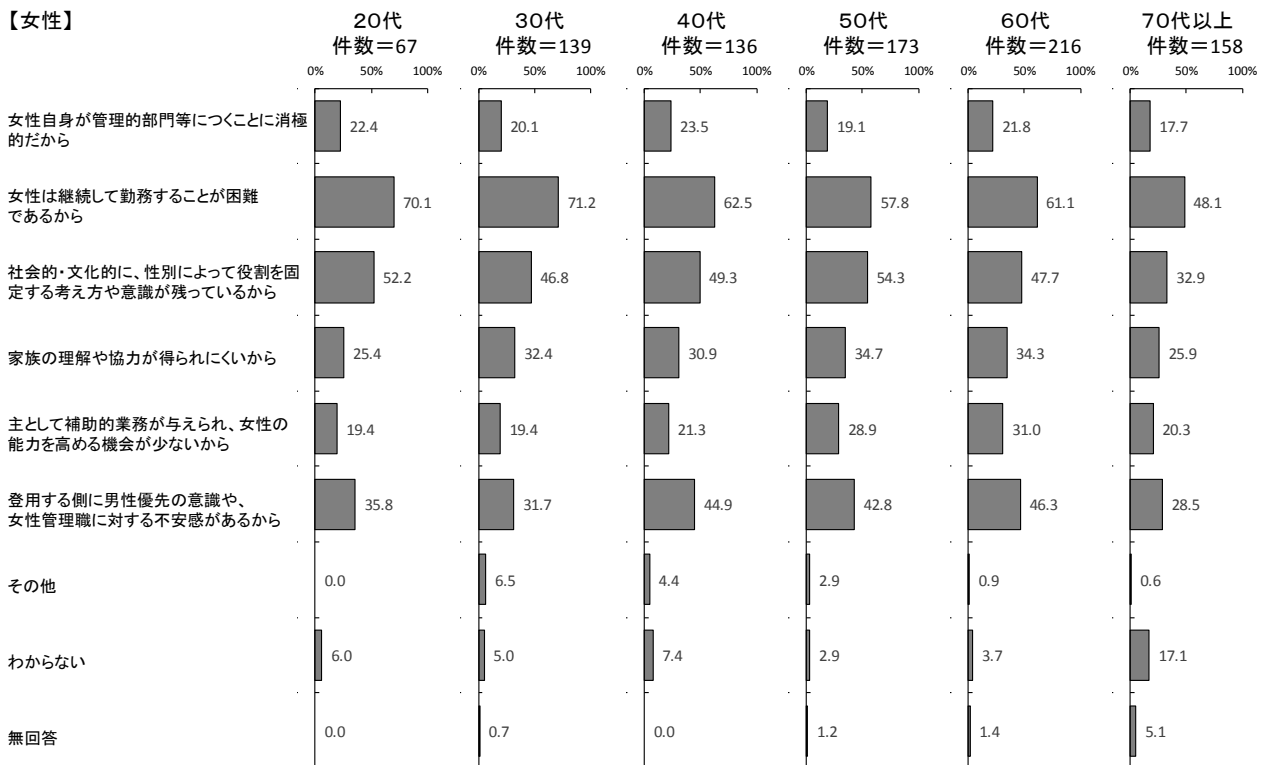
性別にみると、「女性は継続して勤務することが困難であるから」は、男性47.3%、女性60.6%となり、女性が男性を上回った。「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」は、男性29.2%、女性20.6%と男性が上回っている。男女間で認識の違いがある。

【年齢別】

【男性】



【女性】

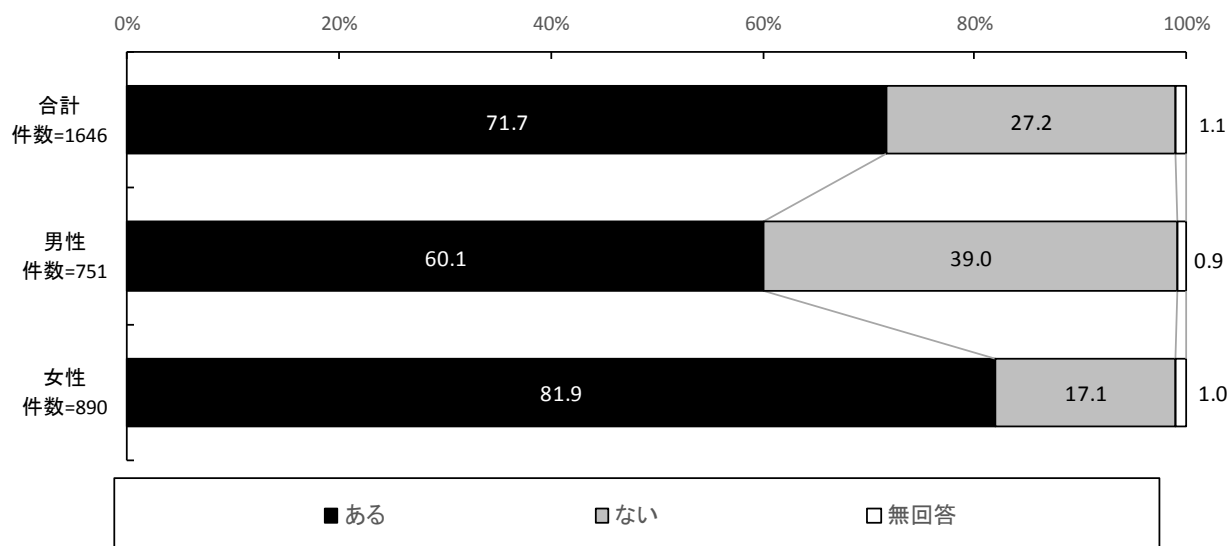


年齢別にみると、「女性は継続して勤務することが困難であるから」は、女性20代70.1%、女性30代71.2%となり、女性の若年層が特に高くなっている。

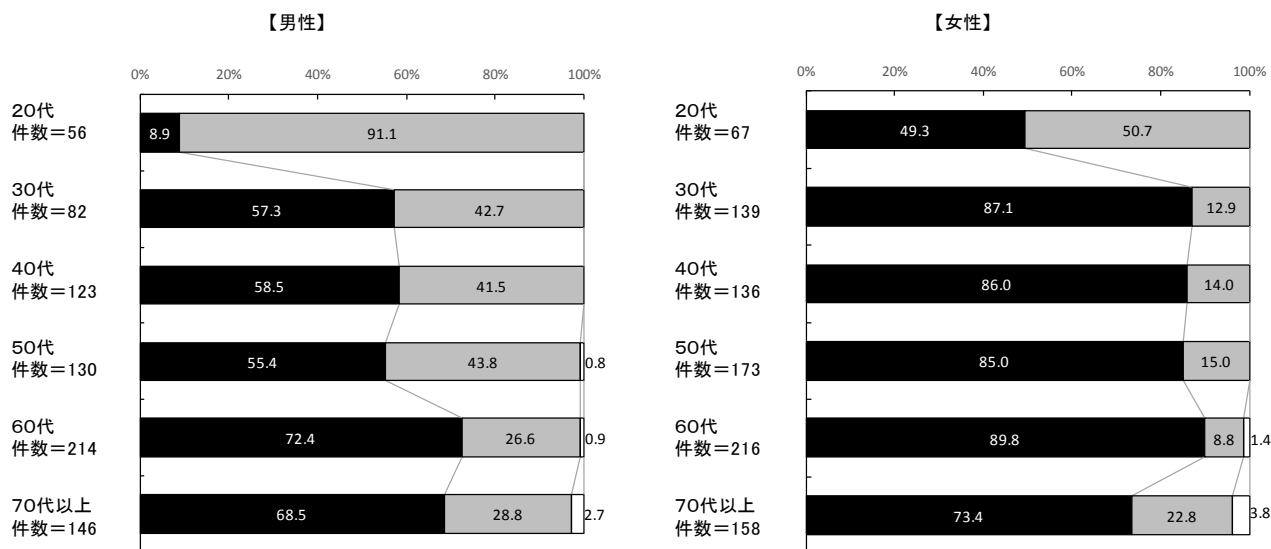
5 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

(1) 仕事の退職・中断・転職経験と理由

問13 あなたは今までに、仕事を辞めたり、中断したり、転職したことがありますか。(1つに○)
 ※今までに働いたことがない方は「2. ない」を選択してください。



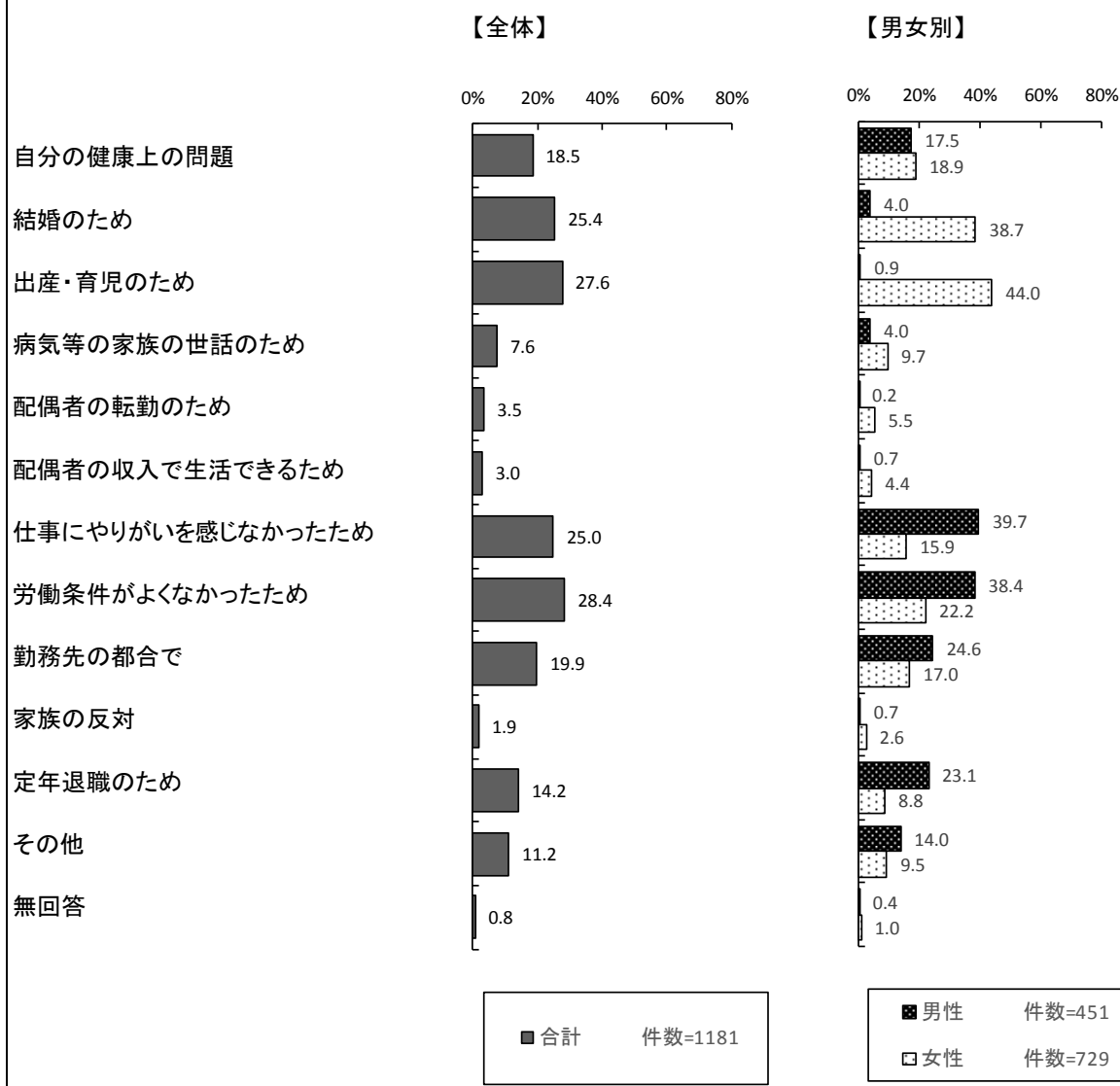
【年齢別】



仕事の退職・中断・転職経験について尋ねたところ、「ある」が71.7%を占めた。
 性別にみると、「ある」は男性60.1%、女性81.9%となり、女性が男性を上回った。
 年齢別にみると、女性30代から60代までの8割以上が「ある」と回答している。

〈問13で「1. ある」とお答えの方に伺います。〉

問14 仕事を辞めたり、中断したり、転職した理由を3つまで選んでください。(3つまでに○)



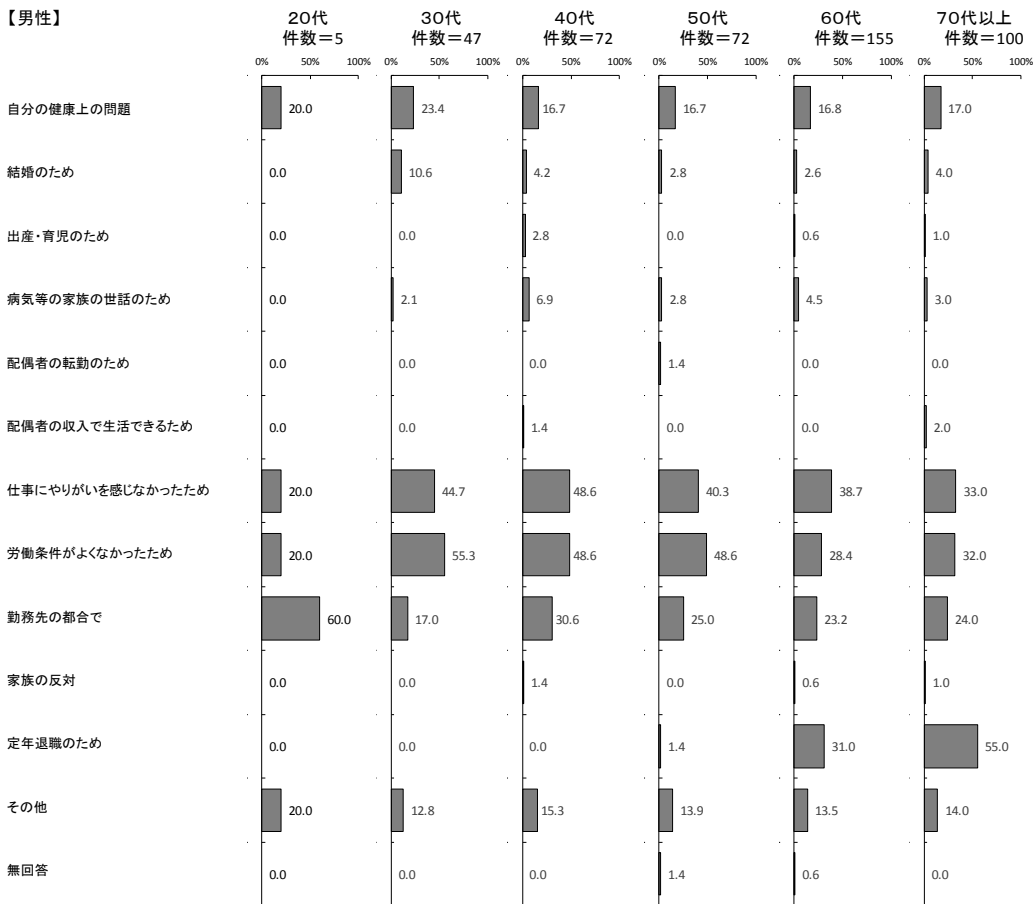
仕事の退職・中断・転職の理由を尋ねたところ、「労働条件がよくなかったため」28.4%、「出産・育児のため」27.6%、「結婚のため」25.4%、「仕事にやりがいを感じなかったため」25.0%となった。

性別にみると、女性は「出産・育児のため」44.0%が最も高く、次いで「結婚のため」38.7%となった。

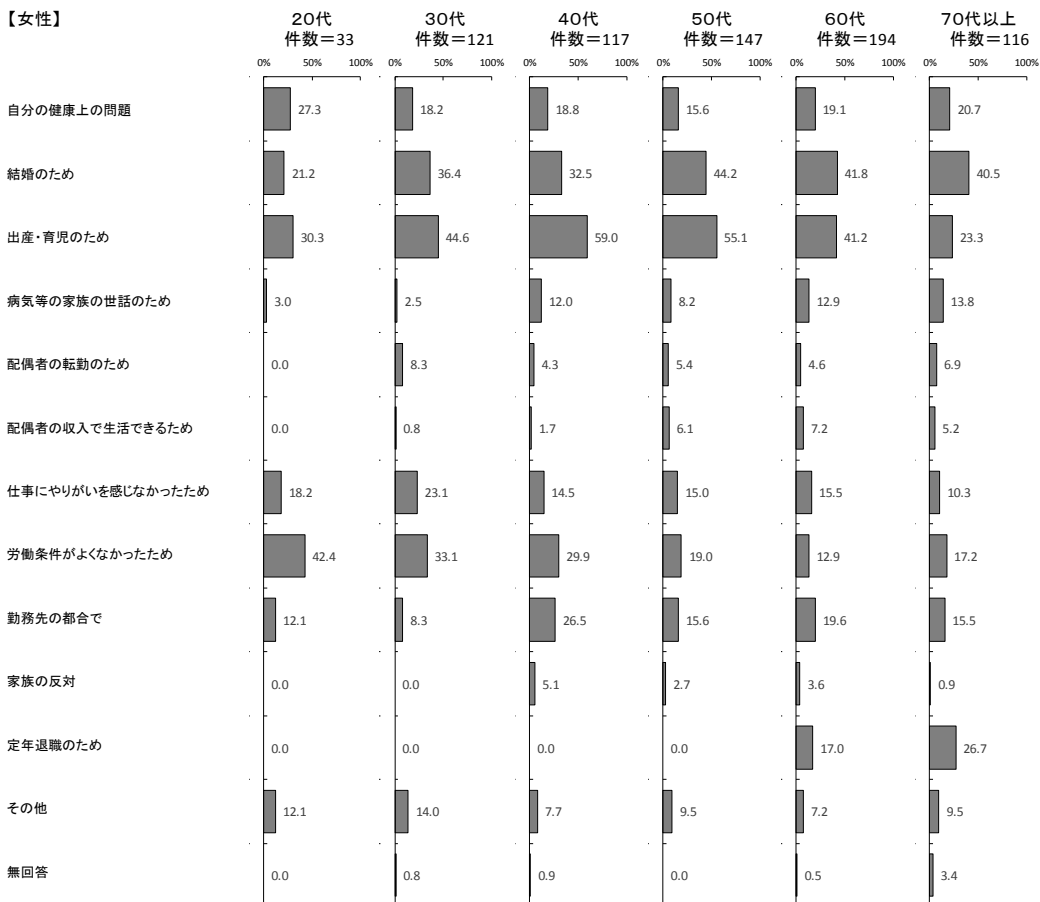
年齢別にみると、女性50代以下は、「出産・育児のため」が「結婚のため」を上回っている。

【年齢別】

【男性】

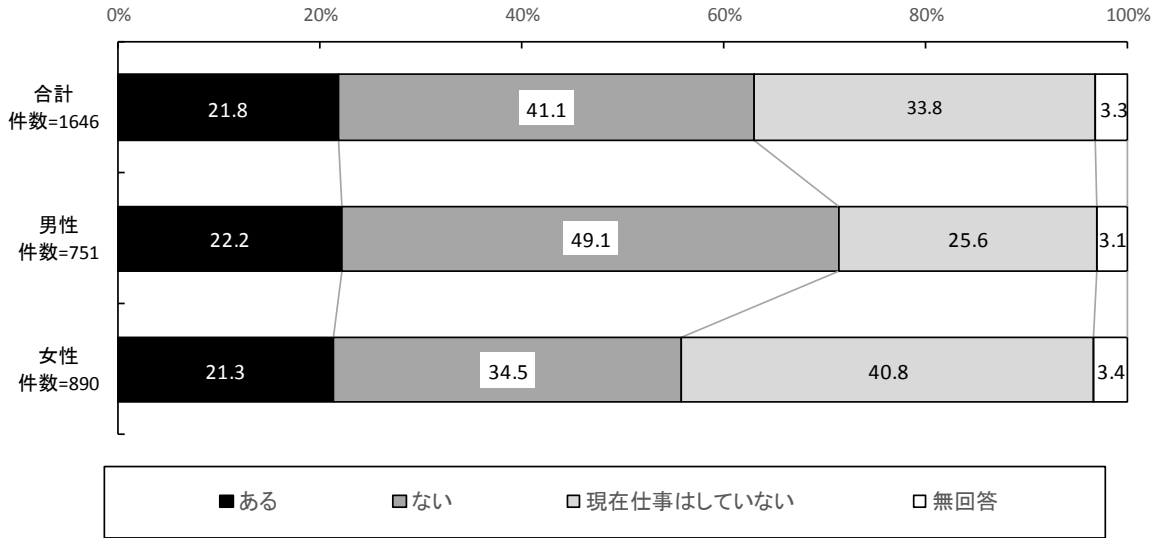


【女性】

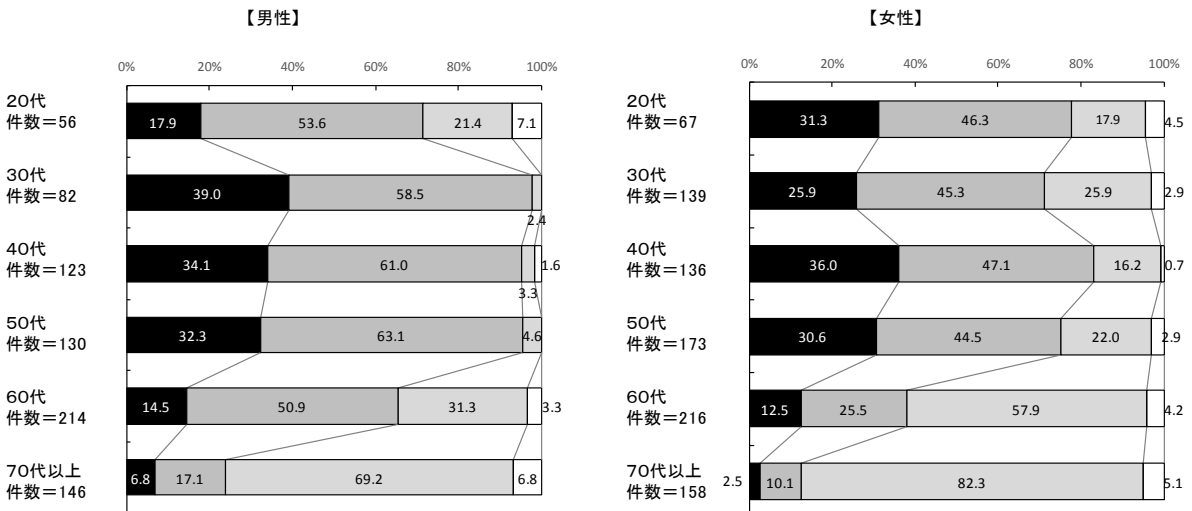


(2) 職場での男女の不平等について

問15 現在、仕事をしている人にお聞きします。あなたの職場では男女の不平等がありますか。
(1つに○)



【年齢別】



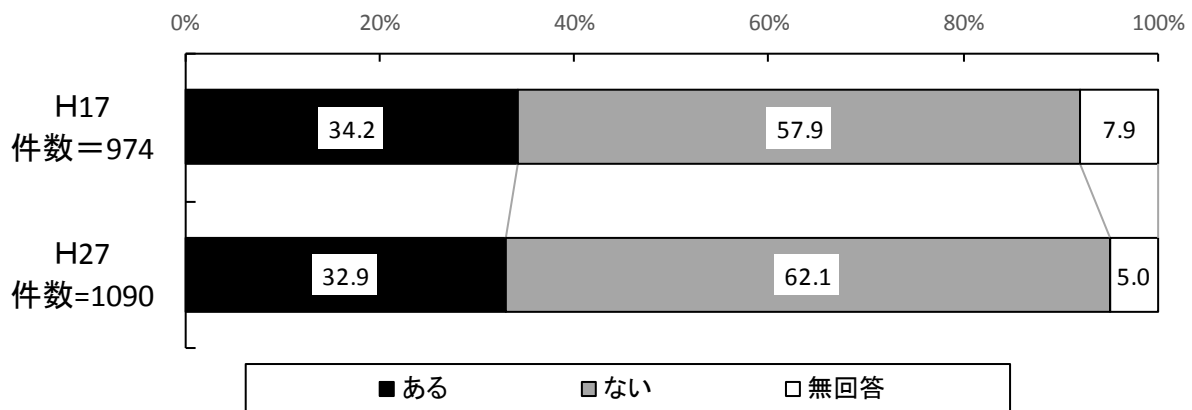
職場での男女の不平等について尋ねたところ、「ある」が21.8%となった。

性別にみると、「ある」は男性22.2%、女性21.3%となった。

年齢別にみると、「ある」は男性30代39.0%、女性40代36.0%と最も高かった。

【経年比較】

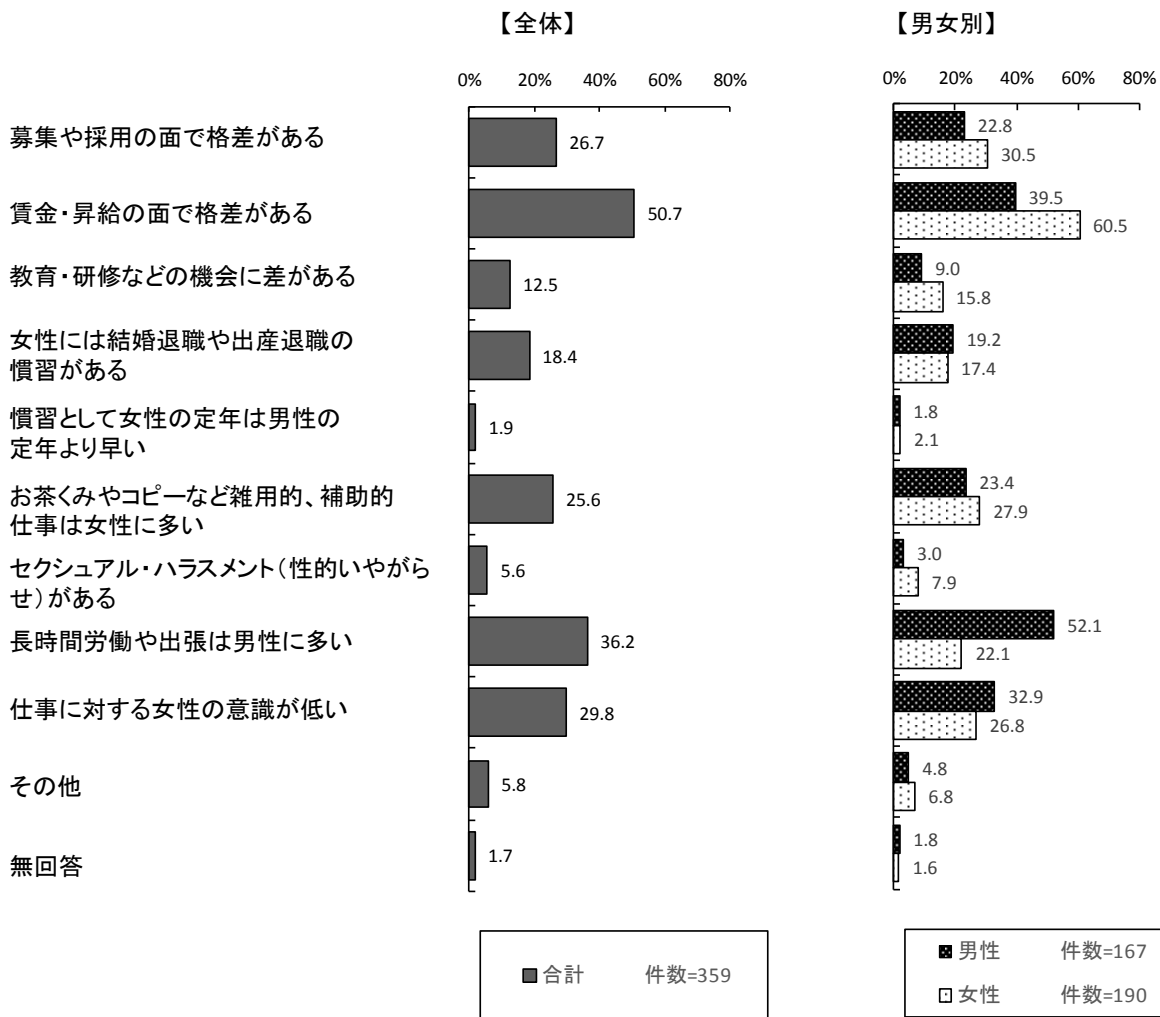
※今回調査（H27）は、「現在仕事はしていない」を除いて集計



		ある	ない	無回答
前回調査 (H17・2005年)	合計 件数=974	34.2	57.9	7.9
今回調査 (H27・2015年)	合計 件数=1090	32.9	62.1	5.0

〈問15で「1. ある」とお答えの方に伺います。〉

問16 男女の不平等を感じることはどのようなところですか。(あてはまるもの全てに○)

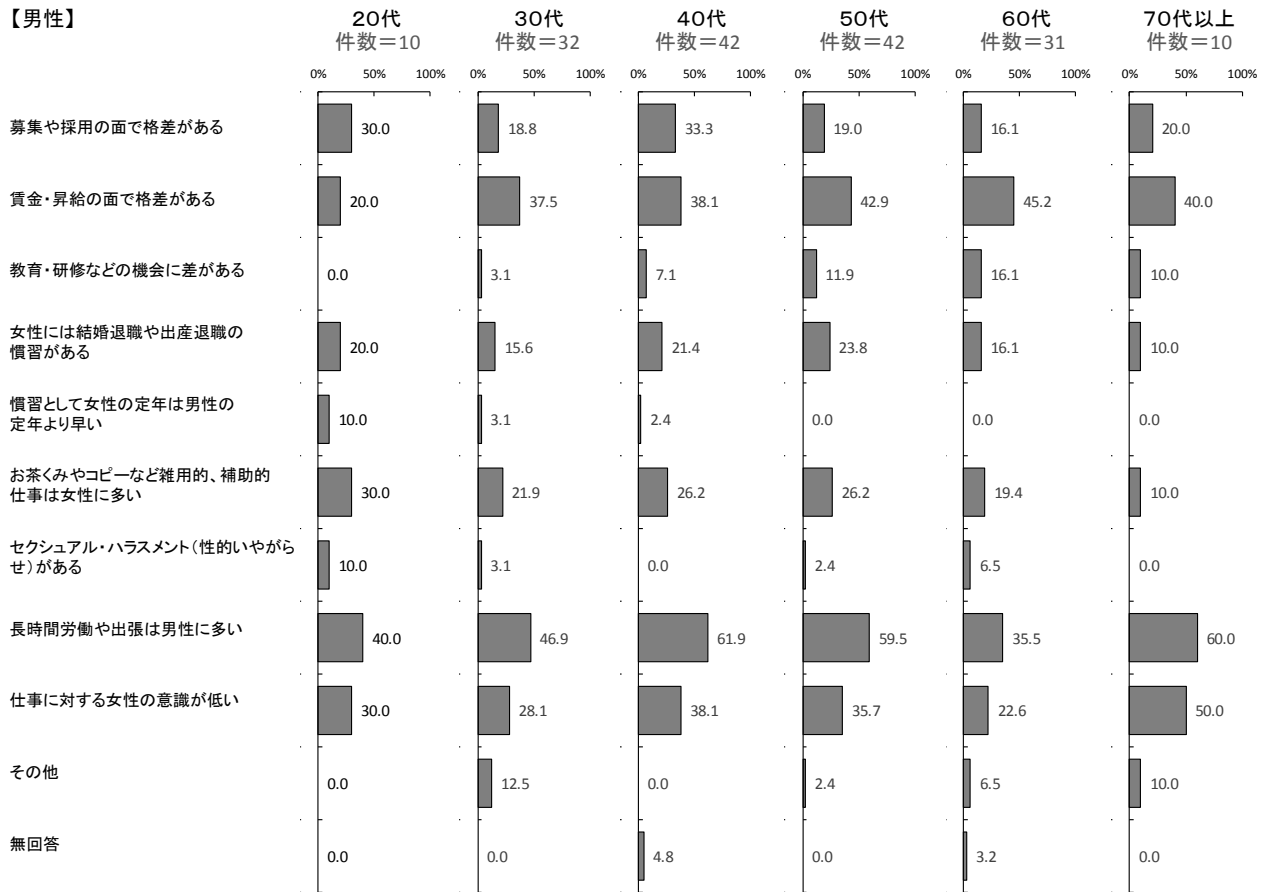


男女の不平等を感じることにについて尋ねたところ、「賃金・昇給の面で格差がある」50.7%が最も高く、次いで「長時間労働や出張は男性に多い」36.2%、「仕事に対する女性の意識が低い」29.8%となった。

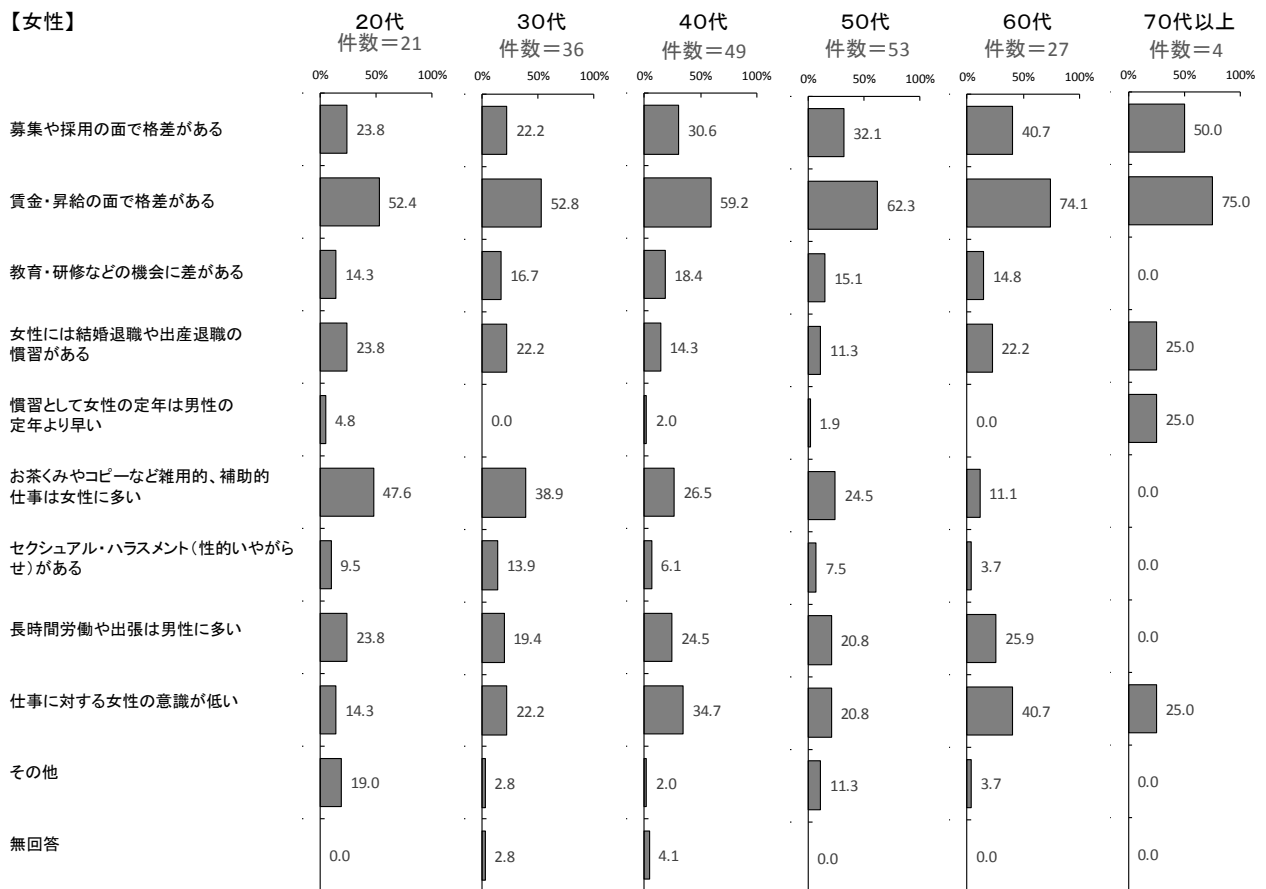
性別にみると、「賃金・昇給の面で格差がある」は男性39.5%、女性60.5%、「長時間労働や出張は男性に多い」は男性52.1%、女性22.1%と、特に男女間の意識の差が見られた。

【年齢別】

【男性】

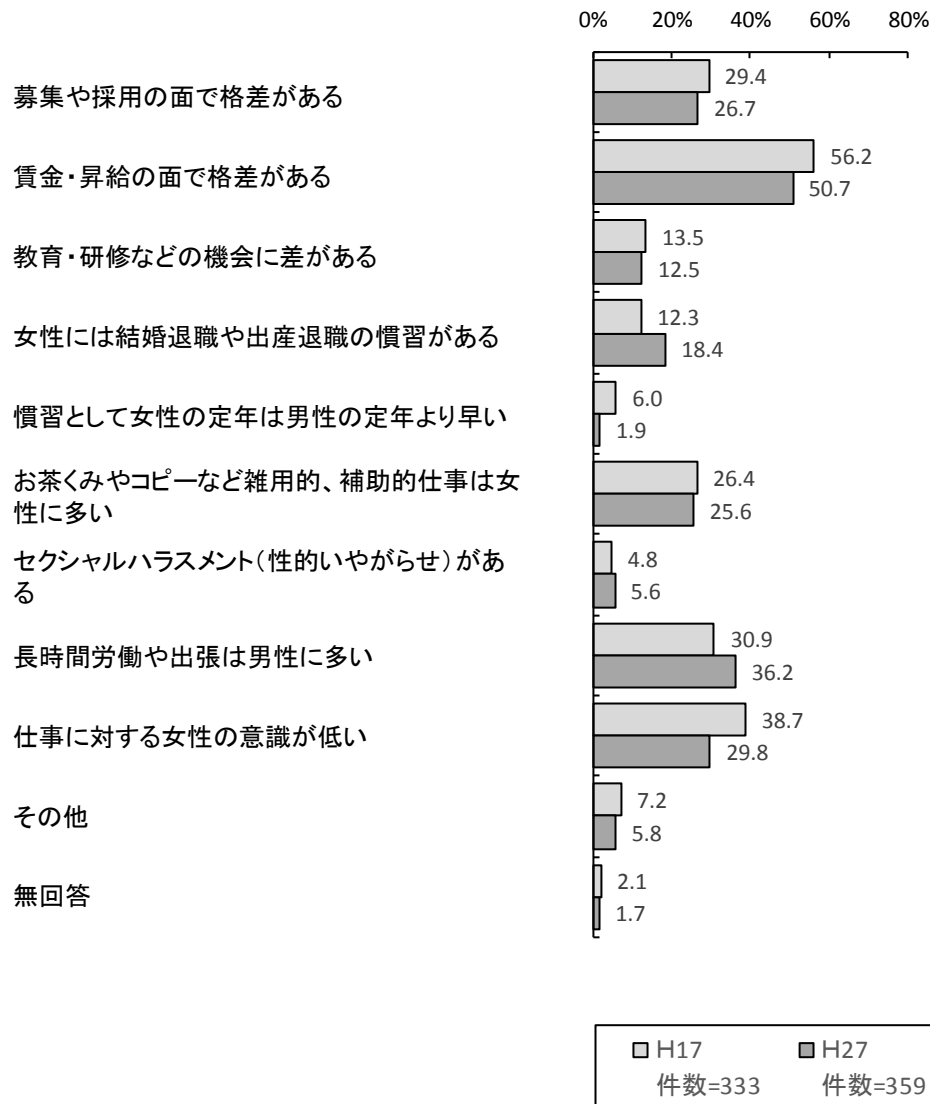


【女性】



年齢別にみると、「賃金・昇給の面で格差がある」は男性20代20.0%と低かった。

【経年比較】

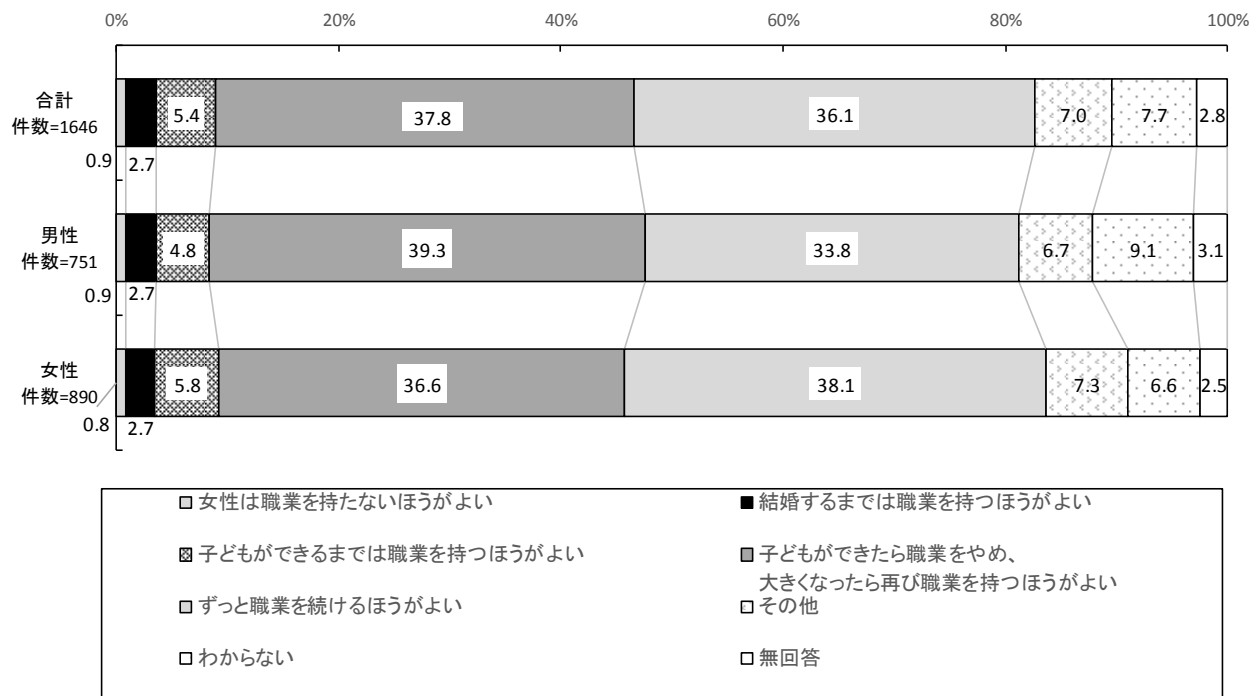


		募集や採用の面で格差がある	賃金・昇給の面で格差がある	教育・研修などの機会に差がある	女性には結婚退職や出産退職の慣習がある	慣習として女性の定年は男性の定年より早い	お茶くみやコピーなど雑用的、補助的仕事は女性に多い	セクシャルハラスメント(性的いやがらせ)がある	長時間労働や出張は男性に多い	仕事に対する女性の意識が低い	その他	無回答
前回調査 (H17・2005年)	合計 件数=333	29.4	56.2	13.5	12.3	6.0	26.4	4.8	30.9	38.7	7.2	2.1
今回調査 (H27・2015年)	合計 件数=359	26.7	50.7	12.5	18.4	1.9	25.6	5.6	36.2	29.8	5.8	1.7

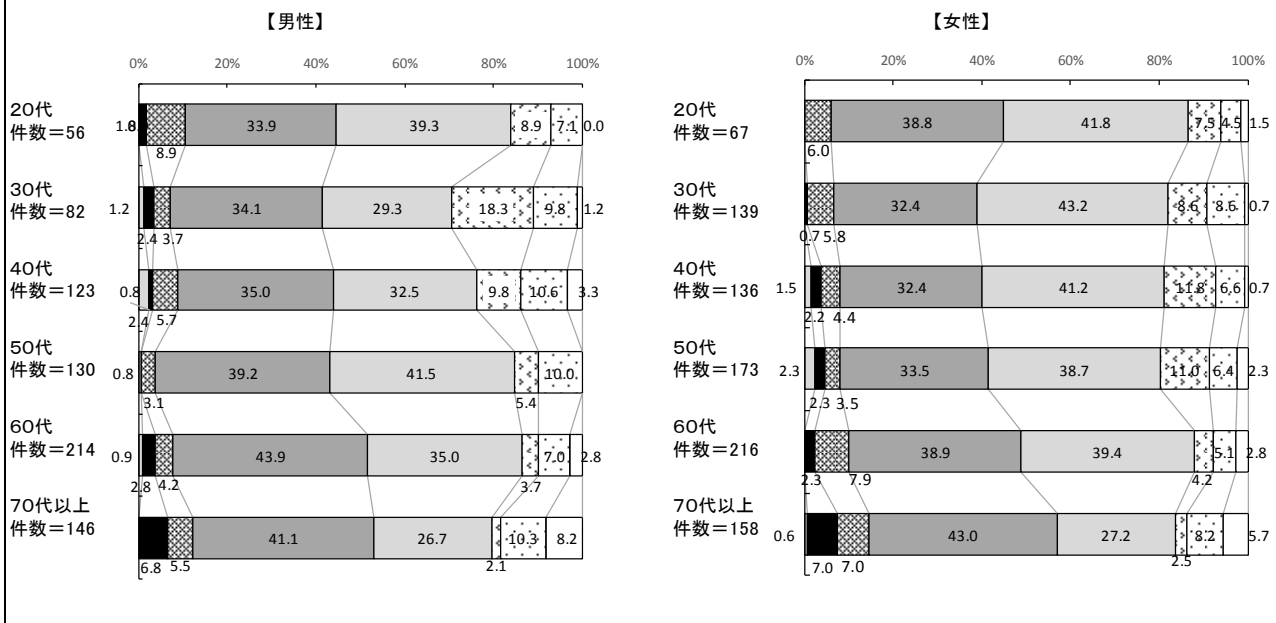
経年比較でみると、「賃金・昇給の面で格差がある」が前回調査・今回調査共に最も高くなっている。今回調査が高くなったものは、「女性には結婚退職や出産退職の慣習がある」が前回調査 12.3%、今回調査 18.4%、「長時間労働や出張は男性に多い」が前回調査 30.9%、今回調査 36.2%となった。

(3) 女性が職業を持つことについての考え方

問17 一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。(1つに○)



【年齢別】

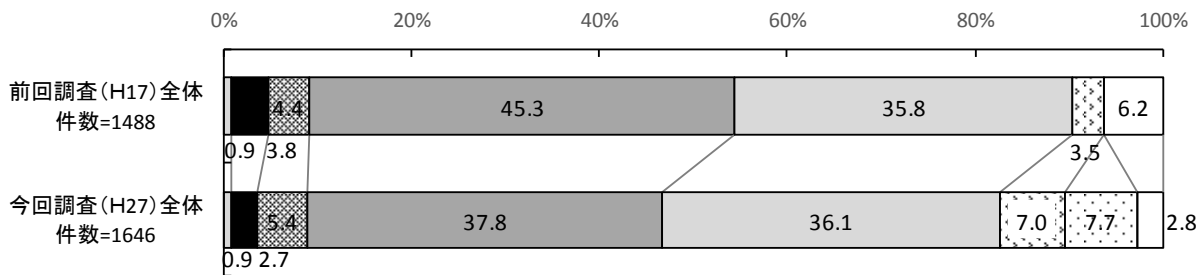


一般的に女性が職業を持つことについて尋ねたところ、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」37.8%、「ずっと職業を続けるほうがよい」36.1%となった。「結婚するまでは職業を持つほうがよい」と「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」と「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」を合わせた“M字カーブ支持者”は45.9%となった。

性別にみると、“M字カーブ支持者”は男性46.8%、女性45.1%。

年齢別にみると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は70代以上が男女共に最も高く、「ずっと職業を続けるほうがよい」は女性30代が最も高い。

【経年比較】



- 女性は職業を持たないほうがよい
- 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- ずっと職業を続けるほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答

		女性は職業を持たないほうがよい (注1)	結婚するまでは職業を持つほうがよい	子どもができるまでは職業を持つほうがよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい (注2)	ずっと職業を続けるほうがよい (注3)	その他	わからない	無回答
前回調査 (H17・2005年)	件数 件数=1488	0.9	3.8	4.4	45.3	35.8	3.5	-	6.2
今回調査 (H27・2015年)	件数 件数=1646	0.9	2.7	5.4	37.8	36.1	7.0	7.7	2.8

(注1) 「女性は職業を持たないほうがよい」の選択肢は前回の調査では「仕事をする必要がない」であった。

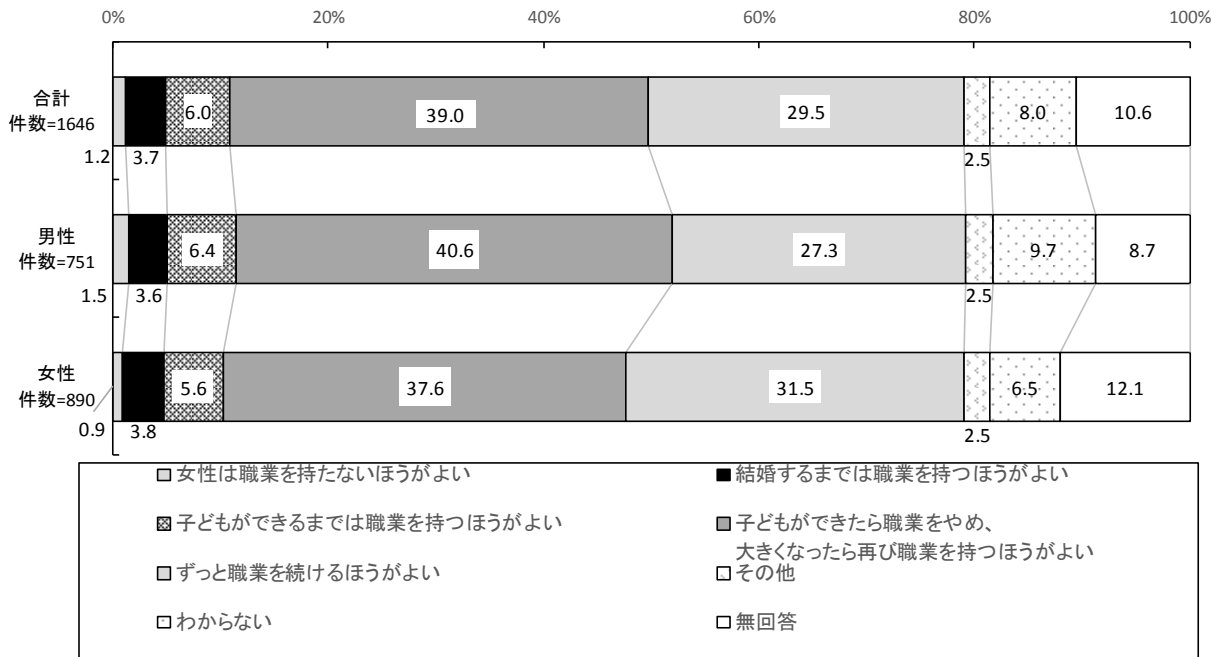
(注2) 「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の選択肢は前回の調査では「子育ての時期だけ仕事をやめて、その後はフルタイムで仕事をする」「子育ての時期だけ仕事をやめて、その後はパートタイムで仕事をする」であった。

(注3) 「ずっと職業を続けるほうがよい」の選択肢は前回の調査では「結婚や出産にかかわらず、能力を活かして仕事をする」であった。

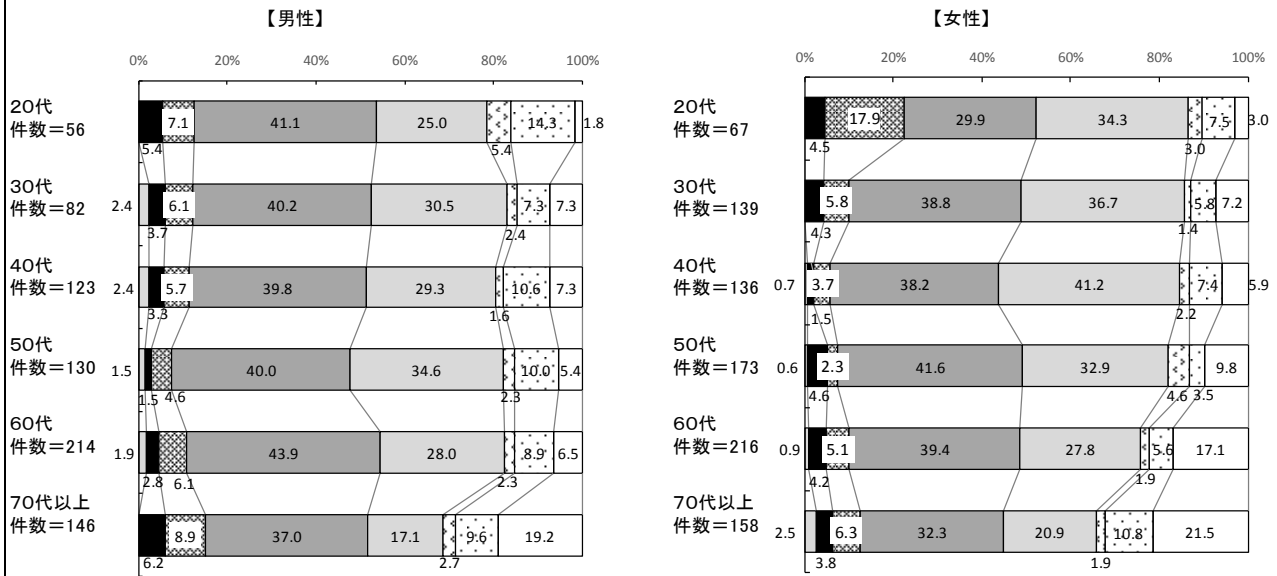
経年比較でみると、「ずっと職業を続けるほうがよい」は前回調査 53.5%、今回調査 45.9%となり、共に高い割合となった。

(4) 女性が職業を持つことの現実

問18 女性が職業を持つことについて、あなたの現実に当てはまるもの（当てはまると予想されるもの）はどれですか。（1つに○）



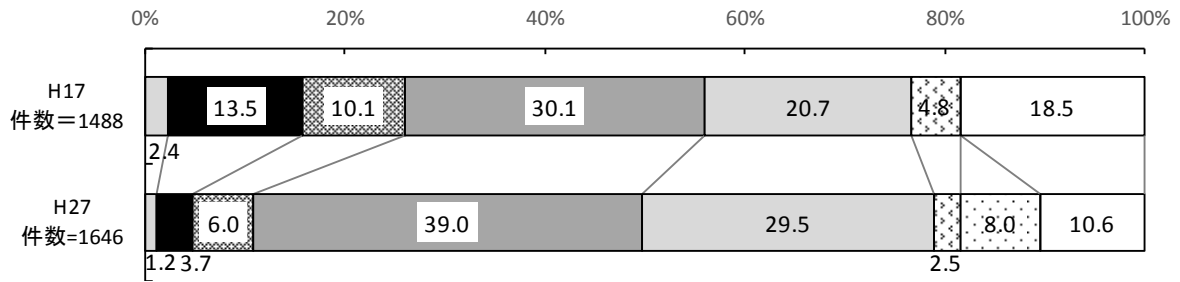
【年齢別】



女性が職業を持つことの現実について尋ねたところ、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」39.0%、「ずっと職業を続けるほうがよい」29.5%となった。現実としては、「ずっと職業を続けるほうがよい」という意識は低くなる。前問の一般的な考え方の回答と比べると、“M字カーブ支持者”48.7%となり、2.8ポイント差となった。

年齢別にみると、「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」が女性20代で17.9%と高くなっている。

【経年比較】



- 女性は職業を持たないほうがよい
- 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- ずっと職業を続けるほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答

調査年	件数	女性は職業を持たないほうがよい (注1)	結婚するまでは職業を持つほうがよい	子どもができるまでは職業を持つほうがよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい (注2)	ずっと職業を続けるほうがよい (注3)	その他	わからない	無回答
前回調査 (H17・2005年)	1488	2.4	13.5	10.1	30.1	20.7	4.8	-	18.5
今回調査 (H27・2015年)	1646	1.2	3.7	6.0	39.0	29.5	2.5	8.0	10.6

(注1) 「女性は職業を持たないほうがよい」の選択肢は前回の調査では「仕事を持ったことがない(持っていない)」であった。

(注2) 「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の選択肢は前回の調査では「子育ての時期だけ仕事をやめて、その後はフルタイムで仕事を続けていた (いる)」「子育ての時期だけ仕事をやめて、その後はパートタイムで続けていた (いる)」であった。

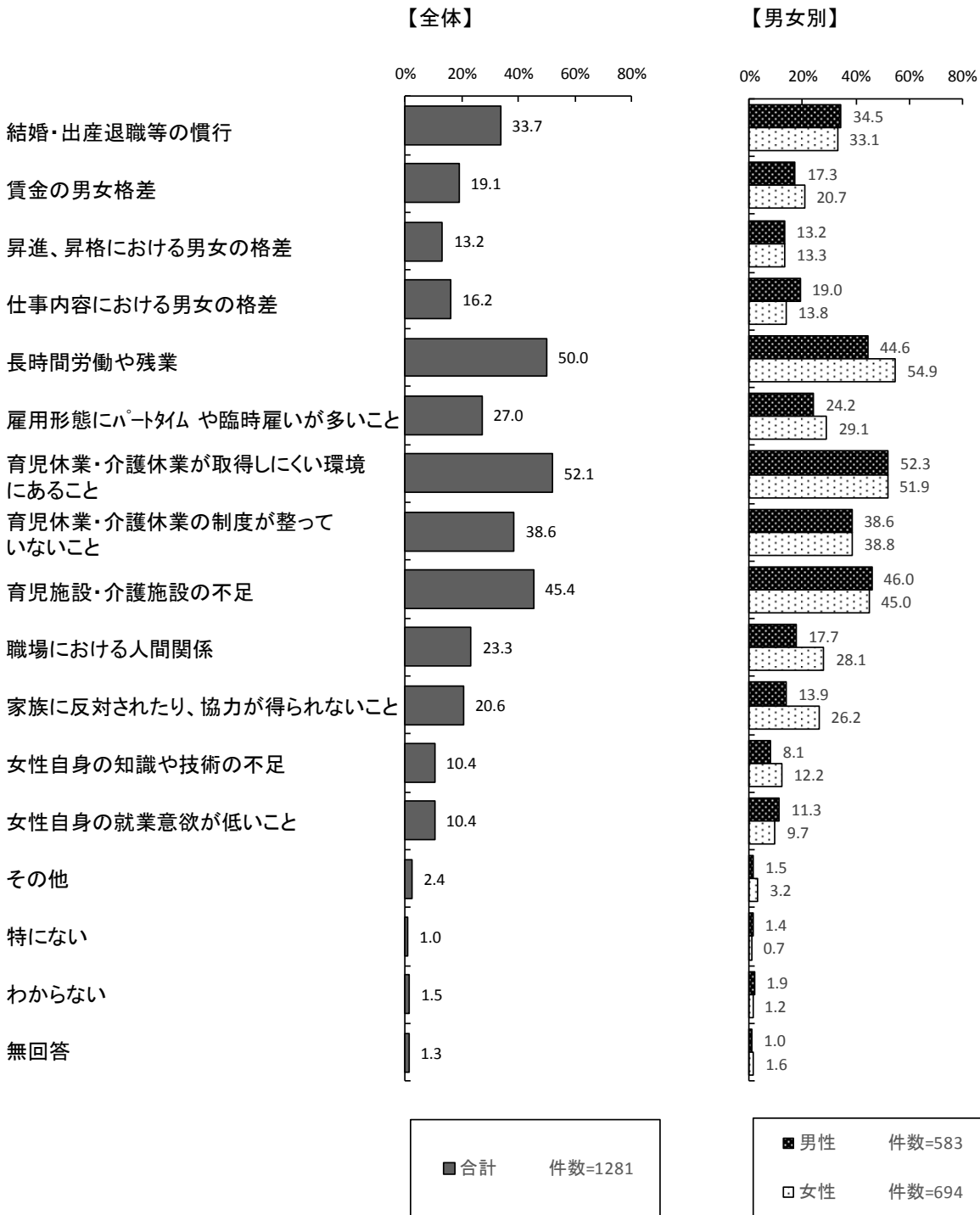
(注3) 「ずっと職業を続けるほうがよい」の選択肢は前回の調査では「結婚や出産にかかわらず、能力を活かして仕事を続けていた (いる)」であった。

経年比較でみると、“M字カーブ支持者”は前回調査 53.7%、今回調査 48.7%となり、低くなっている。

(5) 女性が働く上で障害となること

〈問18で「2」「3」「4」又は「5」と答えた方に伺います。〉

問19 継続して女性が働く上での障害は何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○)



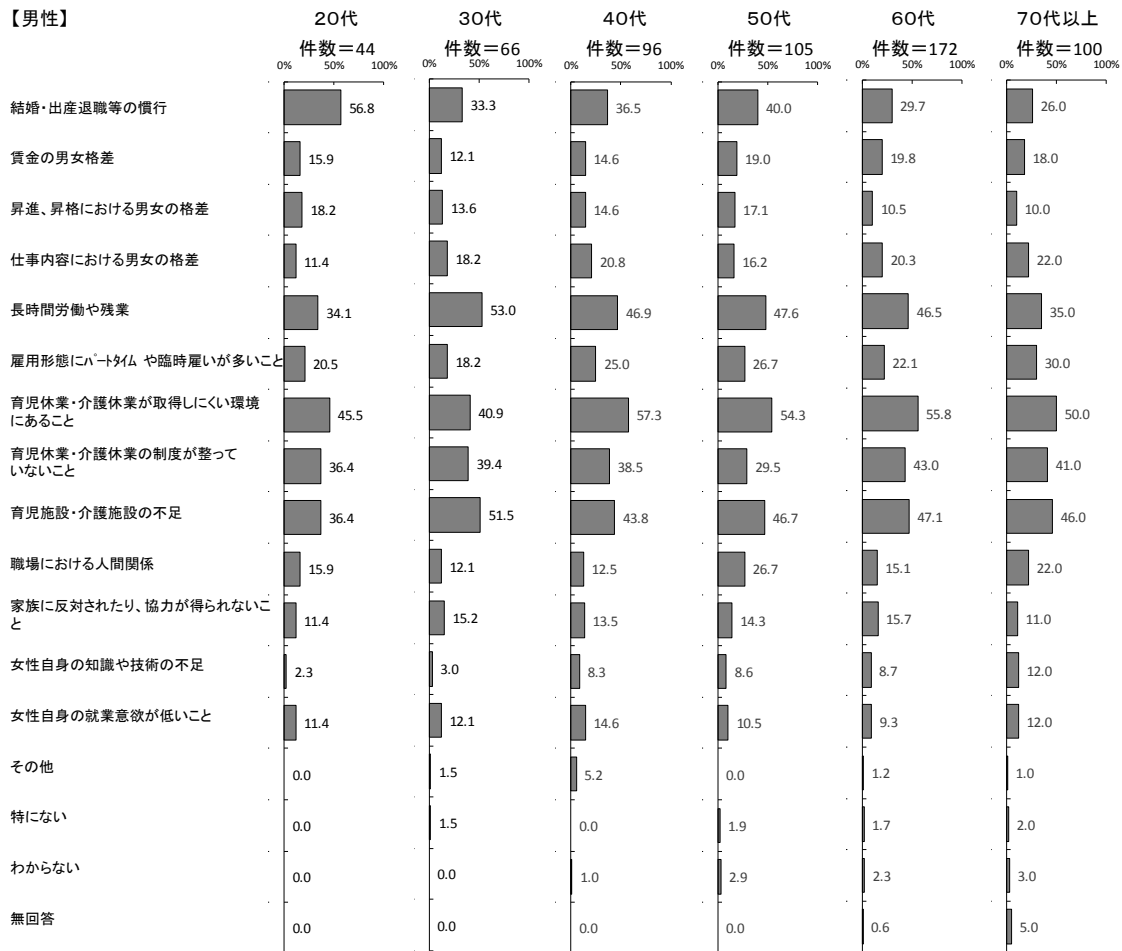
女性が継続的に働くことへの障害について尋ねたところ、「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」52.1%が最も高く、次いで「長時間労働や残業」50.0%、「育児施設・介護施設の不足」45.4%となった。

性別にみると、「長時間労働や残業」は女性 54.9%、男性 44.6%と男女差があり、女性が男性を上回った。

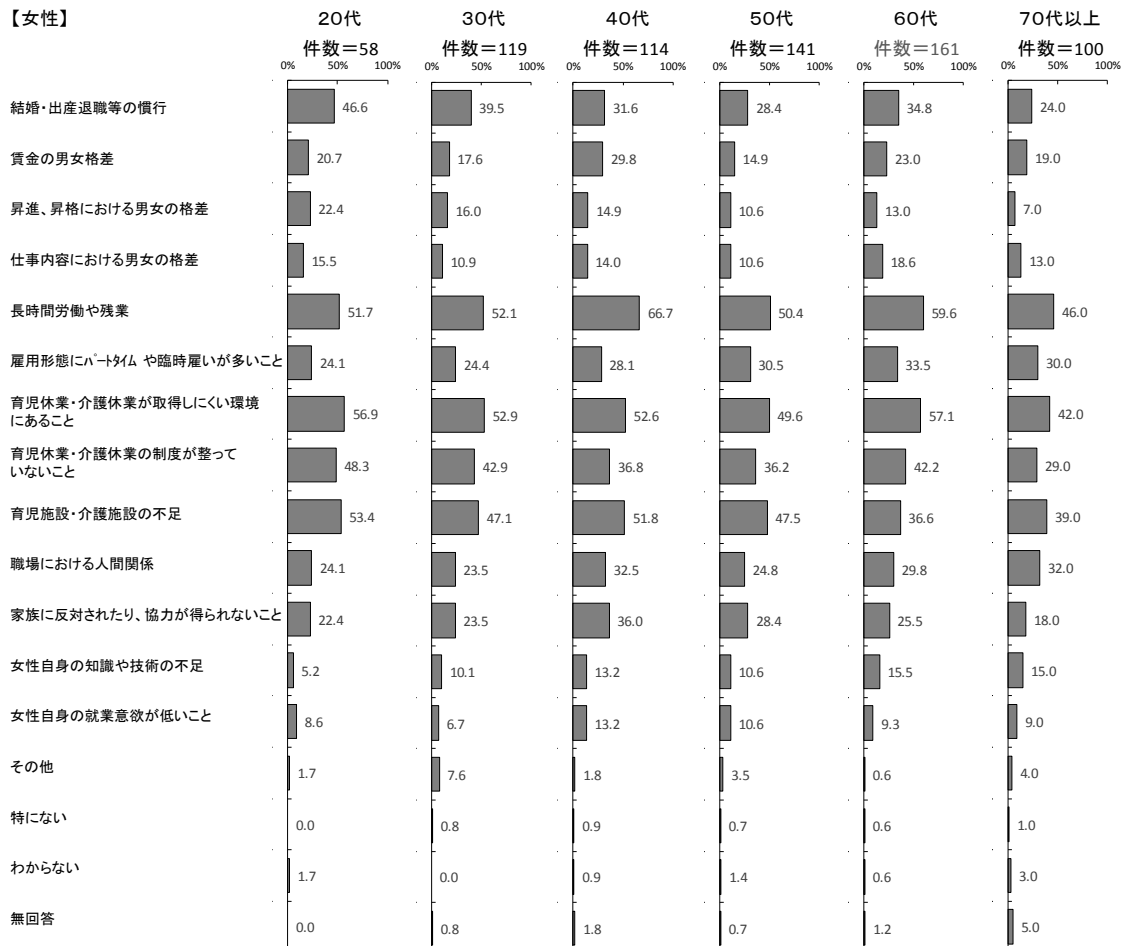
年齢別にみると、「長時間労働や残業」は女性 40代 66.7%が最も高かった。

【年齢別】

【男性】



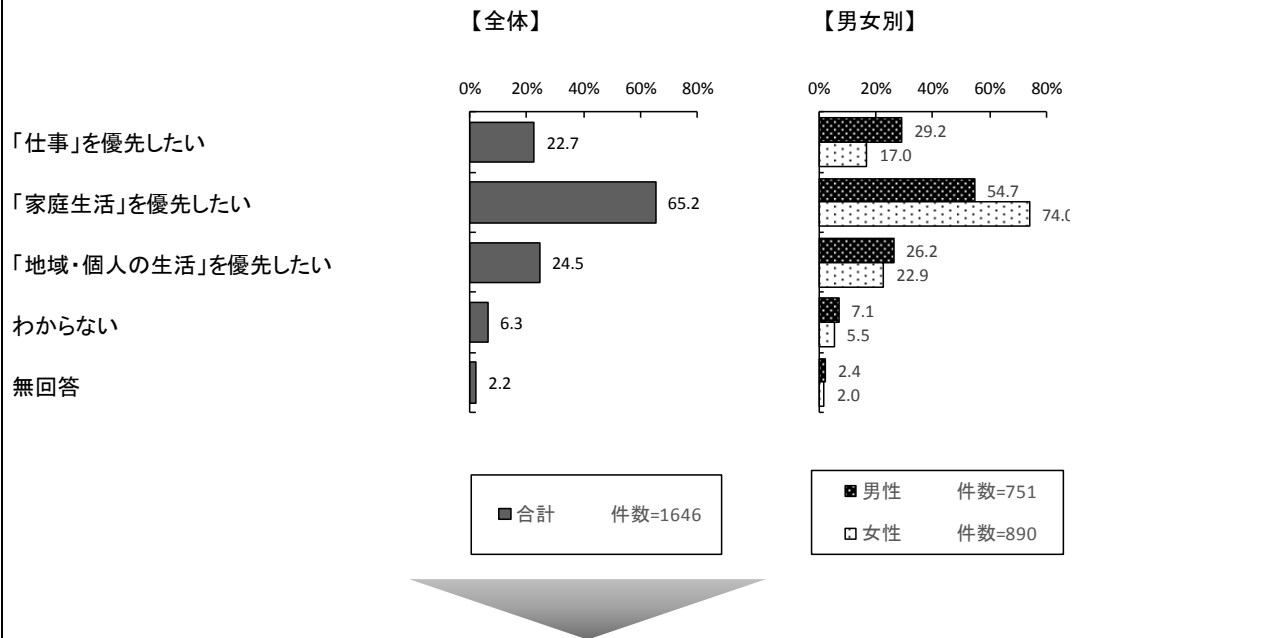
【女性】



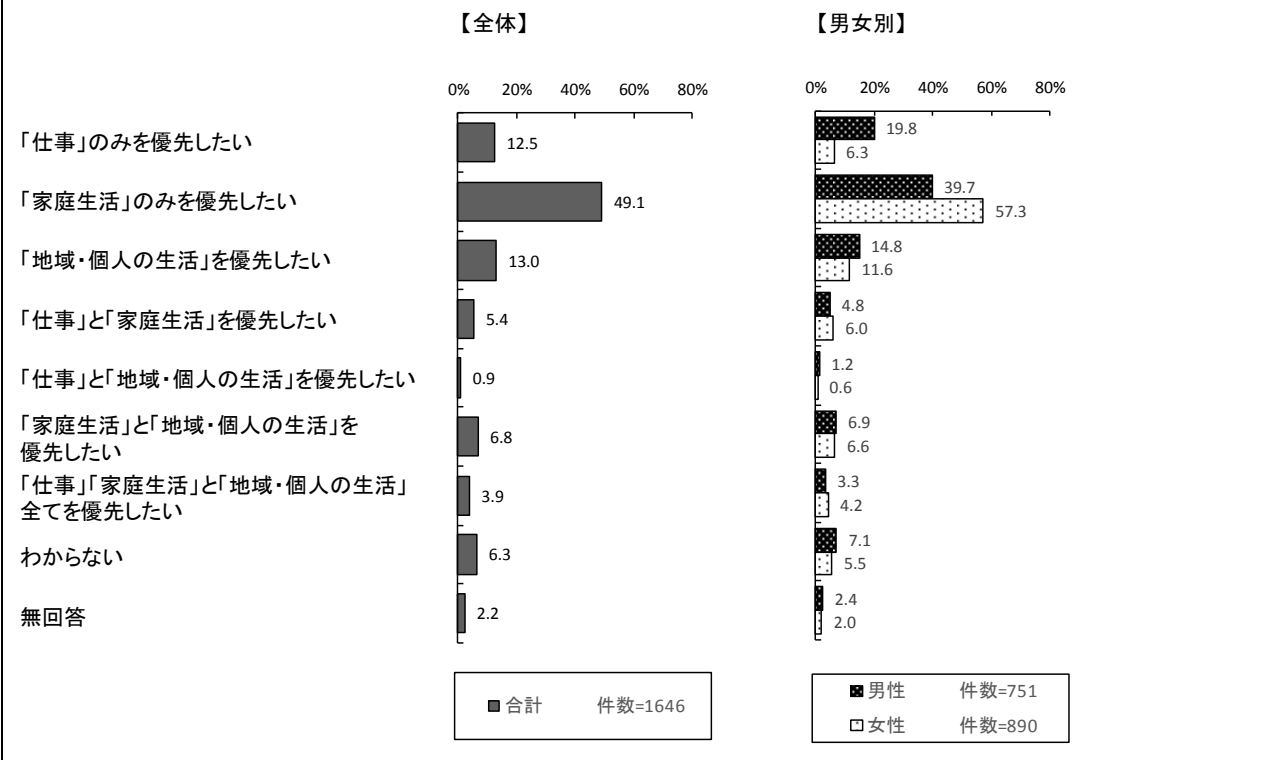
6 地域社会の一員としての活動について

(1) 仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度

問20 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の3つの中から、あなたが優先したいものをお選びください。
 （あてはまるもの全てに○）



※問20の回答数の組み合わせにより作成（単一回答）

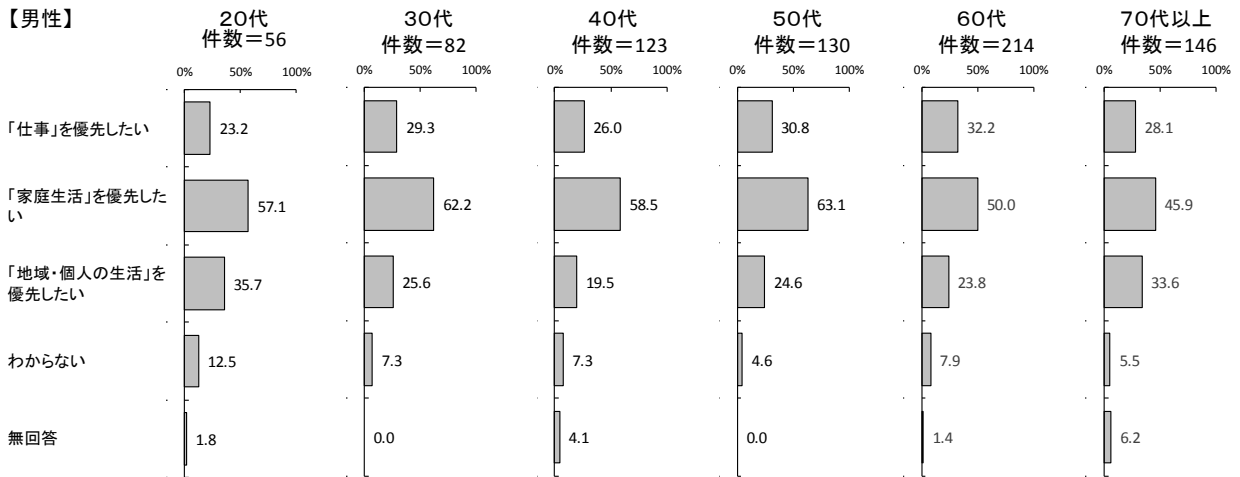


仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度について尋ねたところ、『「家庭生活」のみを優先したい』49.1%が最も高い。

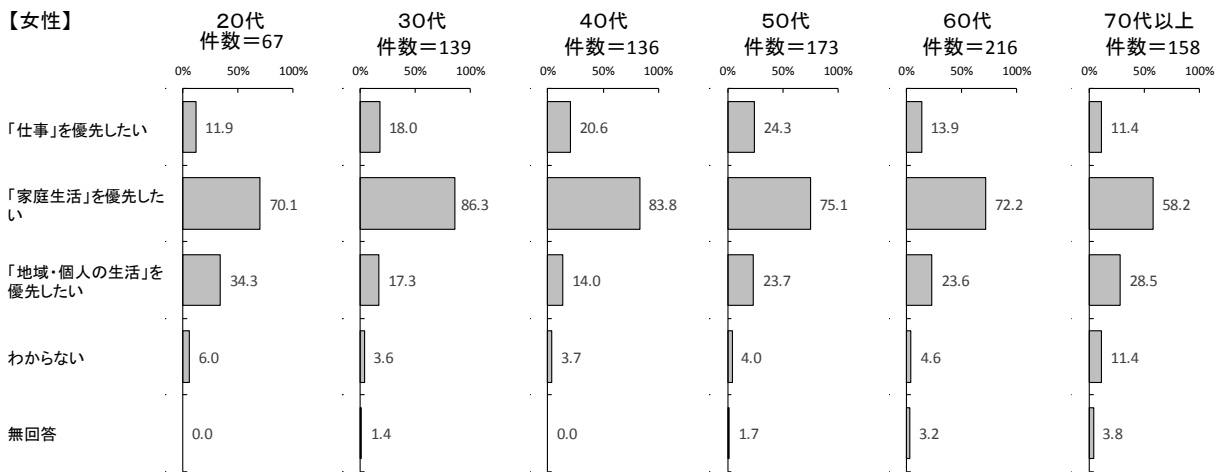
性別にみると、『「家庭生活」のみを優先したい』は男性39.7%、女性57.3%と、女性が男性を17.6ポイント上回った。

【年齢別】

【男性】

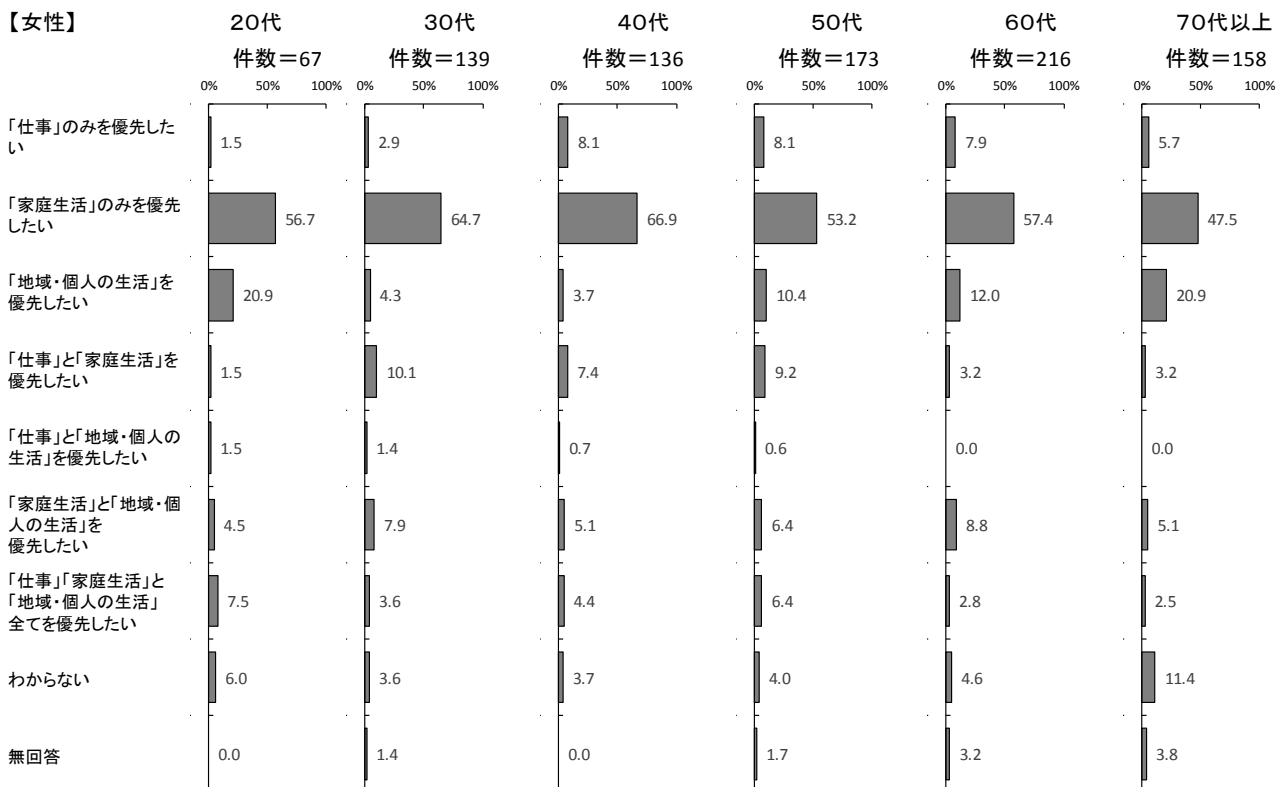
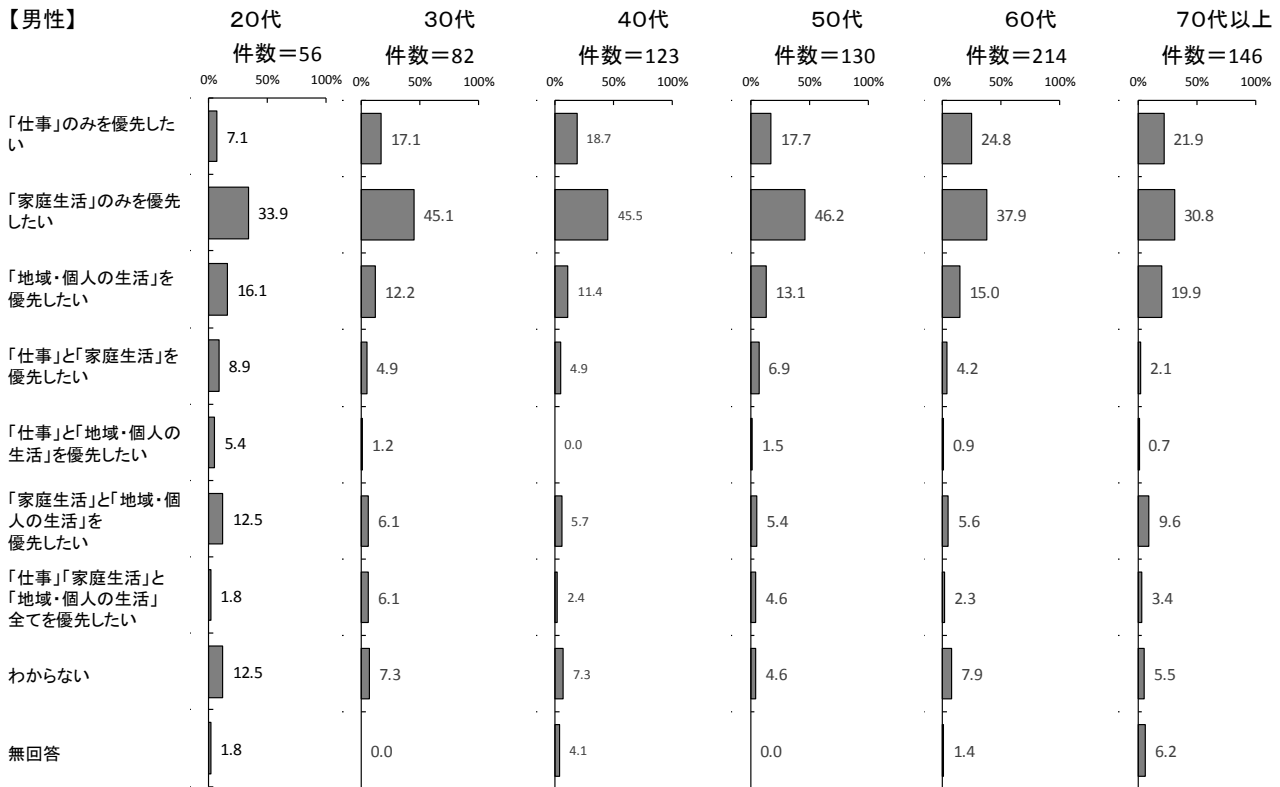


【女性】



「次頁へ」

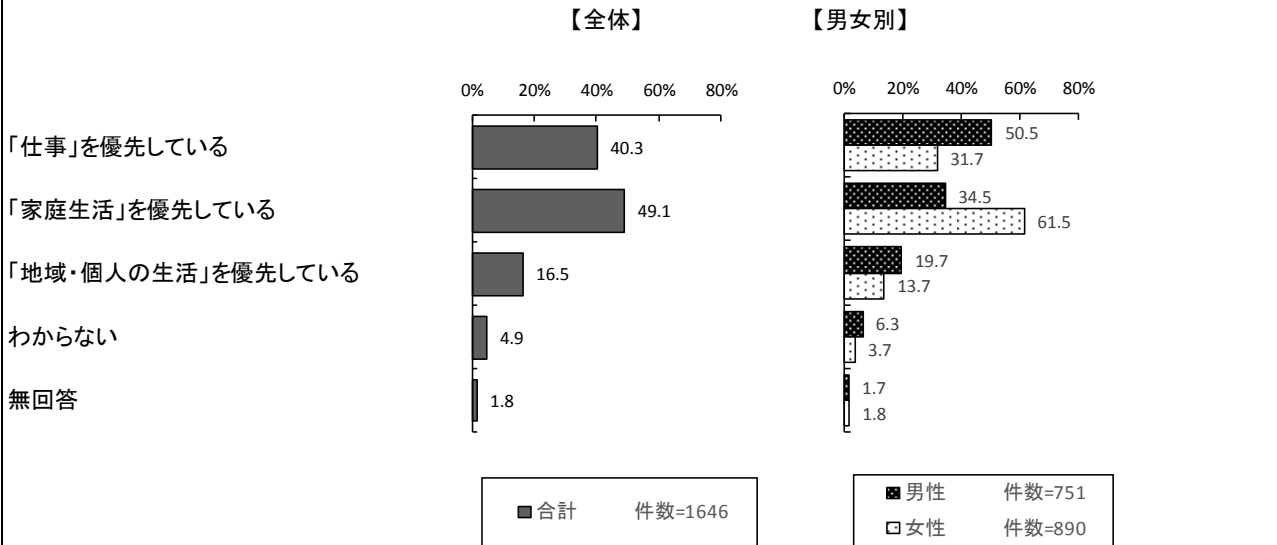
※問20の回答数の組み合わせにより作成（単一回答）



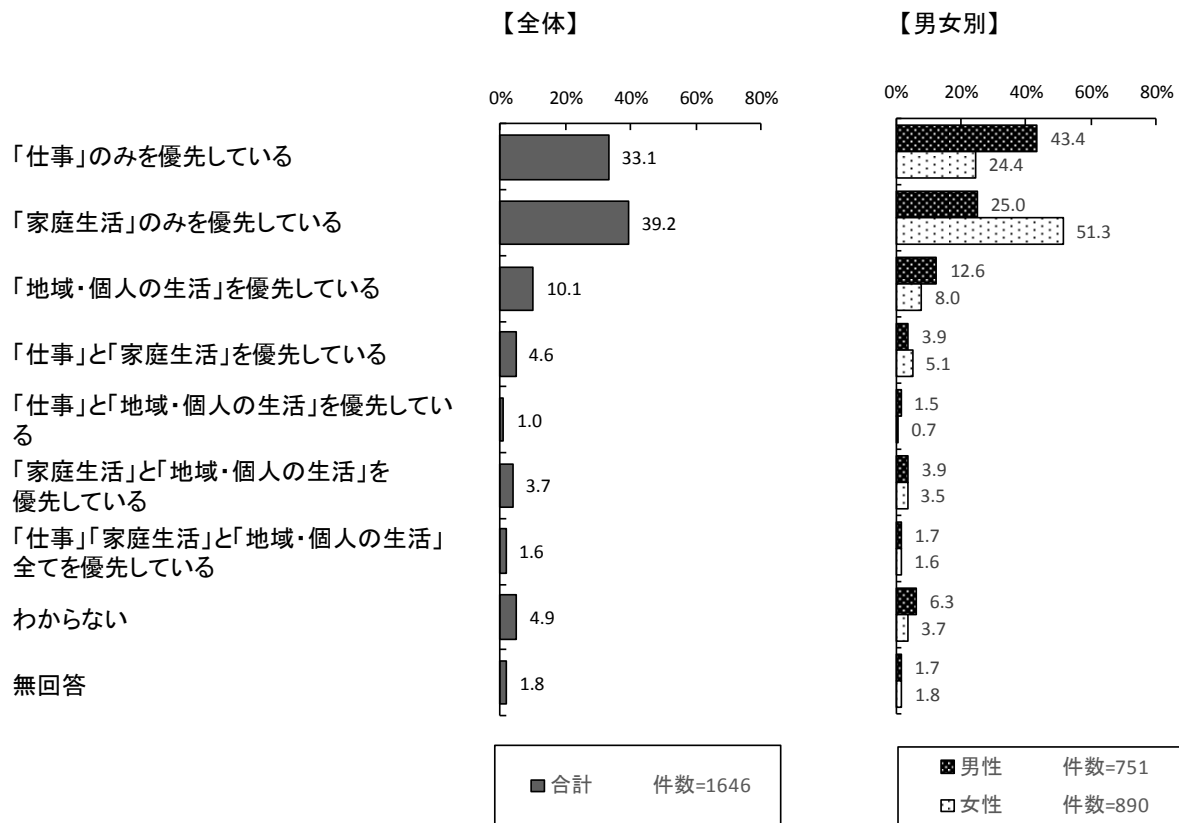
年齢別にみると、『「家庭生活」のみを優先したい』は、男性50代46.2%、女性50代53.2%と50代は男女差が7.0ポイント差で、他の年代に比べて低かった。

(2) 仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度

問 2 1 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（あてはまるもの全てに○）



※問 2 1 の回答数の組み合わせにより作成（単一回答）

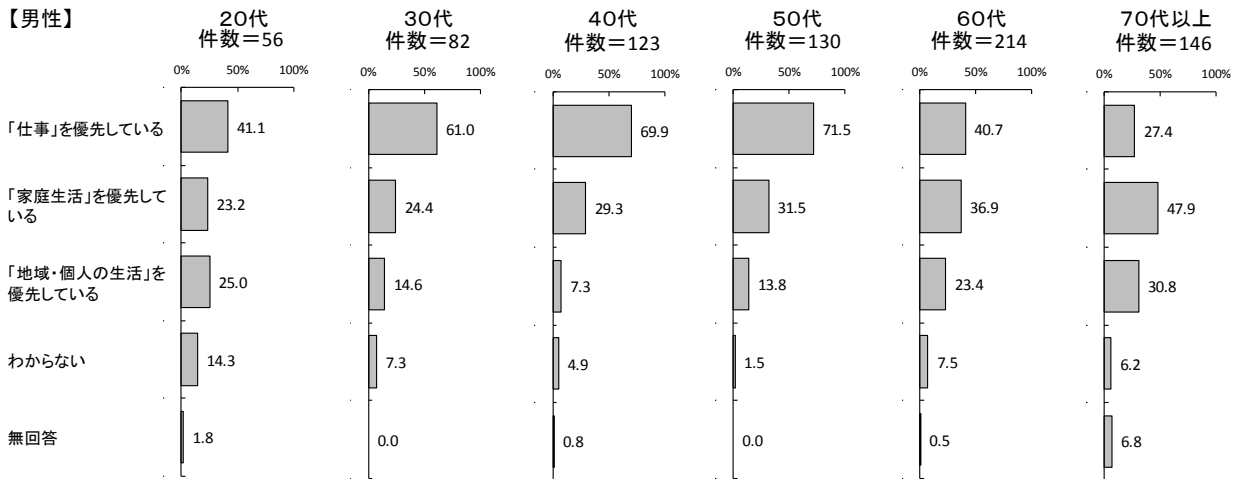


仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度について尋ねたところ、『「家庭生活」のみを優先している』39.1%、次いで『「仕事」のみを優先している』33.1%と高い。前問の希望優先度と比べると、『「仕事」のみを優先している』の割合が高いことから、現実希望優先度と異なる人がいることが窺える。

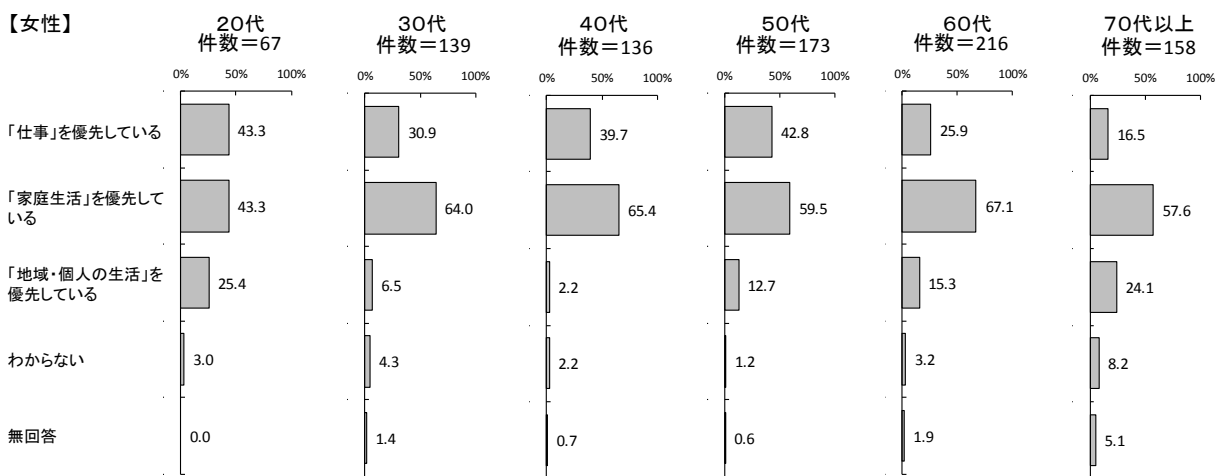
性別にみると、女性は『「家庭生活」のみを優先している』51.3%が最も高く、男性は『「仕事」のみを優先している』43.4%が最も高かった。

【年齢別】

【男性】

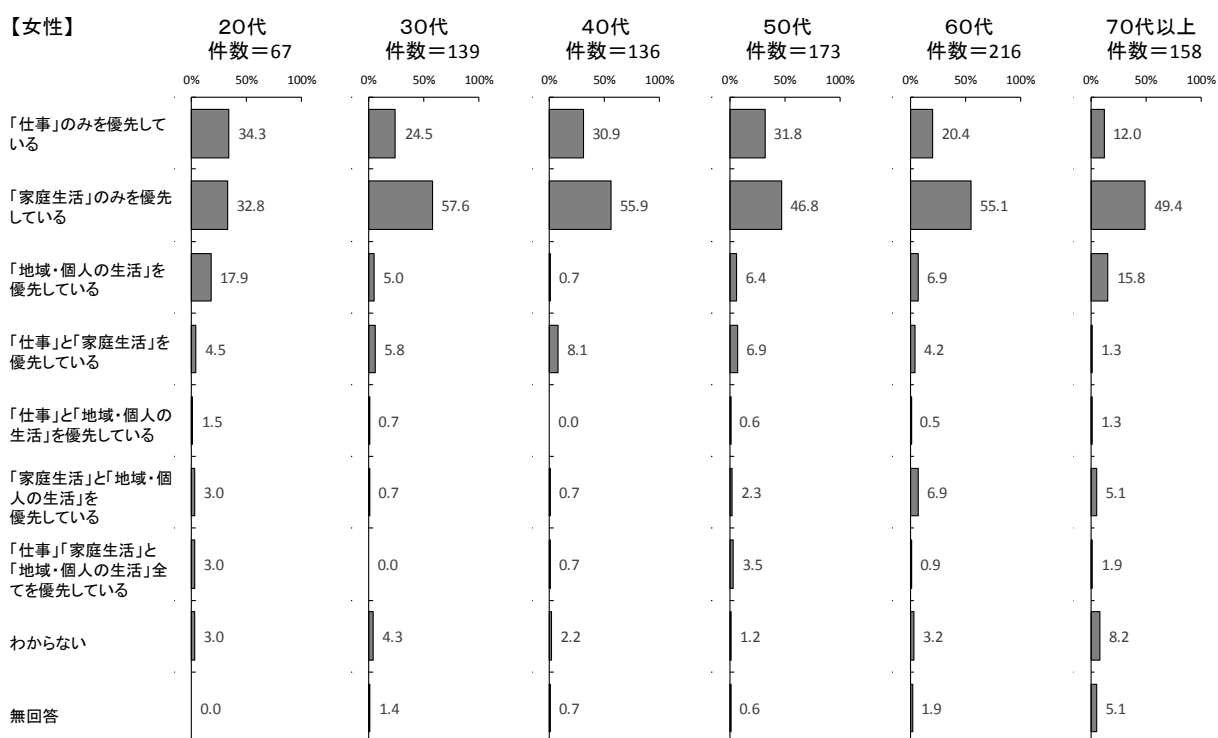
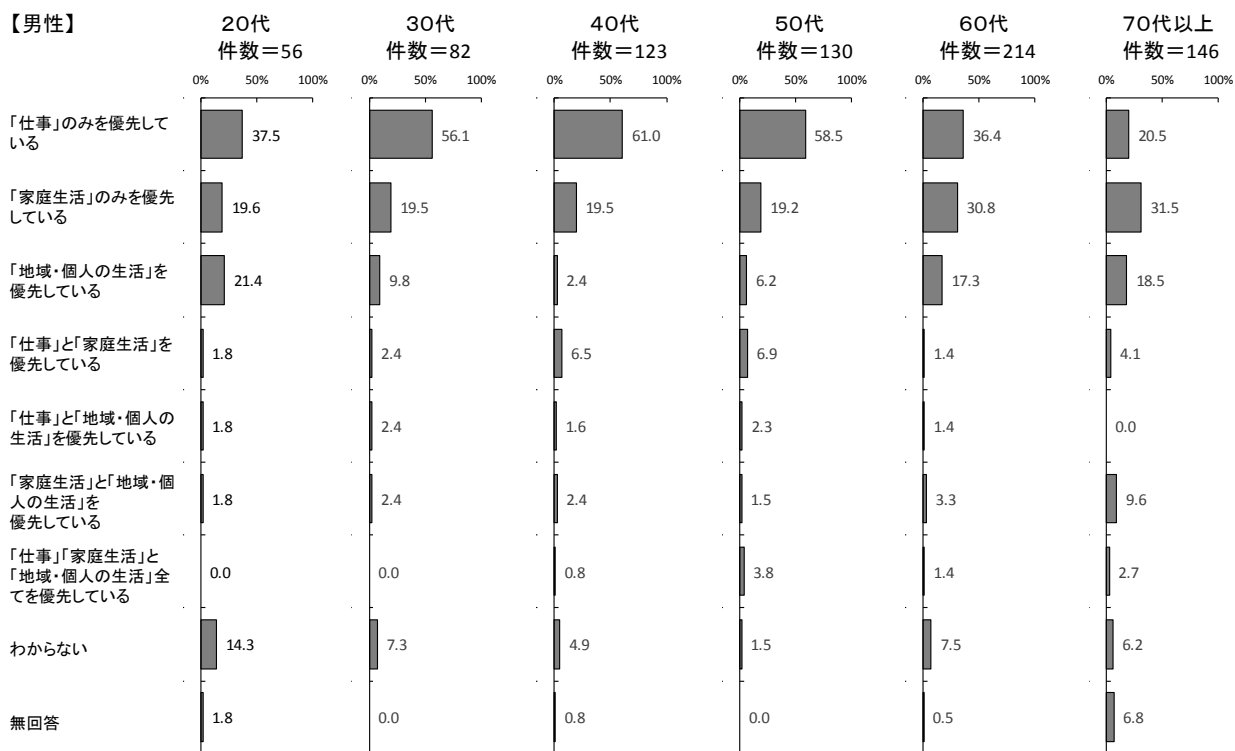


【女性】



「次頁へ」

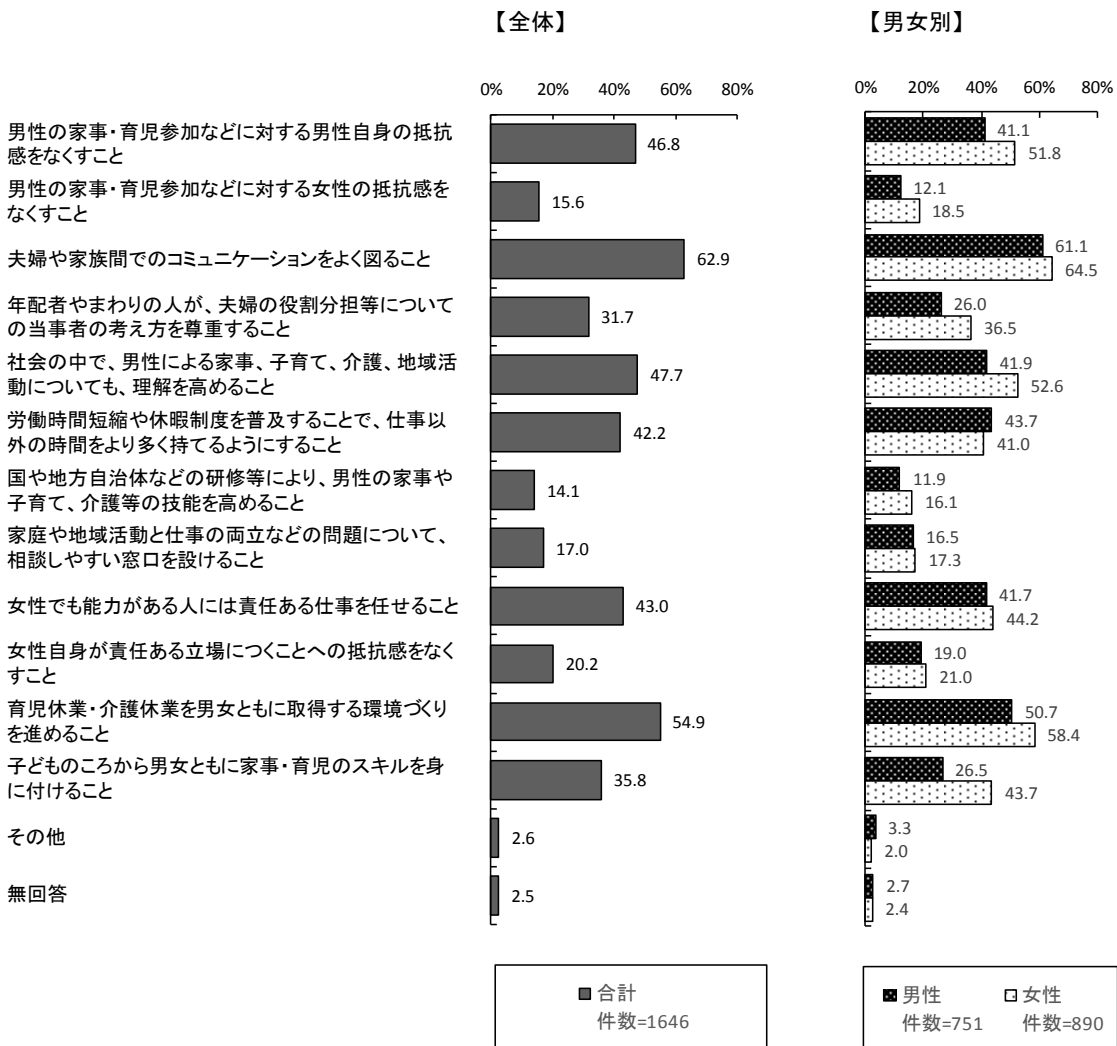
※問 2 1 の回答数の組み合わせにより作成（単一回答）



年齢別にみると、男性は20代から60代は『「仕事」のみを優先している』が最も高かった。特に、男性40代61.0%が最も高く、前問の希望優先度との差は42.3ポイントと、希望と現実との差が大きくなっている。女性は、30代以上で『「家庭生活」のみを優先している』が最も高い。ただし、希望優先度に比べると「家庭生活のみ」が減り、「仕事のみ」が増えている。

(3) 積極的に参加していくために必要なこと

問22 今後、男女ともに家庭生活や地域生活、仕事の場に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

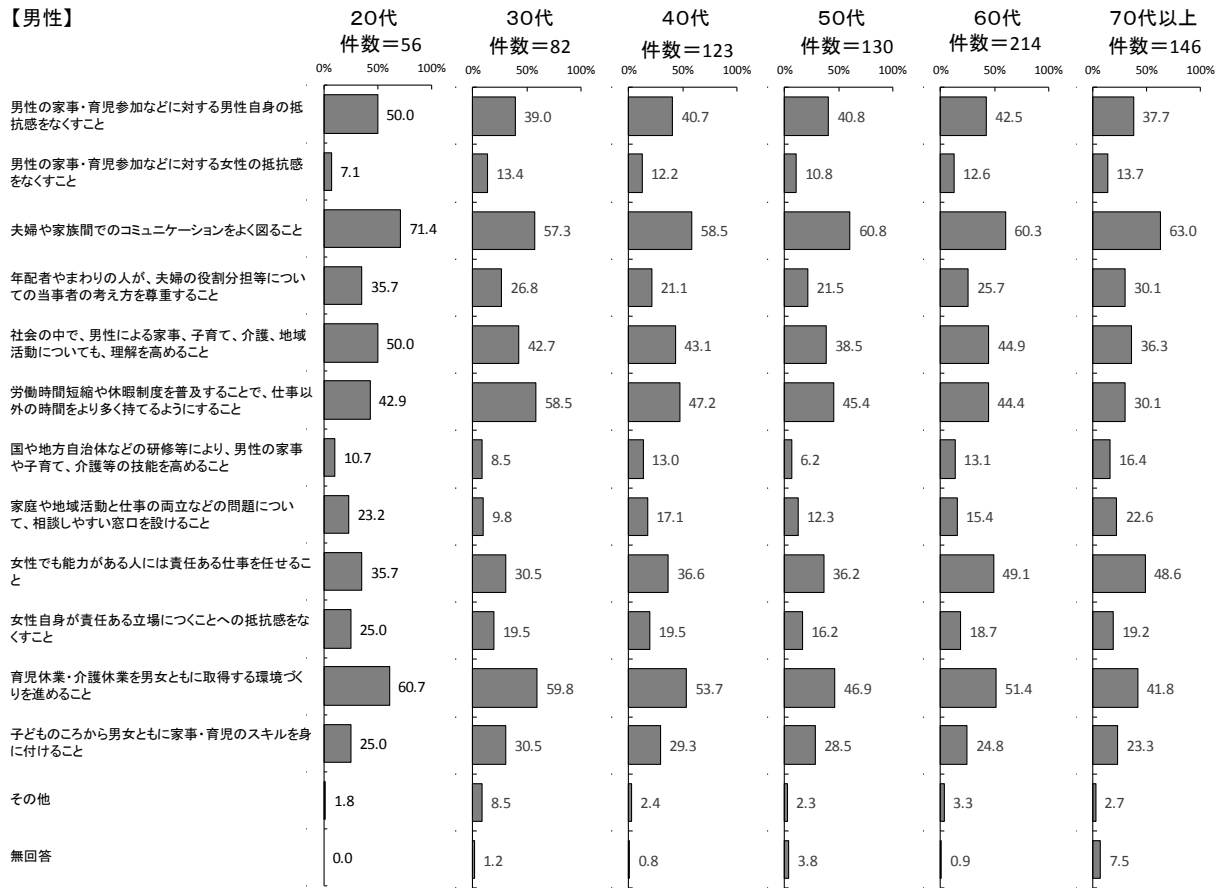


男女ともに家庭生活や地域生活、仕事の場に積極的に参加していくために必要なことを尋ねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」62.9%、「育児休業・介護休業を男女ともに取得する環境づくりを進めること」54.9%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、理解を高めること」47.7%「男性の家事・育児参加などに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」46.8%と高かった。

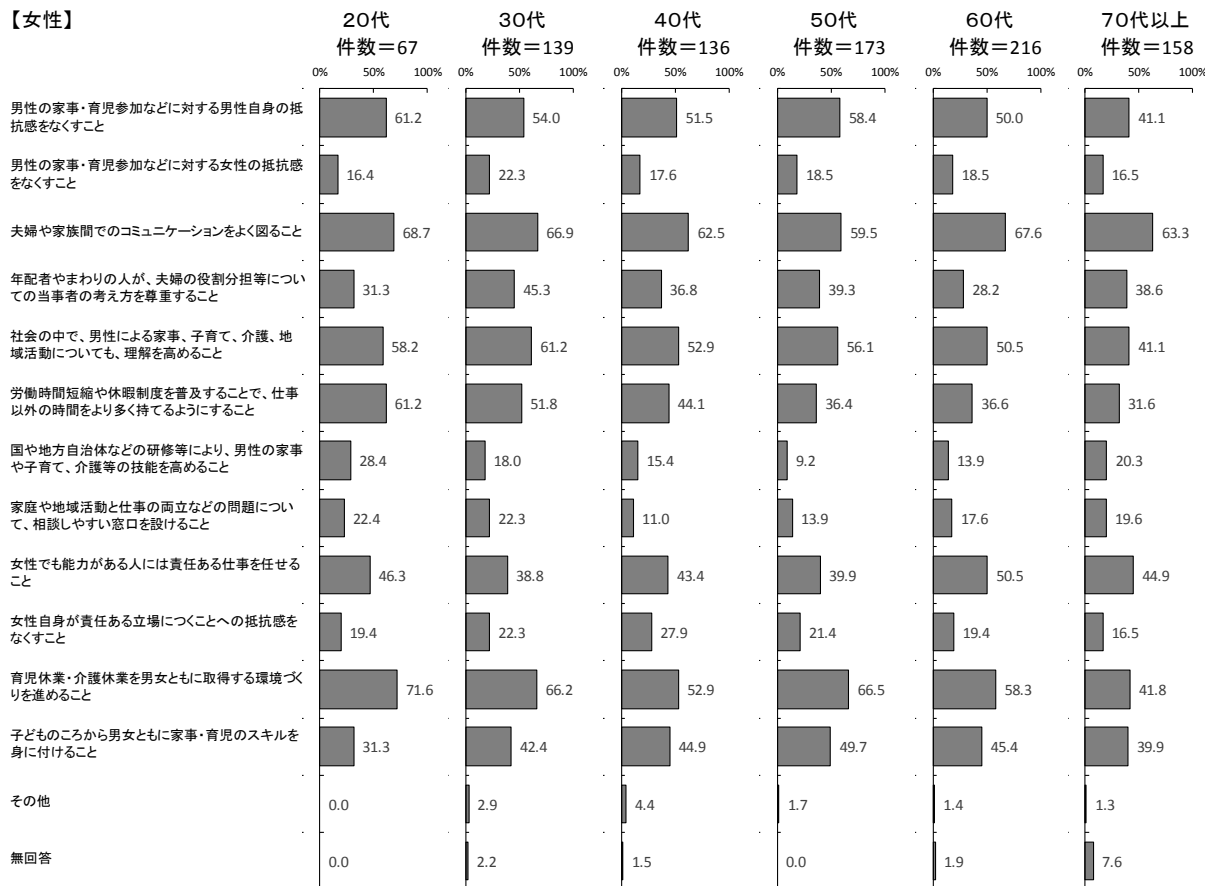
性別にみると、「子どものころから男女ともに家事・育児のスキルを身に付けること」は男性26.5%、女性43.7%と17.2ポイント差があり、女性が男性を上回った。

【年齢別】

【男性】

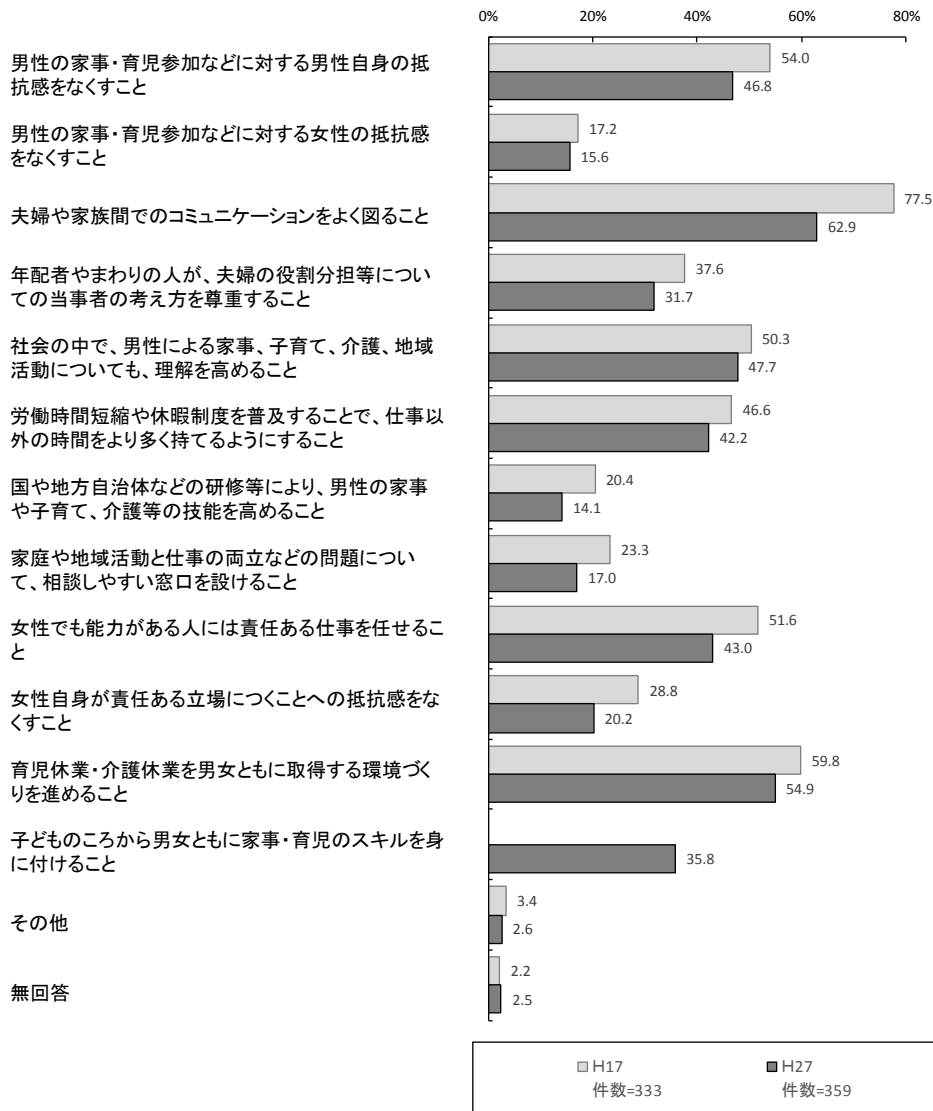


【女性】



年齢別にみると、「育児休業・介護休業を男女ともに取得する環境づくりを進めること」は男性20代60.7%、女性20代71.6%と男女共に20代が最も高かった。

【経年比較】



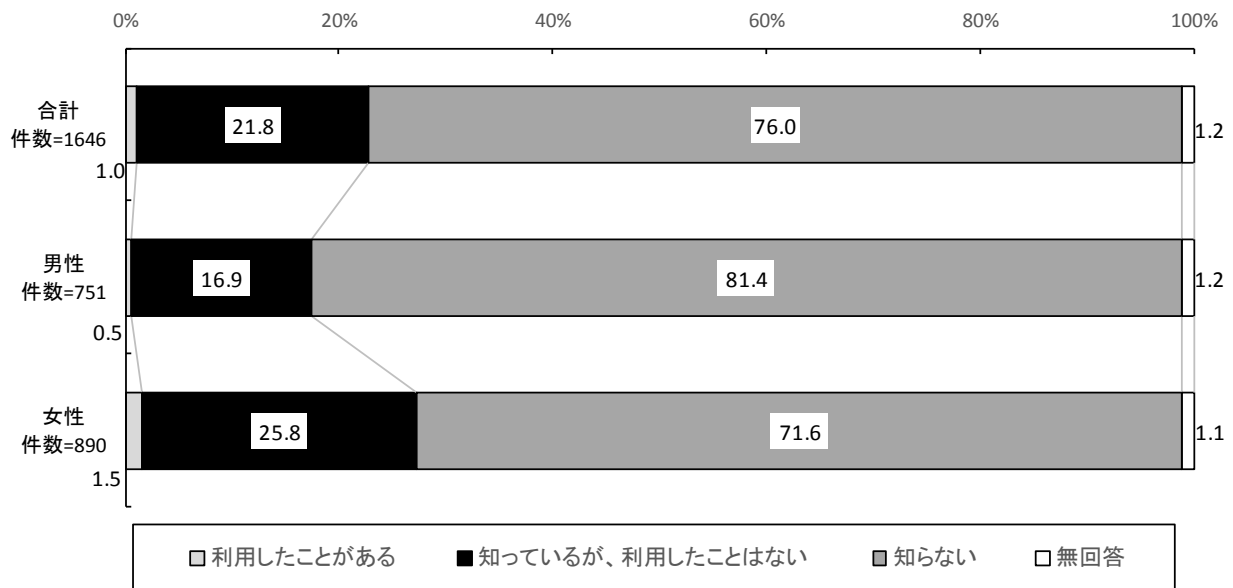
前回調査 (H17・2005年)	合計 件数=333	男性の家事・育児参加などに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性の家事・育児参加などに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、理解を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及すること	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、相談しやすい窓口を設けること	女性でも能力がある人には責任ある仕事を任せると	女性自身が責任ある立場につくことへの抵抗感をなくすこと	育児休業・介護休業を男女ともに取得する環境づくりを進めること	子どものころから男女ともに家事・育児のスキルを身に付けること	その他	無回答
今回調査 (H27・2015年)	合計 件数=359	46.8	15.6	62.9	31.7	47.7	42.2	14.1	17.0	43.0	20.2	54.9	35.8	2.6	2.5

経年比較でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」は前回調査 77.5%、今回調査 62.9%と共に最も高かった。

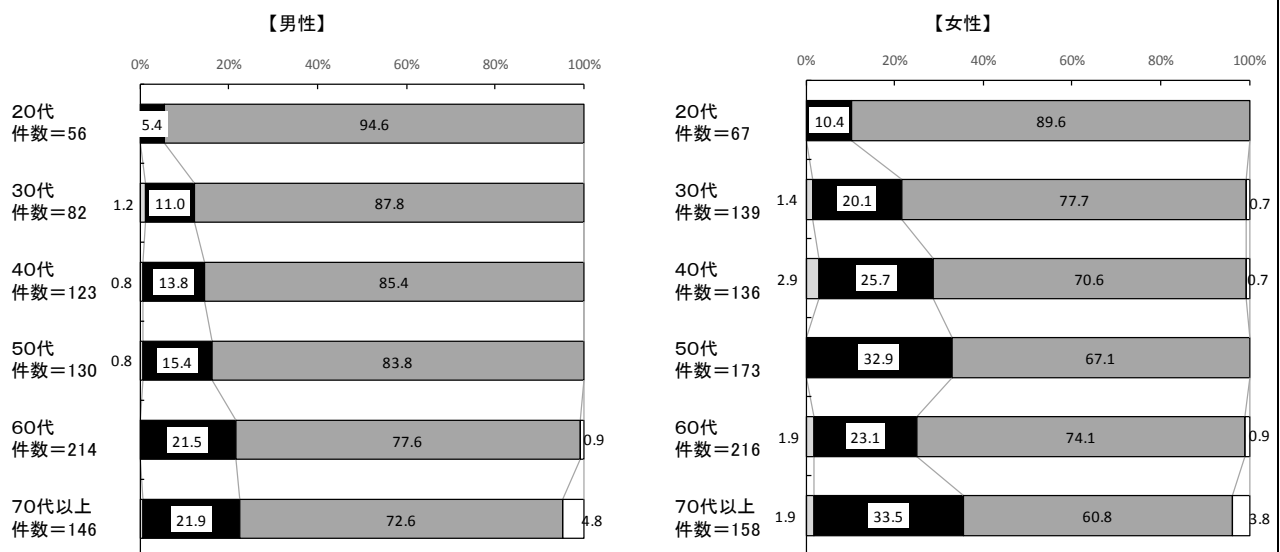
7 実践的な取組の推進について

(1) 「磐田市男女共同参画センターともりあ」の利用有無

問 2 3 「磐田市男女共同参画センターともりあ」を利用したことがありますか。(1つに○)



【年齢別】



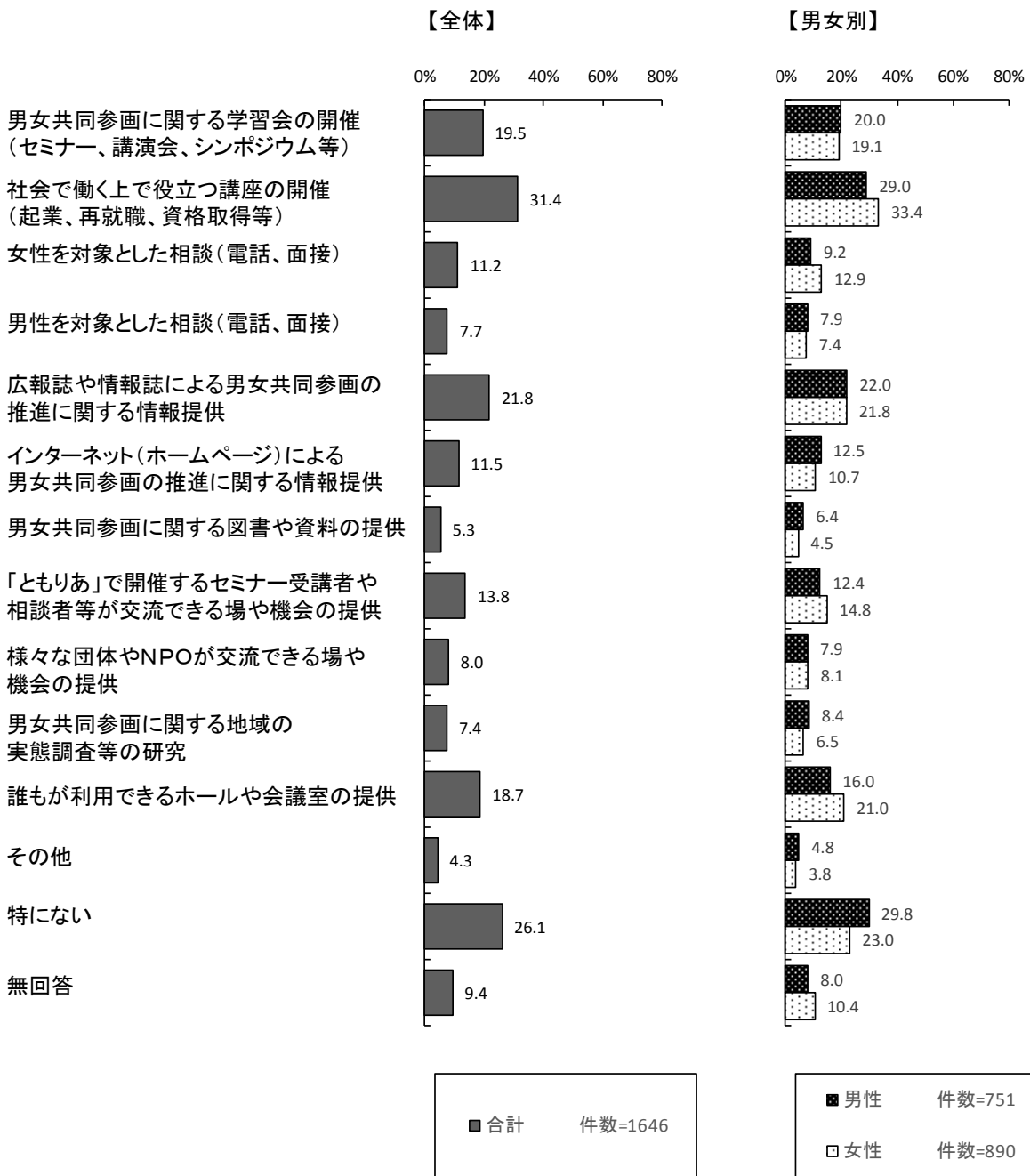
「磐田市男女共同参画センターともりあ」の利用経験について尋ねたところ、「利用したことがある」1.0%と「知っているが、利用したことはない」21.8%を合わせた“認知”は22.8%に留まった。

性別にみると、「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」共に女性が男性を上回り、“認知”は男性17.4%、女性27.3%となり、9.9ポイント差があった。

年齢別にみると、男女共に20代の9割が「知らない」と回答している。

(2) 「磐田市男女共同参画センターともしあ」に期待している役割

問24 「磐田市男女共同参画センターともしあ」について、あなたは、この施設にどのような役割を期待していますか。(あてはまるもの全てに○)



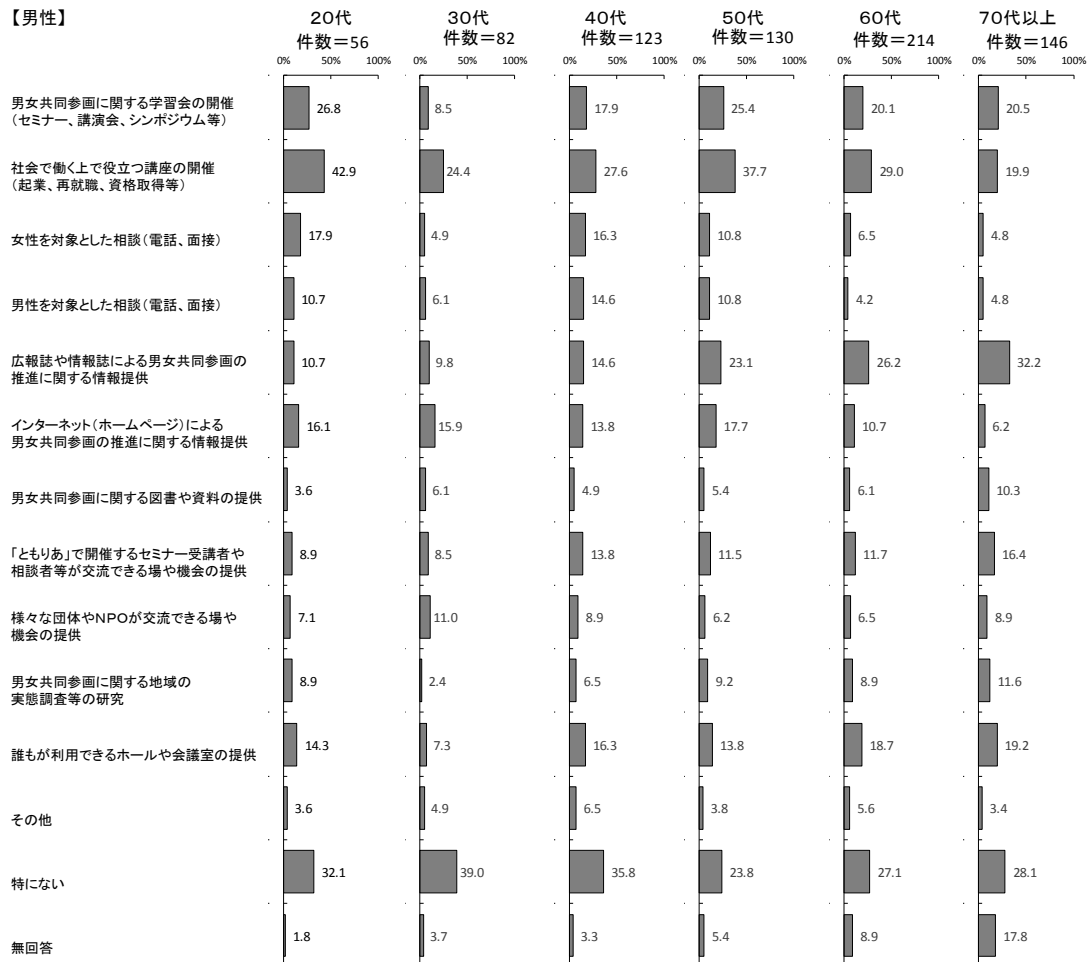
「磐田市男女共同参画センターともしあ」へ期待している役割について尋ねたところ、「社会で働く上で役立つ講座の開催 (起業、再就職、資格取得等)」31.4%が最も高い。

性別にみると、「社会で働く上で役立つ講座の開催 (起業、再就職、資格取得等)」男性29.0%、女性33.4%と、女性が男性を上回った。

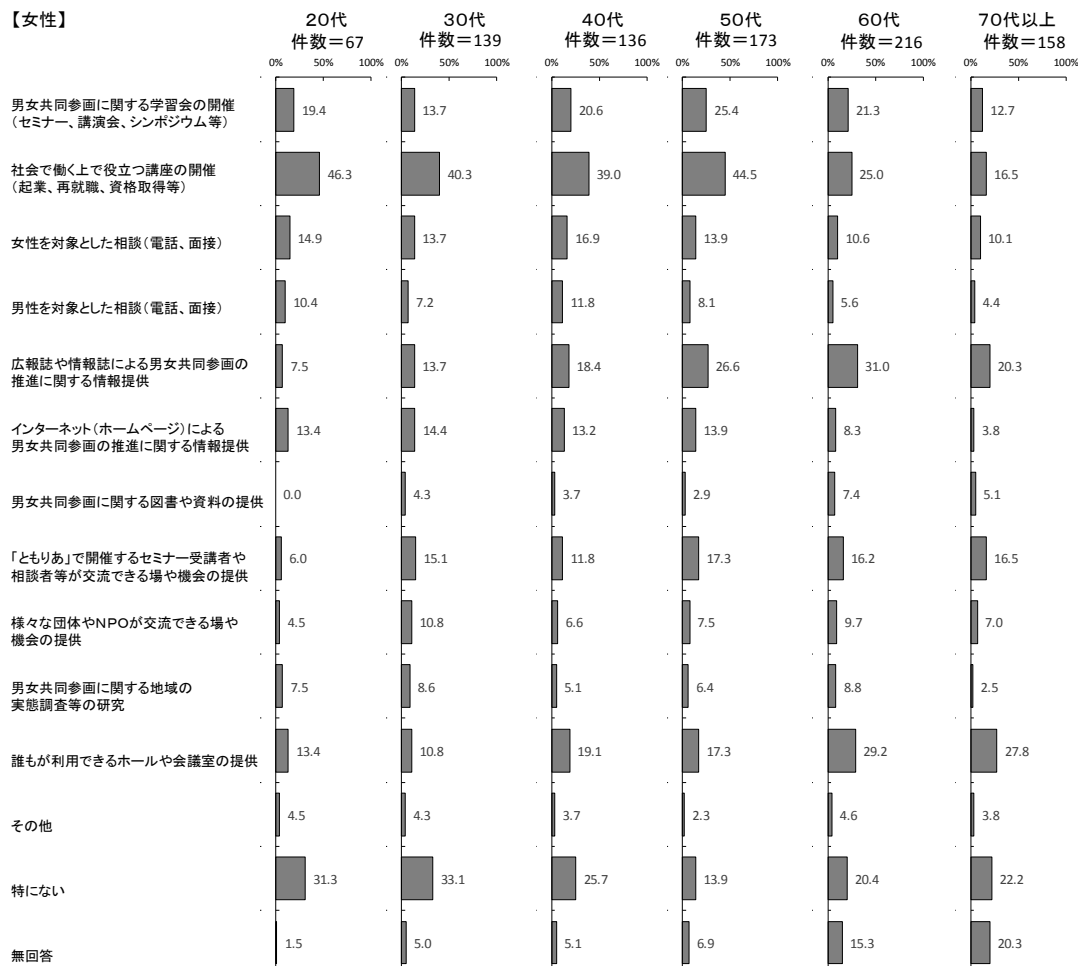
年齢別にみると、「社会で働く上で役立つ講座の開催 (起業、再就職、資格取得等)」は男女共に20代が最も高かった。

【年齢別】

【男性】

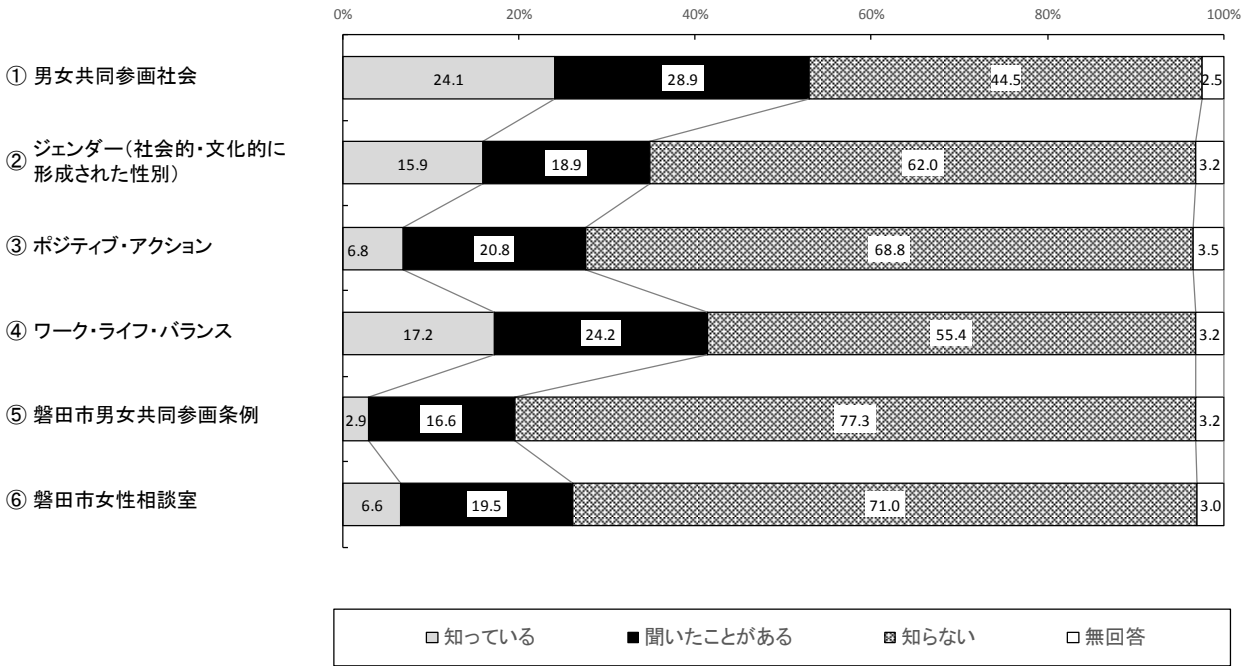


【女性】

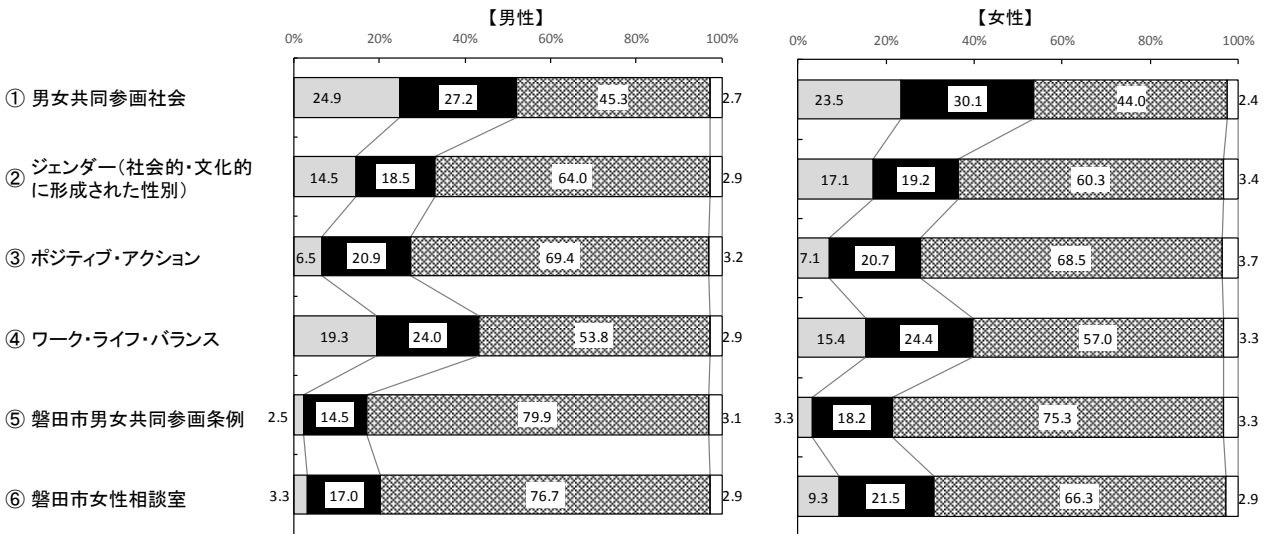


(3) 男女共同参画社会に関する知識

問 25 あなたは次のことがらを知っていますか。(それぞれ1つに○)



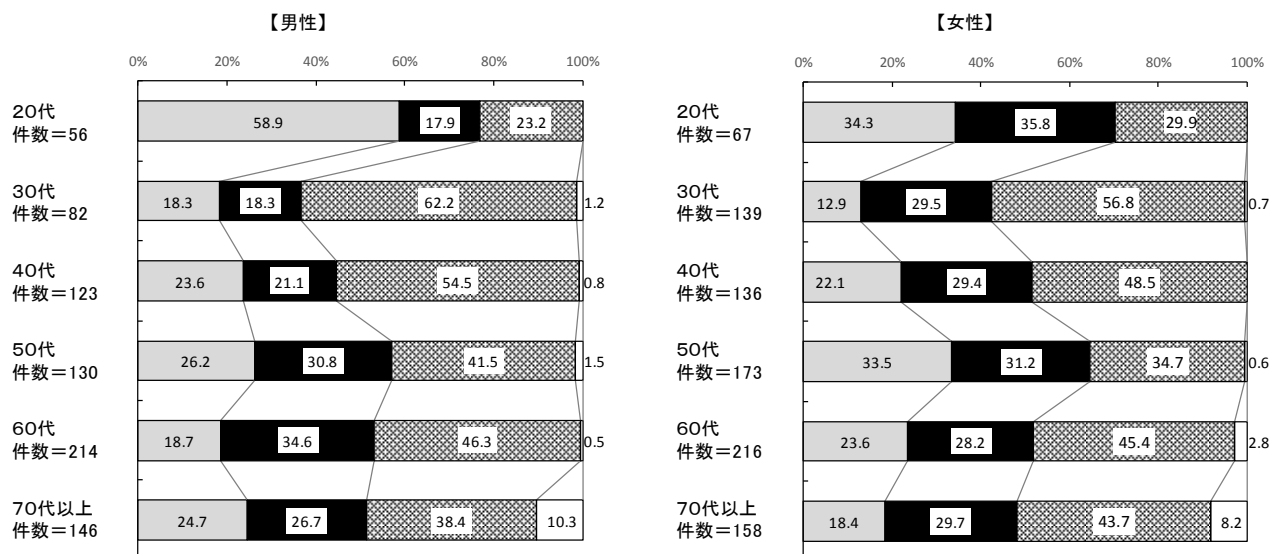
【性別】



男女共同参画社会に関することがらについて尋ねたところ、「知っている」と回答した人が最も高かった項目は、「男女共同参画社会」24.1%。次いで、「ワーク・ライフ・バランス」17.2%、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」15.9%の順となった。

①男女共同参画社会

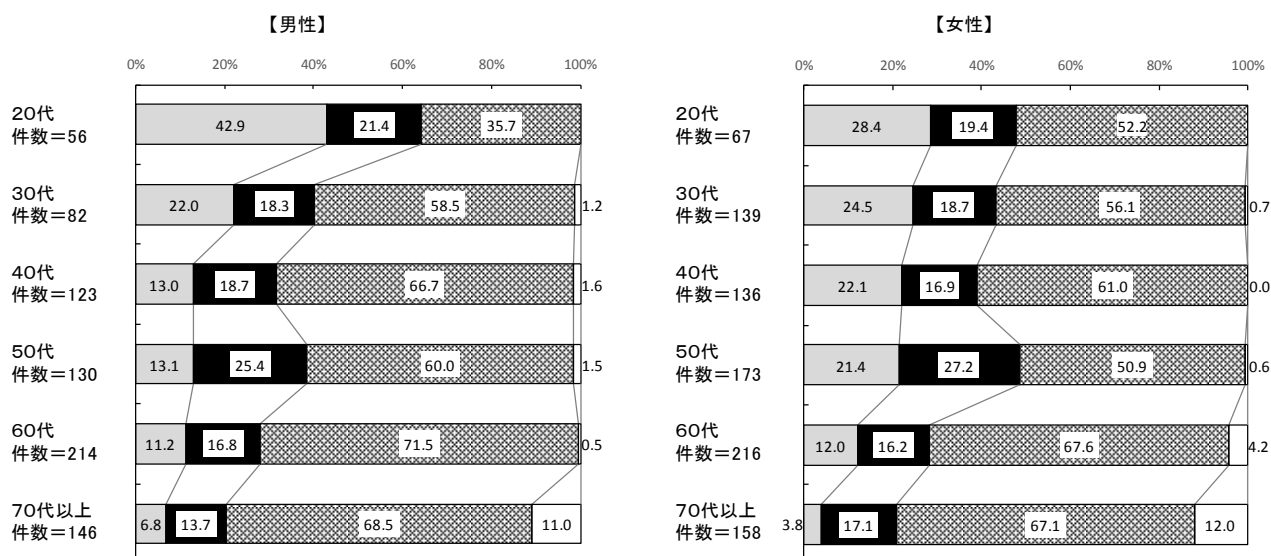
【年齢別】



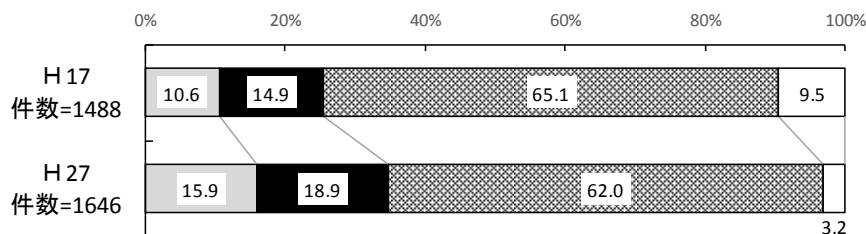
年齢別にみると、「知っている」は男性20代58.9%が最も高かった。

②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

【年齢別】

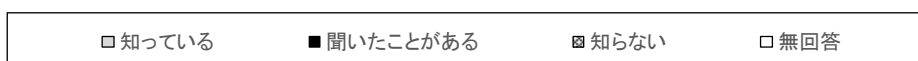


【経年比較】



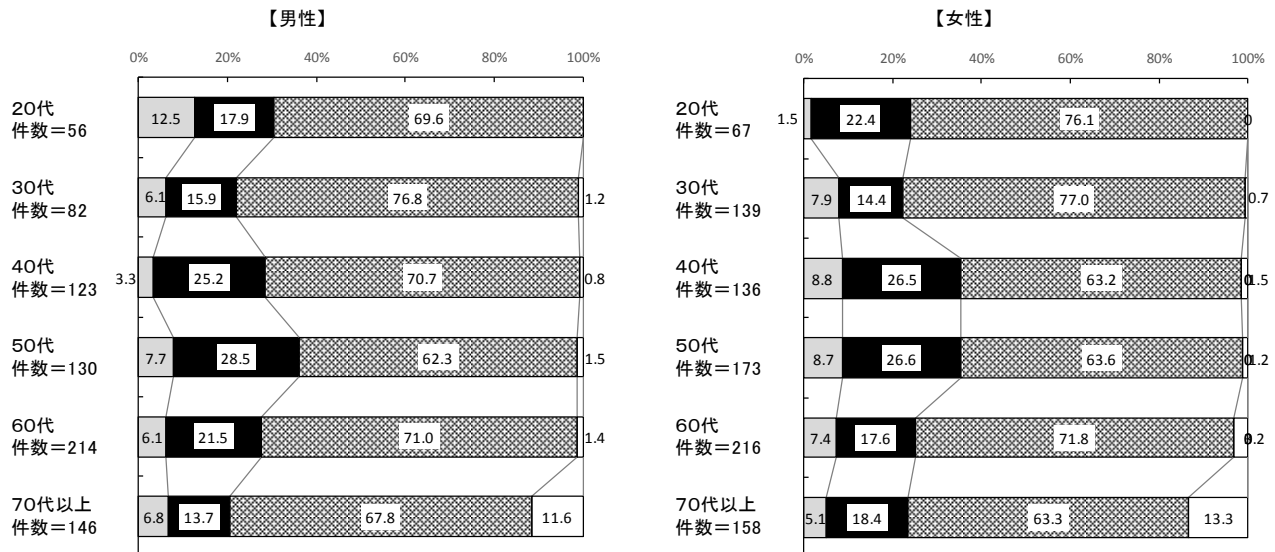
年齢別にみると、「知っている」は男性20代42.9%が最も高かった。

経年比較でみると、「②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」は「知っている」が前回調査10.6%、今回調査15.9%と高くなった。



③ポジティブ・アクション

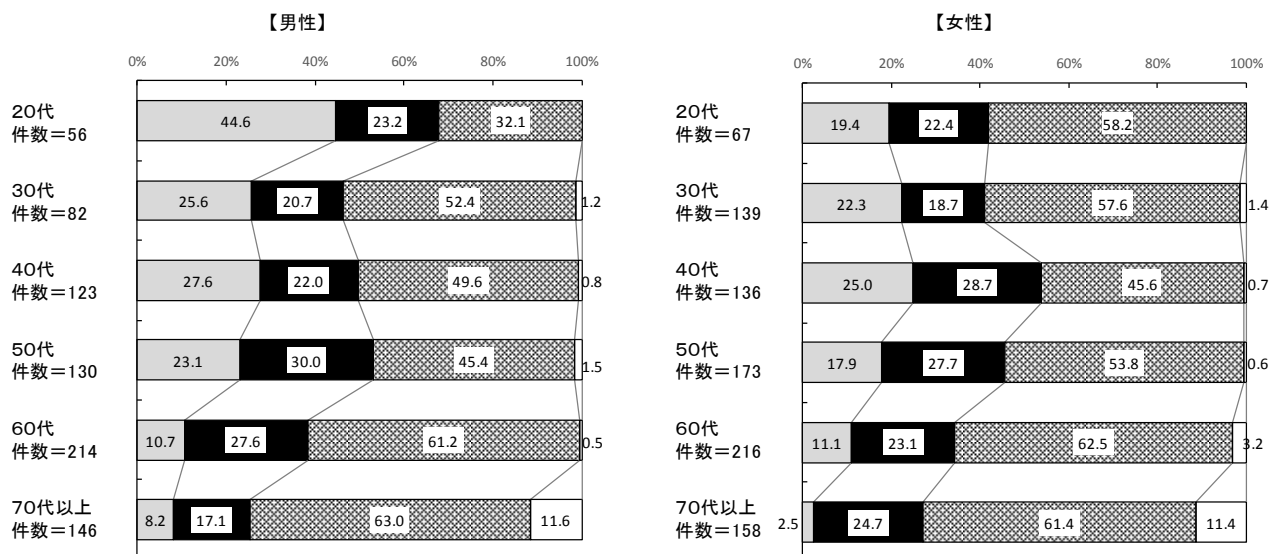
【年齢別】



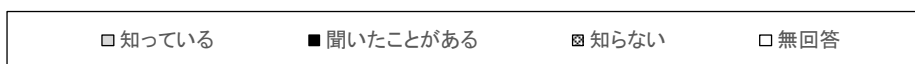
年齢別にみると、「知っている」男性20代12.5%、女性20代1.5%と11.0ポイント男女差があった。

④ワーク・ライフ・バランス

【年齢別】

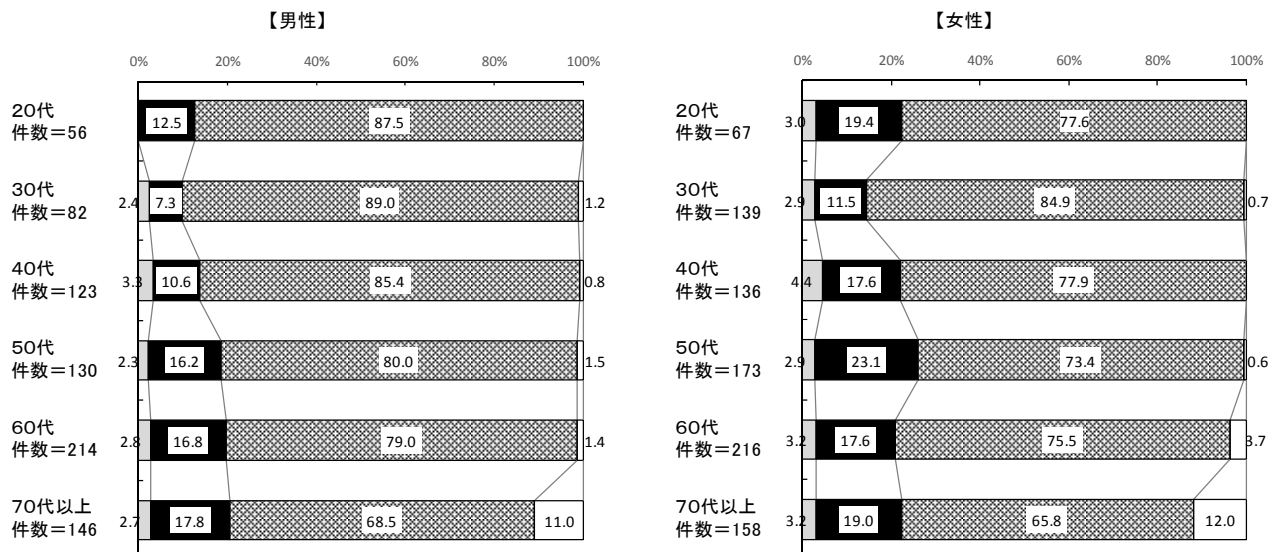


年齢別にみると、「知っている」は男性20代44.6%が最も高かった。



⑤磐田市男女共同参画条例

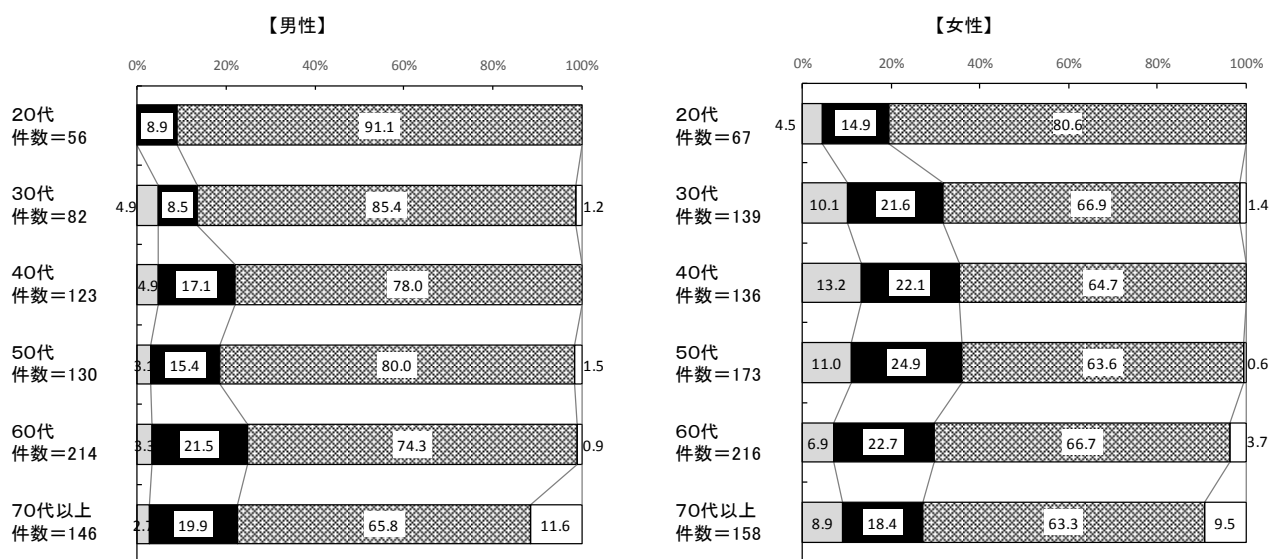
【年齢別】



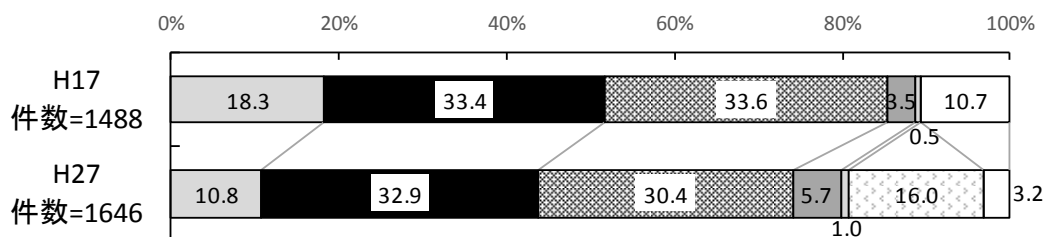
年齢別にみると、「知っている」は女性40代4.4%が最も高かった。

⑥磐田市女性相談室

【年齢別】

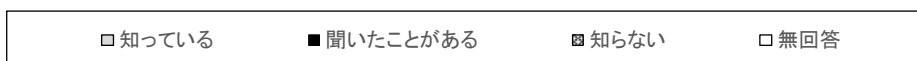


【経年比較】



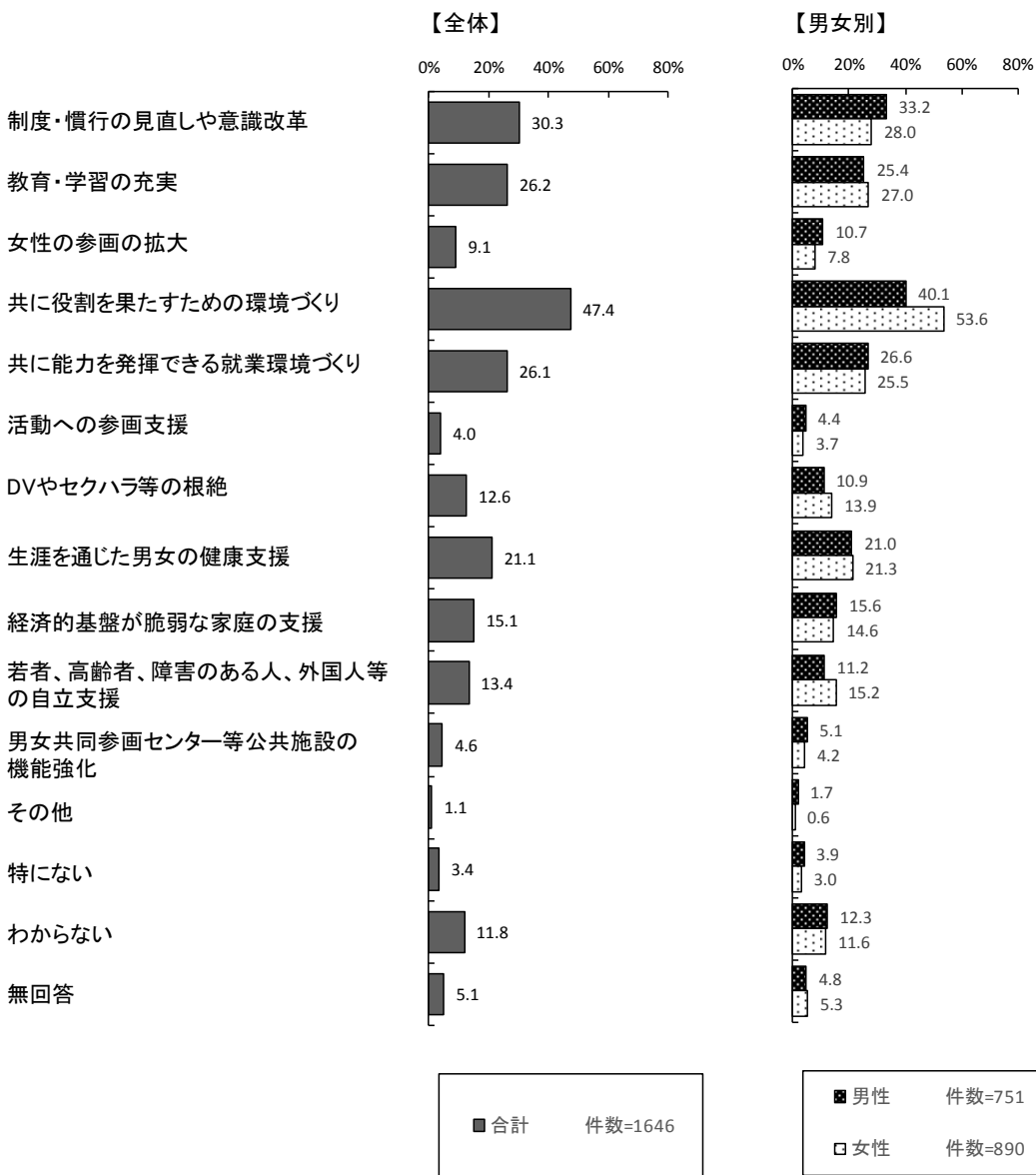
年齢別にみると、「知っている」は女性40代13.2%が最も高かった。

経年比較でみると、「知っている」は前回調査18.3%、今回調査10.8%と低くなった。



(4) 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

問 2 6 男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組は何でしょうか。
(3つまでに○)



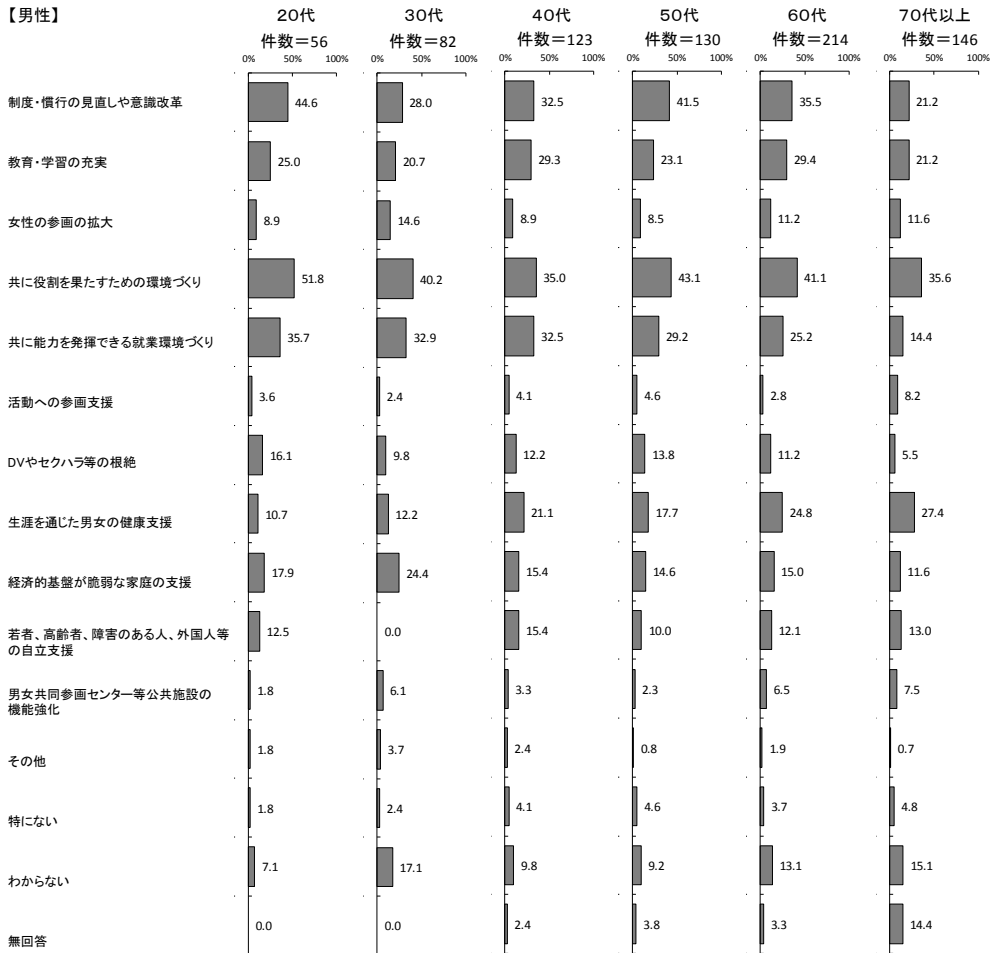
男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組について尋ねたところ、「共に役割を果たすための環境づくり」47.4%が最も高い。次いで、「制度・慣行の見直しや意識改革」30.3%となった。

性別にみると、「共に役割を果たすための環境づくり」は、女性53.6%、男性40.1%と、女性が男性に比べて13.5ポイント高かった。

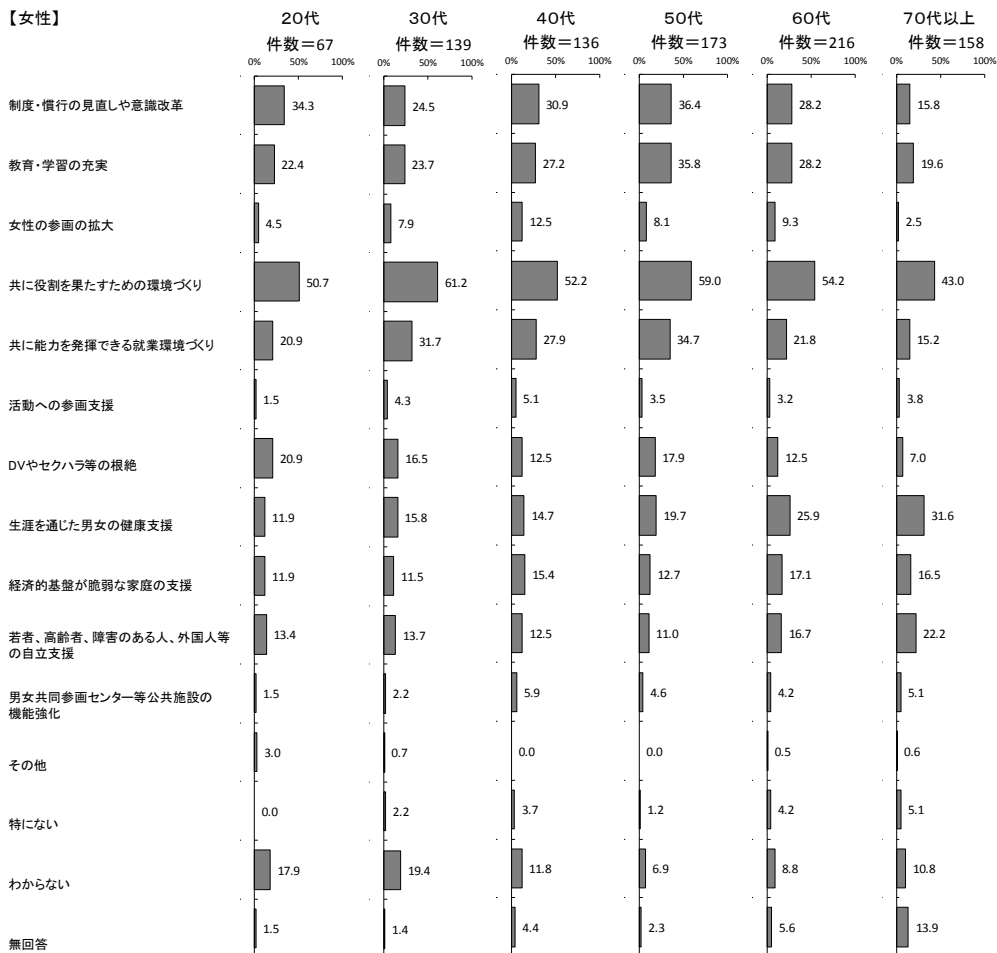
年齢別にみると、「共に役割を果たすための環境づくり」は、男性20代51.8%が最も高く、女性30代61.2%が最も高くなった。

【年齢別】

【男性】



【女性】



男女共同参画社会をめざす市民意識調査に寄せられた回答 （一部抜粋）

（1）社会における制度・慣行について

- 昔ながらの男性優位のような意識、習慣が根強いと思うため色々な考え方の人がいます。それを行政が変えることは不可能に近いと思ってしまいますが……。(20代女性)
- 男性と女性の差別や役割を押し付けないようにもっと大きく男女共同参画を掲げて良いと思う。(20代女性)
- 女性であるという理由で差別を受けることはおかしいが、男女が全て平等であるというのもおかしい話ではないか。無理に平等を掲げるのではなく、否定的な要素をなくした先にある自然な社会の在るべき姿を見つめて欲しい。(20代男性)
- 男女共同参画は素晴らしいことだと思いますが、男性・女性・トランスジェンダーそれぞれに適した分野があることも事実。そこを良く踏まえたうえでの共同参画が進められる様にして欲しい。女性が家庭に入っていたのにはそこが適しているから。適していない人は別の生き方をする。男性も同じ。何でも平等とか叫ぶのはおかしい。(30代女性)
- もう一度男尊女卑の社会に戻したほうがいい。(30代男性)
- 個人的に訴える事の出来ない男女不平等の会社が、まだまだ市内にはたくさんあると思います。市から企業へのアンケート等、一歩ふみこんだ企画等があれば、そのような企業に勤めている人達も、少し安心すると思います。(40代女性)
- 何をもって男女平等とするのか…人それぞれの思考で決定するより他はないのですが、仕事を持つ者としては、保育施設の増設、高齢者施設の充実を行政でしていただき、あとは各家庭、各個人の努力のうえに「平等」が形成される。そう感じます。努力もしないうちから「平等」を口にする女性が多くいますし、近年は、それを行政に求め過ぎです。平等への道を開くのは行政ではなく、自分自身です。(40代女性)
- 共同参画大事ですが、性の違いはどうしようもないことで、お互いに尊重しあえることが大切。各家庭の事情もあるので、一概にすべて平等には行かないと思う。(50代女性)
- 男女平等という考えを教育し、推し進めていただきたい。(50代女性)
- 男女平等は間違いだと思う。男性らしい力は主になるし、女性らしい力を出すことは従になる。(50代女性)
- 男女平等という意味がうまく広がっていないなど、人によって取り方が違う。以前、共同参画事業を推進している市の職員の方に極端ではあるが、女性があぐらをかくのはおかしいと思うことが差別だといわれ、私自身はおかしいと考えてしまいました。(50代女性)
- 法の下に於いて人間は平等であるべきは当然であると思います。昨今の女性の社会的地位の向上や各分野での活躍もその現れであるのでしょうけれど「女性が、女性が」と声高に唱えることに一部違和感があることも正直な所です。元より女性には差別があるという先入観を植付けているのではないのでしょうか。現在の女性はより自由に育児であれ職業であれ選択する意志を持っています。その意志を支援していける行政であって欲しいと思います。そして子供の存在をもっと重視しなければ、女性が社会で輝いても少子化は解決せず未来はありません。(50代女性)
- 男女平等と言ってもやはり平等にはいかないと思う。力・体力の差、元々平等にはならない。女性は感情的なところも多く、なかなか難しい問題だと思います。(50代女性)
- それぞれの家庭での男女の働き方があり、こうするべきだと決め付けて推進しないで欲しい。ジェンダーフリーの考え方を押し付けなくて欲しい。スウェーデンでは教育現場でトイレや更

衣室の男女区別がなく、男の子用、女の子用おもちゃという表現も批判となり、夫婦間では家計は折半、食事も個人で勝手に作って食べ、子育ては当番制などと「個人」を尊重する余りにおかしい風潮になっている。(50代男性)

(2) 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

- DV・虐待、貧困家庭の問題に積極的に取り組んでほしい。(60代男性)

(3) 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

- 小さい頃から男の子たちが家庭の中で役割をもつ機会を作っていくべき。小さい頃の過ごし方が大人になった時も同じ。女の子は、自然とやるが、男の子も親が意図的に役割を与えるべき。(20代女性)
- 男性が家事を推進していくことを強調するより、男性が休みを取りやすくすることや、雇用側で子供が多いと夫婦の仕事復帰をしづらい風潮があると思います。(30代女性)
- 男性も育児や介護に参加できるように企業に育児休暇や介護休暇を取得させるようにうながす。(30代男性)
- 特に男性がワーク・ライフ・バランスを実現できる社会にして欲しい。(30代男性)
- 女性が働くことばかり国は求めるが、子供がいると様々な壁がある。自分が働きたくても、母親がほぼ全般子供や家のことをやっているのだから現実には厳しい。父親も協力しようと思っても会社の時短や休暇を気軽に取れる人は少ないはず。男女共に、子育ても仕事もできるように県や市町村から環境を整える取り組みを広げていって欲しい。(40代女性)
- 女性の専業主婦から就業することを勧める事だけでなく、どちらでも選択が自由に出来るよう偏った考えにだけ優遇されることのない制度を望みます。(女性だけでなく男性も同様であると思います。)(40代女性)
- 女性は子育てをし、やっと終わったところに親の介護、不安でならない。年をとったら子供に頼るのではなく独立を(親のほうが)して欲しい。今の70代は子供に見てもらうのが当たり前と思すぎ。嫁は女中ではない。(40代女性)
- 社会情勢が厳しいうちは、なかなか思い通りに進まない分野だと思いますが、気長な取り組みが必要だと思います。男性側から言わせてもらえば、昔より協力的なムードはみられることが多いように思えますが。(40代男性)
- 女性の立場向上は現状で十分と思う。(十分でない所もあると思われるが)女性の立場が向上することで、子育てが疎かになってきている間がある。今後は男性の家庭や地域活動への参加しやすい環境の改善を望みます。(40代男性)
- 家庭で話し合い仕事の分担等することが良いと思う。お互いを思えるやさしさが大切。(50代女性)
- 育児休業は女性のものという意識が変わらないことが問題だと思う。夫妻で半分ずつ取得するよう法整備したい。社会そのもののシステムが変わらないと改善できないと思う。(50代女性)
- 子育て、介護の負担軽減を。(50代男性)
- 男女が協力していくことが意義あることだということを啓発して欲しい。(50代男性)
- 男女平等の社会になっていくことはとても良いことだとおもいますが、女性でなければ出来ないこと、男性でなければ出来ないことがあるのではないかと思います。男性、女性ならではの役割を考えて、共に尊重し思いやり暮らししていくことが大切ないように思われます。(60代女性)

- 母の手はゆりかごから社会を動かす” 男女共同参画と色々行政が推進していますが、現場（会社、家庭）では格差は必要と思われます。出来る能力がある人、やりたい人が協力し合えば良い。男性、女性それぞれ特性のある仕事を考えています。母性の欠落、道徳上での必要なことをわきまえて行動していきたい。その様な人としての重要なことをご指導推進お願いしたく思います。行政に関わっていない人（おばちゃんみたいな人）の意見に耳を傾けて下さい。（60代女性）
- 生き生きと暮らせる社会にはなっていないと思います。言葉だけがまだまだ一人歩きしているように感じる時があります。男女対策、均等は良いことと思いますが、中には残業ばかり増え大変になったとも聞きます。気兼ねなくお互いが話ができる場があると良いと思います。（70代以上女性）
- 家庭、幼稚園、小学校、中学校、高校で道徳を教え、昔の本を読み授業時間に話し合う。元気やる気勇気思いやり我慢。これらを自分のものにしてから男女共同に入れる。今は自由、個人情報・・・と言っている今日、葬式も連絡が来ない、井戸端会議もない。隣の家は男の人が早期退職して親を看て、奥さんは先生。隣は嫁さんが看護婦、娘が介護、おばあさんは別のホーム、ご主人は自動車会社へ。昔は大黒柱が決まっていたが今はない。男でも女でもやれる人がやれば良い時代。親孝行な人には嫁が来ない、子連れの家でも良いから来て欲しいと言っている人がいる。時代が進みすぎて給料が追いついてゆかず、年金も保険も入っていても本当に貰えるのか心配である。（70代以上女性）
- 女性の参画といっても生まれながらの天性と女性だから仕方ないというか。自分は女性だから男性に頼れば良いという、幼い時からの思い込みを修復せねば始まらない。（70代以上男性）

（4）意思決定の過程への女性の参画について

- 保育事業への予算配分を増やすこと。議員の数が男女半々になるようにポジティブ・アクションを行うこと。（30代男性）
- 行政が率先して女性を重要なポストにつけるなど動きを起こしてくれれば民間も意識すると思う。必ず窓口は女性、奥に男性どこも同じスタイル。例えば、窓口を男性に置けば色々違うところが見えてくると思う。（30代男性）
- 女性は行政社会などで決定する側にいない。現時点では経験や知識不足の場合が多いと思うが、参加する窓口を広げる事によってスキルアップし、近いうちに対等になれるのでは。男、女というよりも、能力があるかどうか？では。（50代男性）
- 市議員に女性をもっと増えて行って欲しいです。（60代女性）
- 政治家（県、市も含む）を男女半々にすることからはじめたら良いと思う。（60代男性）
- 県市議員の半数又は30%以上女性とする条例の設定により、具体的に官がどれだけ本気で男女共同参画に取り組んでいるかを示し、実行プランを次々と展開していくことが大切。（60代男性）

（5）男女が共に能力を発揮できる就業環境について

- 不妊治療での男女の身体的な辛さや金銭面をもう少し改善して欲しい。金銭面は夫の貯金を切り崩して使っているが、それを使う妻の立場や心苦しさがやっぱりある。それで妊娠できなかった時の身体的な辛さも正直キツイ。その分体外受精での保険適用など、本当に少子化対策をしたいのなら、どんどん考えていただきたい。（20代女性）

- 職場にも、同級生などにも非正規で働く人がいる。働く機会がない人に介護や保育など福祉、農業分野の職業体験の機会を増やして欲しい。実際に、年間所得が夫婦共働きでも300万円以下で、子供を生み育てたくても出来ない人がいる。そうした貧困層をなくすよう、上記の通り正社員制度を増やして欲しい。もっと真剣に、市民の声を聴き行動して欲しい。(20代女性)
- 保育園の充実、保育園の料金を安くして欲しい。土日や夜間に子供を預けられる場所の充実。(20代女性)
- 男女が働くのに平等の環境を作って欲しい。(20代女性)
- 職場のトップが女性に対しての理解・思いやりを考え、出産や育児に対しての協力を理解してもらえるよう外部からの指導をしてもらうことが必要。男性が園長の職場にいましたが毎日の暴言や理不尽な発言に悩まされ、最終的には第2子出産後やめさせられました。今後このような人が出ないように、行政からの定期的な監査に入る事を希望です。どこに相談したらいいかも分からずただ言われるまま「一身上の都合」で退職届けを書けと言われ……。本当に心に傷を……。(20代女性)
- 育児、介護で仕事をやめた人が復帰しやすい環境づくり。生活保護を受けなくても仕事につける環境づくり。(30代女性)
- 子育てをしやすい環境を作ってくださいたいです。女性が産後就職したくても保育所がない。又は待機だったり、預ける為の条件(週30時間以上など)が厳しかったり、預けても何かしらの作業で仕事を休まなければならない、会社でのお荷物になってしまう。そうすると、職場復帰も難しく、産休取れず退職という形の選択しかない…という方が多いです。友人の中にはそういう事で子供を作らない夫婦もいます。施設入園の条件の見直し等なければ、少子化は進むと思います。(30代女性)
- 子供のため(病気、幼稚園・小学校の行事など)の休みを充分に取れる会社作り。(30代女性)
- 経済的困難が女性の社会進出するきっかけとなり子供との交流時間の減少へとつながっていく。事実として「やっていけないから」という母友達の話がよくある。税金を使ってやってるなら、子育てしやすい環境にする為にも、経済的な負担の削減に努めて欲しい。税金が高すぎて、主婦のパート代ほぼ家庭での税の支払いで消える現実。それで女性の社会進出動向調査って元も子もないことをしている。(30代女性)
- 男女共に非正規雇用を減らす。正規で働きたくとも働けないこの社会を変えていくことが必要。(30代女性)
- 待機児童の解消。育休中に職場復帰できるのか不安になる。(保育園) 学童保育の平日の保育時間の延長。保育園の延長保育と預かり時間の差がある為、仕事が続けられなくなる可能性が高い。(30代女性)
- 企業へ推進活動を進める。(30代女性)
- ブラック企業(男女格差のある企業、育休介休を取らせない企業等)の発見、情報開示、改善指導など(30代女性)
- 会社(企業)などでも男性の方が優遇されている場面が多く感じます。そういうことをまず失くしてもらいたいです。(30代女性)
- 社会全体が女性が仕事をする事をよしとする方向に向いているが「育児をしっかりしたい女性」がいることも忘れないで欲しい。子供が少し大きくなってからの再就職しやすい環境づくりをして欲しい。5年も6年も育休を望む事が不可能であり、それは望まないで女性が再就職しやすくなって欲しい。(30代女性)

- 女性が働いている場合、育児や介護で労働時間に制約を持たせないように保育所や介護サービスの拡大。(30代男性)
- できる女性はすでに認められている。ダメな人が表に出る事がマイナスな事をわかっていないから女性はずっと認められない。(30代男性)
- 人それぞれ価値観が違います。結婚に子どもが生まれても働きたい人、子育てに専念したい人等々…。どれが良い悪いということはないと思います。なので、社会が「違い」を受け入れ、各々が選択しやすい環境を望みます。家庭においては現実には先立つものがないと子どもの将来に大きな不安があり「～せざるを得ない」状況です。社会保障の割合をもう少し高齢者から子ども達に分けてもらえれば女性の本当に望むところへの積極的な参加が促されると思います。(30代男性)
- 保育園・子ども園、介護施設や制度の一層の拡充をお願いします。(40代女性)
- 今は、子供が大きいので感じませんが、子供を気楽にあずけたりできる所があるといいと思います。子供が小さい時に、心ない事をいう年よりが何人もいました。むかしの子育てを押しつけないで、あたたかく見守ってもらえるとうれしいです。何回も傷ついた事を思い出します。(私の体が悪くて母乳をあげられなかったのに、理由もきかず、母乳でないことをせめられた。知らない年よりに…) (40代女性)
- 休日出勤や残業を減らす方法を企業に提案してもらいたい。(40代女性)
- 民間企業の人達の有給消化率が上がったなら、行政の人達もそれに合わせて有給休暇を取れるようにする。(40代女性)
- 女性が正社員を望んでいても仕事がないので、市が母子家庭の意見とか積極的に社員として安心して働ける行動を起こして欲しいと思います。(40代女性)
- 病院勤務の為どちらかというと女性優位、好待遇で働いていると思います。男女格差もそうですが、子育てに厳しい今の状況、結婚しにくい環境等男女間以前の問題だと思います。男性でさえ非正規社員が増えている今、全体的な生活水準の底上げがなされていないとスタートラインにさえ立てないと思います。この調査をした後何に生かされるのか疑問に感じます。(40代女性)
- 無料の託児所や老人（認知症や重介護など含）のためのショートステイ（ロング）ステーション。働く上で絶対必要なのになかったり、すごく高い料金の所ばかりでは最初から諦めてしまう。(40代女性)
- 女性の社会進出を支援し、その受け皿になる会社。子供を預けることの出来る施設を増やすなどの取組を進めて欲しい。(40代女性)
- そのために仕事を休む（半休）という事が難しい為、有給休暇や何かではなく公休のように公認であるのが当たり前という形になって欲しい。(40代女性)
- 子育て・就労支援として保育所、学童保育所の充実、人的支援・サポート（例：乳幼児の核家族世帯、一人親世帯への訪問や保育所等への送迎預かりサポート等）の設置。(40代女性)
- 育児環境について県、市町にてさらに強化推進を期待します。(40代男性)
- 保育園不足の改善、保育時間・保育料金の見直し (40代男性)
- 子育てを終えてから仕事に就こうとすると、自分のスキルを生かせる仕事に就けるような環境ではない（年齢的に）と思う。本当に自分の能力をもっと生かした仕事がしたいという不満がある。求人と求職のマッチング方法について、もっと改善するべきだと思う。(50代女性)
- 行政だけでなく、1日のうちで占める時間の割合の多い職場での取り組みも必要になってくるのではないかと思います。(50代女性)

- 仕事と家庭を両立してきた中で感じるのは、正規職員であると、子どものために仕事を休みにくい状況が多かった。また、子育て中は時間外労働をなくさないと、子育ては厳しい。夫も協力してくれたが、少子化対策とするのであればもっと保育園を増やすなど、正規でも時間外労働が少ない企業へのアプローチを政策側で働きかけてほしい。(50代女性)
- 正社員の頃男女差別がない会社でした。責任のある仕事で有給がとても取りにくかったです。友人には、母親なのに子供の卒業式に出ることができない方もいました。父親は・・・論外です。やはり子供の為の休みがとりやすい職場、そんな理由でも休みが取りやすい職場になって欲しい。有給の消化率上昇を推進して欲しいと思います。(50代女性)
- 企業等に女性管理職の登用を30%（または20%）でも義務付けたい。(50代女性)
- 女性が働けるよう、もっともっと保育園や学童を充実してほしい。(50代女性)
- 「女性が輝く社会」は無償労働で疲弊している女性に追い討ちをかけるものであってはならない。今の流れは「女性を活かす」のではなく「利用する」ものではないかと危惧している。長時間労働、残業時間のカット、非正規でしか働けないなど労働環境の悪化が男女共に横行しているので、この問題に取り組まない限り、男女共同参画など絵に描いた餅。(50代女性)
- 仕事を辞めた理由について、ケアマネージャーも一般論をマニュアルのように話すだけで、個々の事例に即した具体的な内容を言わない。言えないのかもしれない。市役所の福祉課はもっと現場を自分の足で具体案を考えて欲しい。この点は労老介護や老老介護をしている人には切実な問題、のんびり待っている余裕はない。(50代男性)
- ハローワークでは高卒新人の就職だけでなく、大卒で市内企業に就職を希望する学生（女子）の活動支援をより積極的に行って欲しい。(50代男性)
- 女性の仕事と子育ての両立は大変なことです。安心して子供を預けて働ける環境や施設がまわりにたくさんあればいいと思います。(60代女性)
- 娘が第二子を産み、育休明けで職場復帰しました。仕事は好きでやりがいも持っていたため、正職員として働き続けたいと思っていました。第一子を産み、数ヶ月は正職員として働いていましたが、パート職員となりました。6時間労働の制度を利用しましたが、職場内のパート職員で8時間勤務している人や変則勤務をしている人がいる為、働きにくさを感じました（制度を利用しているものの6時間ということでの負い目や子供が小さいうちは無理しないほうがいいよという同僚の声など）。今回は、上司の勧めもあり、正職員として復帰しましたが、本人や夫、別居の家族（私）の協力等でスタートしました。女が一人前に働くということが大変であると自分の経験も重ね思います。しかし、後数年で退職しようとする今、仕事をしていなかったら得られなかった充実感や知人がいます。一人でも多くの女性が、私のように思えるよう、環境を整えるよう頑張って下さい。よろしくお願いします。(60代女性)
- 男女共いくつになっても働く場所が欲しい。(60代女性)
- 女性が外で活動していくことは大事なことだが、子どもが幼稚園に入っている間はしっかり家庭で子どもと接して愛情を注ぎ、子育てができるよう福祉を充実する。母親が働きやすい時間帯の仕事が増えると良いと思う。公務員の女性が一番恵まれていると思う。(60代女性)
- ほんの一部の女性は社会進出を望んでいるが「3食昼寝付き」「父ちゃん元気で留守がいい」に代表される様に多くの女性は共働きは必ずしも望んでいない。又、男性も家庭を守ってくれる女性が居る事で、思いっきり働けるし、結果的に収入面で生活を守りたいと考えている。社会の安定化を望む上では、特に男性の非正規雇用は廃止すべきだと感じている。(60代男性)
- 小さな子を預かる施設を作り、母親の仕事が出来る環境を作る。(60代男性)

- お役所仕事で臨むのであれば効果は期待できない。弱者が虐げられるのは女性だけではない。それを含めて考えて欲しい。(60代男性)
- 賃金の格差をなくし、出産後も仕事のエリアを広げて欲しい。(60代男性)
- 国民の生活はそれぞれの特殊性具体性の中にあるので、その中での個々のケースで考えるしかない。公務員の世界では女子が優遇されている。力があっても冷や飯を食べて働いている男子がいるということが問題であって、男女の問題ではない。行政の主体性が問われる。(60代男性)

(6) 地域社会の一員としての活動について

- サークルを作る。男女仲良くやれるもの。(スポーツなど得意なものを生かせる様に)(30代女性)
- 未来を担う子供たちの教育に力を入れて欲しい。子供たちの将来、未来がこれからどうなっていくか心配。(30代男性)
- 「祭」なんかはやはり男性がやっていくべきだと思う。仲良しママグループには入れないママとか実際にいるので、男性として困る時があります。(30代男性)
- 男女が共に生き生きですが、“生き生き”というのはかなり個人個人の考え、感じ方があると思います。どんな環境におかれても、“生き生き”と感じられるような支援を行政には望みます。実際にはまず“生き生き”とした自分を自分で作れる、考えることができるような人間を育てること、教育に力を入れてほしいです。実際に今直面している問題に対処していくことも大変重要ですし、望むところですが、やはり未来に向けてのことを考えてほしい。そしてそれをしっかりわかるように、説明して頂きたいです。(40代女性)
- ほとんどの市民が生活の為に仕事をし、仕事を優先しているため、本当の家庭での時間がとれず、家庭問題(子供、介護などの問題)に直視できない。(40代男性)
- 古い土地柄、地域行事への参加が必須となっている場合が多いが二人暮らし(夫・妻)だけでは、会社を休んだりすることがしにくいですが 出なければならないなどの家庭への配慮がない。特に県外から引っ越してきたので、地域のしきたり、祭りなどわかりにくい！(40代男性)
- 現代はアベノミクスとは言われつつも、輸出産業を持つ大企業のみが利益を上げ、中小企業に勤める親達や青年達は全くアベノミクスの恩恵を受けておらず、その中で消費税のみが8%→10%へ上昇しますます家庭を維持していく中で、親と子のコミュニケーションが取りづらくなってきています。こうした悪循環を断ち切らなければ心のゆとりは生まれません。少子高齢化がますます進む中で、今の時代の若い家庭の立ち位置を見つめなおし、将来に結びつける為には何をすべきか考える必要があると思います。(40代男性)
- 法や制度を変えても慣習や意識は避けられない、30年かかる。それを変えるのは教育のみ。(40代男性)
- 安定した老後を暮らせるようにしてほしい。そのために、仕事をしながら、趣味をみつけたり、友達をみつけたりが必要だと思います。両親が社会の中で自立して生きていく、助け合いささえ合っている姿を子ども達にみせることで、次の世代も選択の幅を広げていくことができると信じています。(50代女性)
- 子供の頃から共働きの両親を見てきた世代が育ちつつあると思いますので、女性が働くことにはたぶん平等と受け入れている人々が多いと思います。しかしワーク、ライフ、バランスはど

うでしょうか？家事、育児のスキルを身につけること、金銭教育（ライフプラン）が大事だと思います。（50代女性）

- 祭りの女性参加。（50代女性）
- 性別も年代も超えているいろいろなことを共有できるイベントや結婚に対する悪いイメージをまず若い人たちから取り外し、家庭こそが社会へ通じる一歩だと理解してほしい。会社へ入ることが社会人になるのではなく、家庭を作ることこそが社会性へつながることだと、小学生の頃から教育していくべき。でないと、結婚したくない年代の男女がますます増加し社会が点と点になる。（50代女性）
- 町内活動に参加するようになり、男女の仕事分担に非常に男女差があることを感じた。特に祭りへの準備企画等、地域性があるかと思うが、男女の役割が明らかに分断されている。（60代女性）
- 健康の為に歩いていける所に人寄りの出来る場所・建物があって、趣味・花造り等皆が楽しく教えあえる会話のある時間を持ちたいと思います。責任・義務より有意義な人生を送りたい。希望であり、現実は一生涯健康で働き続けるのが幸福なのかもしれません。（60代女性）
- 自分も高齢者と呼ばれる歳になり、市で色々と企画して頂く事はありがたく、私も仲間に入れていただいているのですが、男性の参加者が極端に少ない。女性の方々は大変意欲的で何にでも取り組んでいるけれど一人暮らしの方又中高年の男性がもっと積極的に一緒に参加したならば、今後増加する一方の医療費や介護費用も抑えていけるのではないかと思う。これも男女共同参画社会の一つと思う。身近なところに健康維持の為に筋力アップ、維持できるような体操教室のようなものがそこかしこにあると嬉しい限りです。（60代女性）
- 自治会長など、地域活動を女性中心に方向転換して欲しい。補助金を女性の場合は2～3倍にする等。あらゆる分野で女性の参加割合を規定する、又、経済面で有利に誘導する。（60代男性）
- 地域の中でリタイヤした公務員・教育者等を積極的に人材活用をする。（60代男性）
- 障害者の自立支援教育、看護、介護の充実。（60代男性）
- 子供の頃から教育していく。（70代以上女性）
- 教育過程で問題点を指摘して、本来あるべき姿を示していくこと。職場や地域での取組の強化。（70代以上男性）
- 幼少期から大人になるまで、切れ目なく教育学習の機会を充実させる。男女の人権尊重・男女平等の推進の講習や情報誌による活動を継続。社会的・経済的弱者・家庭の把握と支援・フォローの継続。企業をはじめとする働く人々を受け入れる職場の人権尊重、男女平等意識への積極的対応を促進する機運を醸成する指導を担うべし。（70代以上男性）
- 女性はもっと社会等に、特に地域社会に参加すべき。（70代以上男性）
- 生き生き施行条例を知らない地域社会の現実を払拭する。条例使用目的が潜在している限り、真の地域行政は更に後退する。（70代以上男性）

(7) 実践的な取組の推進について

- 個人個人に「どうにかしたい」と思う心が生まれなければどうしようもない。（20代女性）
- 私はこの調査で磐田市男女共同参画条例があることを知りました。色々な人に情報開示を広くしていくことと、こういったことを考える機会をたくさんの人に作ってもらうことも大事だと思います。自分が生きて行く上で重要なことですが、このようなアンケート等の機会を得て改めて社会の事について考えることが出来ました。（20代女性）
- 信念を持って取り組んで下さい。民一人一人の信頼を勝ち得て下さい。（20代男性）

- 男女平等を実現する為にはその定義をはっきりさせることが必要と考える。必要であれば男女で差をつけることも許容すべきということなども発信して頂きたい。(20代男性)
- 市町が行う公共施設、相談窓口が早い時間にしまってしまう。ここで働く方の労働時間、環境を変えてもらい、夜間でも利用できる施設が欲しいです。(30代女性)
- 推進しなくてよいので税金を下げて欲しい。推進しても何も変わらない。給与の控除額を見ると働く気が失せる。(30代男性)
- 男女共同参画は必要ない。(30代男性)
- 税金を使わずに出来る方法を考えて欲しい。(30代男性)
- ごくごく一部の方々の支援でなく市民全体に行き届く支援活動をして頂きたく思います。(40代女性)
- 行政のサービスがわからない。どこで聞くかもわからない。だから利用すら出来ない。よろずや相談所を作って、困っている内容でどこに行くか考えなくても「あそこにいけば何とかなる」と思う施設を作ればいい。(40代女性)
- 問26(男女共同参画の実現に向けての取組に重要だと思われる取組)の取組を積極的に行動して行って欲しい。(40代女性)
- 別に男女共同参画を望んでいない。男女平等など別に期待していないし、望んでいない。(40代女性)
- 多角的見地で、充実、発展してほしいと思います。(40代男性)
- 人口減についての対策も平行してやって欲しい。(40代男性)
- 理想的に数値目標を掲げて大きく宣伝広報していくことが必要だと思う。(目標未達成でも市民が文句を言っはいけない。)個人や企業の意識によるものであるなので、行政は出来るだけ大きく太鼓を鳴らしてもらいたい。(40代男性)
- 未婚者を減らす。(40代男性)
- 問題発生は経済面であり、経済面にゆとりがあれば殆どの問題は解決できると思われる。育児・介護施設を充実させても費用の問題があり有志含めての経済支援の仕組みを考える必要がある。相談で物事解決できるわけでもなく、しっかり生きていける人のみ支援して欲しい。(40代男性)
- 立場、意見、生活環境の違う人達が、それぞれの立場での考え方を話合える機会を作り、意見交換できる場所(会議)を開催する。何か役員をしている人だけではなく、このアンケートのように無作為に選んで出席してもらおうというような会議であればもっと色々な意見が聞けるのではないか。(50代女性)
- 今までどういった活動をされていたのか余り知らないのもっと気づけるような広報がされているといいなと思います。(50代女性)
- 男女共同参画の活動や計画をもっと発信してほしいです。(50代女性)
- 意識改革、啓蒙活動。(50代女性)
- 知らせる、知る事が大事だと思うので情報提供をもっとして欲しい。(50代女性)
- 発表をする場を作ってほしい。(50代男性)
- 無駄な行政を行なわないこと！実体は定形的アンケートではつかめないの、能力の無い担当者をつけないこと！人を絞り、給料を上げ、出来る人に仕事して頂きたい。民間からの登用を望む。(50代男性)

- 磐田市が何を行っているのかほとんどの住人は知らないのではないか。用語をなぜ専門用語化してしまうのか？専門家だけが知っている言葉をひけらかしているようで不快に感じる。言葉を浸透させるのではなく具体的に何をすることが重要なのではないか。(50代男性)
- このように声を出さないといけないのでしょうか？(50代男性)
- 少子化問題の一つに男女共同参画を立ち上げてから加速したと思う。女性進出を選ぶか、将来の日本を選ぶかどちらかと言われると、男女共同参画は不要と考える。(50代男性)
- 年金生活者にはよく理解できないところが多く、答えづらい部分が多かった。(60代女性)
- 多くの市民が関心を引くような形で情報を公開し、積極的にアピールし認知を深めるようにしたらどうか。実際に具体的な関わりを持てるような機会を設けて欲しい。(60代女性)
- 現在、家族(夫の母の介護援助(介護2))や孫の世話で社会に目を向ける機会が少ないのが現状です。広報等で読んで知る程度ですが、目を向けて行きたいと思います。(60代女性)
- 男女共同参画社会の実現には、市民一人ひとりに浸透させるべき課題があると思われる。(60代女性)
- まだまだ浸透していない様に思います。選ばれた一部の人で行っているような…。(60代女性)
- もっと一人一人が楽しく生活する為に前向きに考え、人との関わりを持つ為に参加、参画していかねば!!(60代女性)
- 支所から本庁に移すことで男女共同参画への意識向上につながると思います。(60代女性)
- 意識が自分自身を含めて低いと感じます。「男女共同参画」の硬い感じも嫌いです。肩肘張った感じ、親しみが湧きません。(60代女性)
- 自分自身年齢になってきて、夫・自分と健康面で不安であるため男女共同参画をどう推進していくかなど考えてなかったしわからなかった。年金生活者となってきた者として生活不安にならないように行政に望むだけです。(60代女性)
- 私(60代後半)の年代としては次代の男女共同参画は特に男性の子供を持つ親の立場は非常に難しいのではないかと思います。まず今現実にその立場で悩んでいる人達の生の意見を聞いた上で、次に幅広い年代と主に統計を取った上で、把握してからのほうが的確ではないでしょうか。(60代女性)
- 男女共同参画社会の言葉だけ先行し、どれだけの市民が理解しているのか？色々な政策を立てるが、どれだけの市民に理解、浸透しているのか？このアンケートでもジェンダーとかワークライフバランスとか、日本語で理解できる言葉を使ったら！67才の自分は辞書を引くが、和製英語では分からない。もっとやさしい言葉を考えてほしい。(60代男性)
- 男女共同参画の活動を知らない人が多くいると思います。もっとアピールをしていてもらいたい。(60代男性)
- 県、市側が上目線での押しつけている行政である限り、可能性はゼロ。県民も必要性以上に前に進めない。地域に浸透しない企画を改善する為には、本来の絆が失われている社会に不安を感じている。(60代男性)
- こうほ(広報?)磐田でのPR。こうほ(広報?)磐田で「ともりあ」を紹介、取り上げる。(60代男性)
- 男女共同参画をさらに推進する必要なし。行政は無駄な調査をやらないでその分税金を下げて下さい。(60代男性)
- 共同参画を推進するなら各個人の意識を変えたらいい。(60代男性)

- 男女共同参画という課があることを知らない。市民に課が有る事を伝えることから始まる。(60代男性)
- 磐田市でしか出来ない行事やイベント(県外から人々が集まるもの)。1年に1回の行事。例えば静岡市のように大道芸や青葉通りでのイベント。憩いのスペース(樹木があり、イベントが出来る広場)を造って欲しい。浜松の中心地のようにってはダメ!!買物は少し遠くても楽しければ静岡まで行く。(60代男性)
- インターネットの活用や参画できる人の時間制限の緩和を図る。(60代男性)
- 高齢者の増える社会状態はまだ続くと考えます。精神面、健康面への支援の方法を強化して下さい。(70代以上女性)
- 男女共同参画条例が出来て9年、活動をしているのは分かっていたつもりですが、根本的なことは何一つ分かりませんでした。片親で頑張っている親子が多くなりつつあると思います。子供は両親がいる方が良いけど、報道である殺人鬼の親だったらいりません。男女が仲良く子育てできる世代はいつ訪れるのでしょうか。今の子供の未来が明るくなるような男女共同参画が発展して欲しいです。(70代以上女性)
- 口先だけではないのかな?少しずつは変わっていくかもしれませんが。(70代以上女性)
- 公務員は優遇されていると思います。中小企業のことをもっと考えて欲しいと思います。私達の血税です。市役所の人数が多いのでは。(70代以上女性)
- 男女共同参画社会という言葉は大変美しい。しかし「美しいものには棘がある」ということを政治家も役人も社会一般も真剣に腰をすえて考えるべきである。(70代以上女性)
- 市役所、広報などで細かい情報が発信されることを望みます。(70代以上女性)
- 男女共同参画という言葉はよく聞いたことがあったがそんな内容が良く分からなかった。年をとると外来語(意味)がよく分からない。(70代以上女性)
- 磐田市に男女共同参画について取り組んでいる事すら知りませんでした。もっと一部の人だけでなく、わかりやすく発信していくべき。(70代以上男性)
- 男女の人権尊重ではなく、人間尊重、社会尊重が必要大事。行政はその為に何を行うか考え、計画、実施、目標を掲げていってもらいたい。民の力を幅広く活用することをお願いします。(70代以上男性)
- 男女共同参画がなぜ必要なのか、またそのメリット等もっと一般市民に知らせることから始めて欲しい。(70代以上男性)
- 後期高齢者。アンケートを送付された側は記入に戸惑いがある。現役時代を思い出しつつ記入するには、現状とのギャップがある。(労働形態、労働環境等) 結婚離婚感の変化の中の子育て、社会環境の変化の中で男女共同参画を無理に縦割りで推行するのは困難を感じる。制度がどのような社会を目指すのか良く理解できないことが多い。(70代以上男性)
- 耳の不自由な人が話のできる環境、高齢者になると文章の意味など、情報を得ることが出来ない為通訳できる人がいると少しは助かる気がします。(70代以上男性)